昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和46年7月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

no.22.23
6.7 合併号
1971



BADMINTON WEAR



コート上の

メタモルフォーズ

ときには、蝶のように。ときには、豹のように。
シャトルを追うあなたは、一瞬一瞬に、変身する。
ヨネヤマの、ワイユースウェアをまとったあなたは、
もうひとりのあなたになる。その一瞬が、美しい。
それは、コート上の華麗なメタモルフォーズ。
バドミントン・ラケットで、一流のヨネヤマは、
バドミントン・ウェアでも、一流のヨネヤマです。
シャツ／ショートパンツ／スカート／ワンピース

ヨネヤマラケット

パリの休日

Holiday in Paris



An wnknown painter is busy painting portrait of miss. M. Aizawa (at Mont Martre).



reet corner in Copenhagen, Denmark



Miss. Takagi, All England Ladies Doubles winner, with U.S. player





During the All England Championships, players were welcomed by world-wide famous auto Rolls Royce

百聞一見にしかず　見知らぬ土地をたずねて、見知らぬ人々と言葉をかわし、肌をふれあい、見聞を広めることは、人の心を豊かにする。

海外遠征は、試合のためだけにあるのではない。それは、まことに、経験を深め、人生をよりよく生きるためのものでもある。

わが日本の代表として、今日、ヨーロッパ、アメリカ、カナダ等をまわった彼や彼女たちが、そこでなにを得たのかは、われわれにも、本人自身にも、よくはわからないにちがいない。

「外国に行けば、人見知りをして、自分たちだけで固まりたがる」とかく日本のスポーツマンたちは、こう批判されてきた。

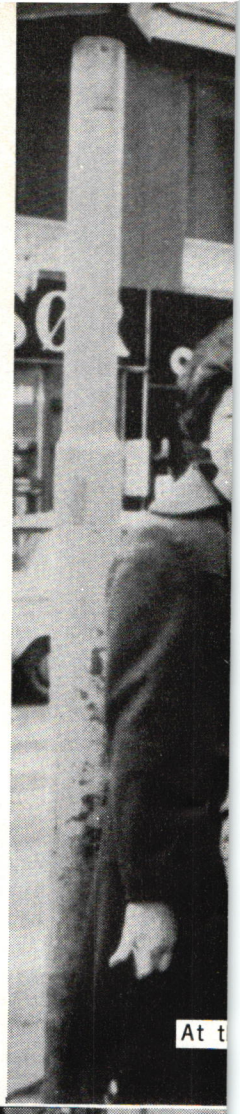
しかし、この写真で見る限り、バトミントンの選手たちは、底抜けに明るく〝異郷〟など、少しも苦にしていないようだ。

こうしたことがわかっただけでも、収穫だろう。

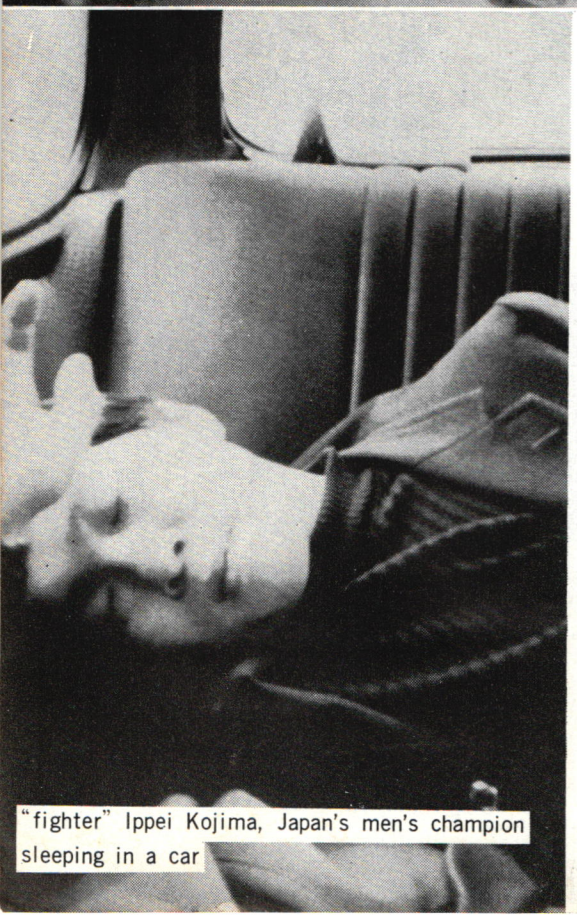
（撮影・選手団一同）



At the receiptior held by Japanese residents in Denmark



At t

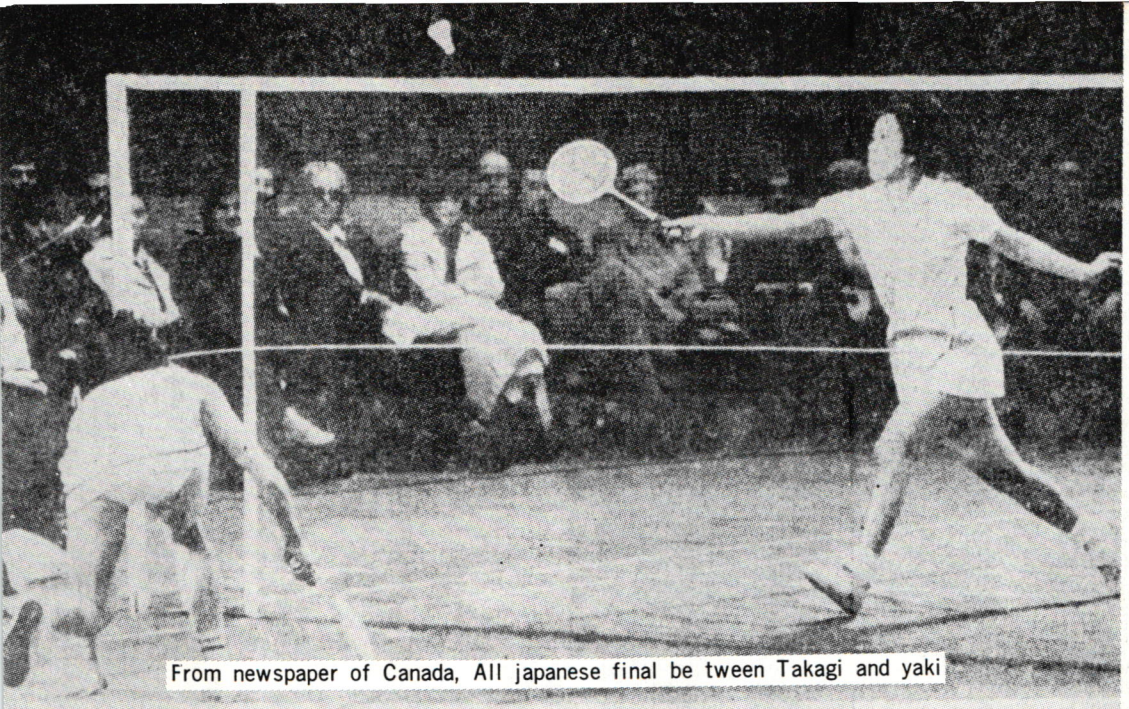


"fighter" Ippei Kojima, Japan's men's champion sleeping in a car



At the door of the badmintan club in Canada

外国の新聞から



From newspaper of Canada, All japanese final be tween Takagi and yaki

Hiroe Yuki, right, gets set to put away the point against fellow-Japanese Noriko Takagi en route to women's single victory

Kojima var nær sejren over Hartono

Japaneren havde matchbold i 2. sæt mod verdensmesteren, der var dybt rystet, men overlevede krisen og vandt kampe

Af Sv. Aa. Jensen

Aldrig har man set verdensmesteren Rudy Hartono så træt og så synligt rystet og usikker, som da han i aftes i K.B. Hallen i en flot og forrygende badmintonfinale tabte 1. sæt 14—18 til den 1,56 meter høje japaner Kojima og i 2. sæt måtte se japaneren få matchbold ved stillingen 14—12. Det var den handlingsmættede kamps dramatiske kulminaks.

Men Hartono, der ved denne lejlighed afslørede, at han kun er et menneske, viste sig dog alligevel at have overmenneskelige kræfter og nerver. Han overvandt krisen, tog sættet 15—14 og vandt det tredie og afgørende 15—11.

Men efter de nervepirrende fem kvarter, hvor der blev ført badminton af en klasse som aldrig før set i et land, der ellers er godt rustet, må Hartono frede sig for første gang i fire år ikke at være trefoldig favorit ved verdensmesterskaberne i London.

Kojima formåede hvad ingen anden siden for Indonesien havde været i stand til — at ryste Hartono, så denne en overgang syntes på hen ikke turde sætte sit sædvanlige overvældende offensive spil, førti japaneren retfærdigt alt.

Under Kojimas stærke pression i første og andet sæt var det fuldkommen lige meget, hvad Hartono gjorde med bolden, hvor hårdt han smashede, og hvor raffineret han søgte at udplacere sin modstander. Kojima for rundt som en skygge på sine to små ben og sendte bolden retur fra selv de mest håbløse vinkler.

Blandt de danske tuspillere er der en overdreven angst for at komme ind i nærdueller med Hartono, fordi indonesieren anses for overvindelig her. Kojima ikke blot turde, men var i længe perioder hans overmand ved nettet. Så længe han var det, var det ham, der dirigerede kampen.

Da Kojima i andet sæt tog sig sikker en føring som 11—3 havde man nærmest medlidenhed med Hartono, denne badmintonsportens gentleman, der selv ikke i de mest pinlige situationer faldt og fristet til at lave den mindste form for trusler for at intimidere modstanderen.

Man enlevede pludselig at se Hartono spille ganske ordinær badminton, og endog have bevaret med at gennemføre sin frygtede forhåndssmash. Mange kom flere gange serve i nettet eller lade sig overrumple, når Kojima gudbelig varierede sine korte server med en lang. Hartono, der mest målbevidst påtager sig kan bedømme som en bold er ude, havde tårnge fuldstændig mislykkes. Men først og fremmest manglede han hurtighed i sin mangfoldige

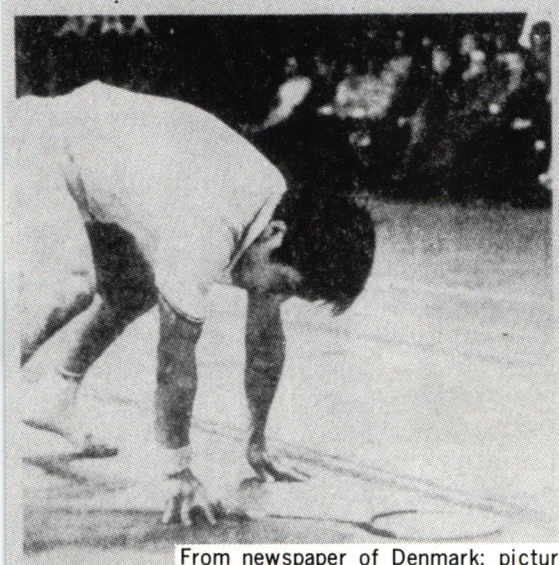
Ind imellem opnåede [illegible] lange dueller, hvor Kojima havde ringe kondition, og herfra [illegible] fra de 3000 tilskuere [illegible] Hartono.

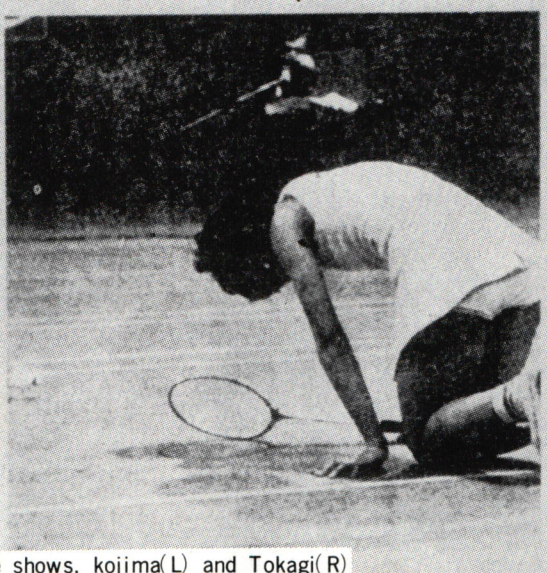
Da Hartono i 2. sæt [illegible] tilstand til 14—14 [illegible] havde [illegible] dristighed at bede [illegible] ud fra den betragtning Hartono igen var kommet foran og meget sværende [illegible] sejr, og kunne [illegible] kampen med et held gå [illegible] den gik ikke.

Det slog Kojima perfekt at have været så utroligt [illegible] ved at vinde 1. 3 sæt kom [illegible] tens første 12—3, hvorefter [illegible] sorte arme kræfter [illegible] ik reduceret til 11—12, før [illegible] sejr sattes trumf på.

Dameturnerets første kvartfinale [illegible] god halv times tid, og her [illegible] det vertinderække, at den [illegible] Lang, som man egentlig [illegible] var passet i angle beskedne [illegible] favoritten Hiroe Yuki 11—[illegible] 4. Yuki vinkede lavt ved [illegible] af og selv er syntes mere [illegible] sejren i at holde bolden [illegible] end at afgøre den.

Damedoublefinalen var [illegible] nutten. Den bestod af [illegible] lange returneringer [illegible] en eneste opfarende netdue[illegible] lang og Yuki vandt 15—10, [illegible] over deres landsmandinder [illegible] og Atsuko.



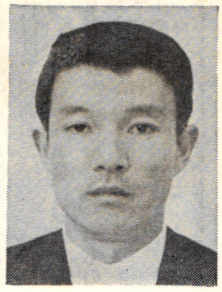


From newspaper of Denmark; picture shows, kojima(L) and Tokagi(R)

Han tabte – Japaneren Kojima er i gulvet — udspillet af verdensmesteren Hartono. (Foto: Jørn Stærke)

Han vandt – Noriko Takagi udspillet, men kun midlertidigt. Noriko kom op og sejrede.

私のひとこと



まだ貧しい〝社会体育〟
指導者の考え方にも問題

報知新聞運動部
武藤一彦

公園や体育館では日常茶飯事。驚いたのはレンゲの咲き乱れる田んぼのアゼ道、海岸の松林の中で、強風をさけながら、バドミントンに興ずる人たちを見たことだった。

最近、社の企画で〝市民のスポーツ〟を取材する機会が多くなった。バドミントンに限らず市民のスポーツする姿を見、その熱意に驚き、うれしくなったものだ。

だが、同時にその〝行きどまり〟も見た。ふらっと歩けば、どんなところでも、いつでもスポーツする姿にぶつかった。みんな飢えているんだな、と思う。だが、こんな思いは、ほんの当初だけ。企画がなくなる。さて何か、と探す段になるとサア大変。ひっそりと落ちついてスポーツを楽しむ、美しい姿はそうそうなかったのである。

施設不足、指導者不足…不足だらけ。市民の側にも責任はある。「スポーツするのに、金がかけられますか」といった〝めくら〟が多い。取材の〝行きどまり〟でもあった。

文部省と体協がタイアップして〝国民総体育〟をめざす。が、日が浅く、底も浅い。

そんな中で市民のスポーツを支えるのは一体なんだろうか。狭い行動範囲で感じたのは次の四点。①豊富な施設②熱心な指導者③営利事業④市民の盛り上がり――これがすべてそろったとき、社会体育の一応の基盤のできあがりといえるだろう。

が、残念ながら現状では条件の一つ一つが分散している。つまり人口五万―十五万のブロックにバラバラに存在するだけ。施設はあっても利用されていなかったり、市民のやる気は施設不足がブレーキをかける、といったぐあいだ。

しかし、こうした問題点は解決しやすい。お金と時間がちょっぴりあればいい。幸い政府のキモ入りで施設の増設が叫ばれ指導者づくりも体協が一手にひきうけ。ここ数年後には形は整う。ここで懸念したいのは、むしろ、形が整ったあとのことだ。一つだけ具体例を示そう。

熱心なスポーツ同好者の集りを見た。みんな楽しそうに和気あいあいとやっていた。だが、一人の指導者がやってきたとたんに、雰囲気はこわれてしまった。ある母親をさして、その指導者はいったものだ。「ダメです、ダメ、ダメ、そんなラケットの握り方じゃ」

競技スポーツ全盛の日本。そこから生れるスポーツは〝楽よりも苦〟を尊んだ。そんな土壌が〝こうるさい〟指導者を生んでいる。

何年か後、日本にも欧米なみのクラブ・ハウス制度が誕生するだろう。が、楽しかるべき場所に場ちがいの指導者。考えただけでもゾッとする。

《今月号のダイジェスト》

★ユ杯代表きまる　毛利監督以下のスタッフと候補選手八人が決まった。九月から本格的合宿にはいる予定。ユ杯は来年五月末から六月初めにかけて東京で開かれることになりそうだ。

本号では、このニュースとともに、ワイド記者座談会を開き毛利監督の声とあわせ、選手強化やPRに関する意見、希望を収録した（P6～）

★小島はなぜハルトノに勝てない　今春の海外遠征で、日本のエース小島は、ハルトノをあと一歩に追いつめながら敗れた。ハルトノに勝つことは、日本のト杯王座にもつながる。そこで、小島選手本人と内藤日本協会審判委員長の対談で、両選手のちがいを徹底的に追求、分析した。数回に分けて連載する。（P18～）

★海外遠征報告　小島問題と関連して、遠征選手団のレポートを特集した。例によって、楽しい〝日記〟もあり、暑さをふっとばすクリーン・ヒットになりそう。（P22～）

★悲しいときには星を見る　大学球界に、女子のホープが登場した。昨年のインターハイ・チャンピオン陣内裕子（日体大一年）。甘えん坊だがシンは強く〝もうれつママさん〟に育てられた陣内選手の素顔をスケッチしてみる（P28～）

★ネパールもがんばっているぜ　ヒマラヤのふもと、ネパール国にコーチに出かけている山本君から便りが来た。親日ムードが強く「うまくなるため、ぜひ選手を日本に連れていきたい」と手紙は訴える（P30～）

★バドミントンのスポーツ少年団をさかんにしょう　日本にスポーツ少年団が生れて十年。全国で約60万人がいろんなスポーツを楽しんでいる。しかし、残念ながらバドミントン少年団は全国でも、ごくわずかしたない。少年団のつくりかた、実態をレポートしてみた。（P30～）

★北から南からは、ユ杯のエース高木、湯木、竹中選手の近況お知らせ。竹中さんは遠征で痛めた足をたたかっている。みんなで激励しよう。

★そのほか、久しぶり「読者の広場」が登場、よそのスポーツ界の話題「私のクラブ」（福井銀行）シリーズ「シャトルの話」など満載。

監督に毛利、コーチに堺氏決まる

ユ杯（来年六月）の日本代表チーム編成

候補選手は高木、湯木ら八人

日本協会は第六回世界女子選手権（ユーバー杯）の日本代表チーム、役員三人と候補選手八人を下記のように決定、七月五日付けで発表した。

役員は常務理事会、競技力向上委員会を経て承認されたもので、監督には前回（69年）のコーチだった毛利清志氏、コーチとマネジャーは、毛利新監督の意向を入れて、堺栄一、山本洋彦の両氏と決まった。

選手は、次ページのような候補選手選考会の結果をもとに、競技力向上委員会が選んだもので、全部で八人。

このうち、竹中悦子（ヨネヤマ）は負傷のため、高坂薫（青学大）は一身上の都合で選考競技には参加しなかったが、これまでの実積をくんで、候補に入れられた。

選手団は九月から強化合宿にはいり、来春の全英選手権参加（全員かどうかは未定）をはさみ、五月まで延べ五回にわたる合宿を行なう。

この間、有望な素材などが出た場合は、候補への追加、一部選手の入れかえなどの余地が残されているが、今回の八人は実質的な代表と考えられる。

このうち、試合のためベンチに入れる選手は六人までと決まっている。

今回の八人のうち、前回も代表だったのは高木、湯木、相沢、竹中の四人、実際に試合に出たのは高木、湯木の二人だけであり、三年間の時代の流れの早さを感じさせる。

第六回ユ杯は、IBF（国際バドミントン連盟）からの指示によると、来年五月二十九日から六月三日、東京でとなっている。

日本としては、東京での開催には賛成（近く総会で決める）の意向だが、期日については、今後、国内事情を考えた上で検討する。しかし、大幅な変動はない見込み。

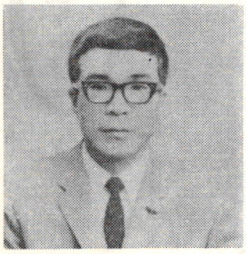
ユ杯は、いわゆる〝世界選手権〟として行なわれるのは、インターゾーンからで、その組み合わせは別記のとおり。

今回からルールが変わり、世界四地区のゾーン代表とともに選手権国（日本）もインターゾーンに出場する。

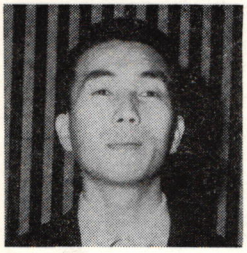
このため、日本が優勝するには二試合しなければならない。日本は66年に初参加で優勝、69年に初防衛に成功しており、今度優勝すれば第一回―第三回の米国の記録とタイになる。

インターゾーン組み合わせ

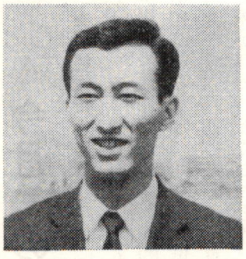
米州ゾーン代表
アジアゾーン代表
豪亜ゾーン代表
欧州ゾーン代表
選手権国（日本）



毛利監督



堺　コーチ



山本マネジャー

日本選手団へ

⊙……役　員……⊙

▼**監督　毛利清志**（四四）日本体育専門学校出、日本協会常務理事、指導委員長、第五回ユ杯コーチ、岡山・山陽女子学園高教員

▼**コーチ　堺　栄一**（三三）早大出、河崎ラケット工業、日本協会競技委員、第六、七、八回ト杯代表、68年全米オープン複2位、70年全日本総合複1位。

▼**マネジャー　山本洋彦**（三九）慶大出、北辰電機、日本協会審判委員、第五回ユ杯大会マネジャー

⊙……候補選手……⊙

▼**高木紀子**（二六）日女体短大出、弘文堂編集部、158㌢、50㌔。第四、五回ユ杯代表、71年全英選手権複1位、単ベスト4、全米オープン単1位、複1位、カナダ選手権複1位、単2位。

▼**湯木博江**（二三）日女体大出、河崎ラケット工業、161㌢、58㌔、第五回ユ杯代表、69年全英選手権単1位、70年全日本学生単1位、全日本総合単2位、71年全英選手権複1位、全米オープン単2位、複1位、カナダ

若手、予想外の伸びなやみ

ユ杯代表候補選考競技会

ベスト4に 相沢，高木，湯木，柴山

第六回ユーバー杯の日本代表候補選手を選考するための競技会は、六月二十七日午前十時から、東京・北辰電機体育館で行なわれた。

参加資格は昨年度の全日本総合選手権単ベスト8、全日本実業団、社会人、教職員、学生、および全国高校の各選手権のベスト4まで。このうち竹中（ヨネヤマ）高坂（青学）小片（日体大）の三人が棄権、実際に出場したのは、十七人だった。

試合はトーナメント制で行なわれたが、優勝者を決める大会ではないため、準決勝までで打ち切った。

× × ×

ベスト4には順当に高木、湯木、相沢、柴山が勝ち残った。しかし、柴山は今年始めから家庭の都合でほとんどトレーニングしておらず、結局その無理が出たため（ヒザを痛めていた）準決勝の対湯木戦を棄権した。

一方のパートでは高木×相沢が対戦したが、フルゲームのすえ、相沢にがい歌があがった。高木は相変らず、要所では天才的なプレーの片リンを見せていたが、やはり試合の数が重なりゲームが長びくと、スタミナに不安があるように思われた。今後の合宿練習などを通じて、どう修正していくか注目される。

この点、進歩のあとが見えたのは相沢。これまでは、どちらかというと、ダブルスのパートナー竹中のかげにかくれ、ある意味では竹中にたよる点も見えたが、竹中が今春の海外遠征で負傷、練習も一人でやらなければならなくなったため、精神的な強さが出かかっている。これをどうのばしていくかが課題といえそうだ。

反面、ものたりなかったのは新鋭グループ。早めにキャリアのある選手と対戦した不運はあるにしても、秋本、西尾、佐伯、陣内らの試合内容には、くいたりぬフシがあり、観戦した日本協会競技力向上委員会のメンバーも、顔をくもらせていた。

これが、結局は、候補を選考会から六人、それにプラス実積で高坂、竹中を残して八人にとどめざるを得ない大きな原因となった。毛利監督は、当初、候補のワクを十二人にひろげたいと主張していただけに、残念なことである。

試合結果、次のとおり。

▼一回戦

石崎（東大阪短大）2（1111—14）0天野（東海女短大教）

西尾（四条畷学園）2（1111—36）0大橋（豊田織機）

▼二回戦

堀川（日体大）2（1111—24）0山本（琴平電鉄）

柴山（東大阪短大）2（11—7 11—7 11—11）1佐伯（奈良一条高）

高木（弘文堂）2（1111—7 1111—2）0秋本（四条畷学園）

高崎（東大阪短大）2（1112—11 1111—0）0陣内（日体大）

池田（三菱電機伊丹）2（1111—20）0小片（日体大）

相沢（ヨネヤマ）2（1111—20）0徳永（長崎丸尾中教）

湯木（河崎）2（1211—105）0石崎

▼三回戦

湯木 2（1111—46）0 西尾

柴山 2（1211 9—11 11—7 11）1 堀川

高木 2（1111—84）0 高崎

相沢 2（1111—11）0 池田

▼準決勝

湯木 棄権 柴山

相沢 2（11—4 9—11 12—7 11）1 高木

選手権複1位、単1位、第六回アジア大会代表。

▼竹中悦子（三）新潟青陵短大出、ヨネヤマラケット、163㌢、55㌔、第五回ユ杯代表、70年全英選手権単1位、全日本総合単1位、複1位、71年全英選手権複ベスト4、カナダ選手権複2位、第六回アジア大会代表。

▼相沢マチ子（三）新潟青陵短大出、ヨネヤマラケット、163㌢、53㌔、第五回ユ杯代表、70年全日本社会人単2位、複1位、全日本総合複1位、71年全英選手権複ベスト4、カナダ選手権複2位、第六回アジア大会代表。

▼高坂 薫（三）青山学院大四年、157㌢、55㌔、70年全日本総合単ベスト4、東日本学生単1位、71年関東学生単1位第四回国際学生大会代表。

▼柴山きよ子（一九）東大阪短大二年、162㌢、48㌔、70年全日本学生単2位、複1位、西日本学生単1位、複1位。

▼高崎弘子（一九）東大阪短大二年、156㌢、54㌔、70年全日本学生単3位、複1位。

▼石崎茂子（一九）東大阪短大二年、155㌢、53㌔、70年全日本学生単4位、西日本学生単2位、複1位。

そ普及発展につなげよう

第2次防衛戦を迎えるにあたって

優勝だけでは…
…成功といえぬ



第六回ユーバー杯女子世界選手権大会の日本選手団が決定しました。選手は一応〝候補〟という呼び名になっていますが、実質的には代表団といってさしつかえないと思います。

この大会は、正式日時は決定していませんが、来年五月末か六月初めに、ふたたび東京で開かれます。

IBF（国際バドミントン連盟）の規約では、同じ国で二度続けて開催はできないことになっていますが、実は「日本でやってほしい」というのは、IBF自体から出た要望で、それだけ、日本の実力や運営力が認められたことだと思います。

三年前の第五回大会が東京で行なわれたときは、最終日に一万人の大観衆が押しかけ、これまで〝マイナー・スポーツ〟といわれていたバドミントンに、画期的な一ページを記録したわけです。

本誌「バドミントン界」もこれがきっかけで創刊されましたが、以後の日本のバドミントン界の活動は、やや低迷ぎみで、せっかくのチャンスをフルに活用しなかった、との批判もあります。

そこで本日は、バドミントンばかりでなく、スポーツ界を広く取材しておられる記者各位から、ユ杯を成功させ、同時にそのエネルギーを、バドミントンの発展につなげるには、どうしたらいいか、ご意見、助言を給りたいと思います。よろしくお願いします。

（本誌編集部あいさつ）

〝線香花火〟では困る
もう使い果たした前大回の遺産（人気）

木村　バドミントンは日常活動が不足している。第一に、東京で大きな試合が非常に少い。国内試合もそうだが、定期的な国際試合もない。

後藤　全国のスポーツ記者の大半、大きなスポーツ競技会の大半は東京で行なわれている。それだけ競争が激しいわけだが、その中でバドミントンは年頭の女子チャンピオンズ、二月の社会人×学生という特殊カードのほか、年末の全日本総合があるだけだ。

はっきりいって、年に一つでは、書きようもないし、日常の盛り上げようもない。

若松　新聞にのらないもの、

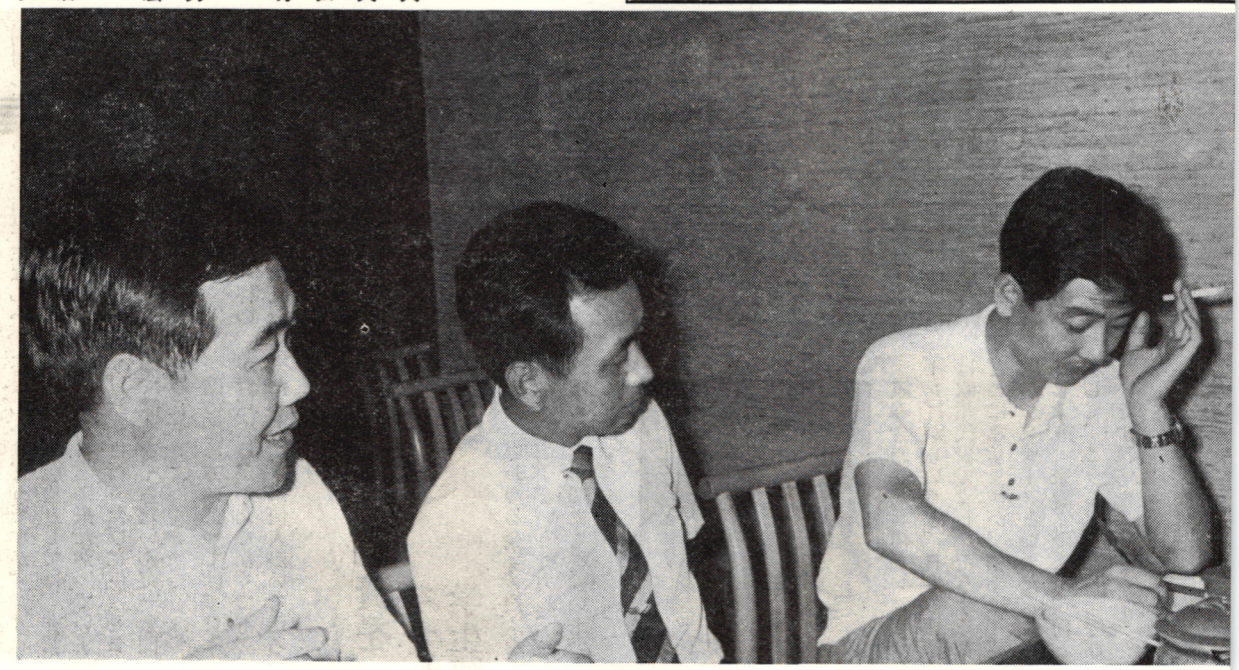
今度こ

ユ杯の

座談会
担当記者

出席者

サンケイ新聞　木村照夫
読売新聞　小林範夫
東京新聞　後藤忠弘
東京12チャンネル　若松　明
〈紙上参加〉
共同通信　竹市幸男
日刊スポーツ　盛川　宏
★　★　★
日本協会広報委員会　秦　浩
ユ杯候補選手団代表　高木紀子



大きく扱われないものをTVにのせるのはむずかしい。

バドミントンは、海外遠征はかなり多い。他の種目にくらべてもヒケをとらないと思いますよ。だが、外国を呼んでくるのが全然ない。こんな変な競技団体も珍らしいですね。

木村　日本の女子スポーツで世界タイトルを持っているのは卓球、ソフトボール、バドミントンと三つですね、バレーが前に持っていたが。

そんな強い競技で、マスコミに取り上げられる率が極端に少いのも珍らしい。つまり取り上げられるようなことをしていないからだが。三年に一回、ユ杯を持ってきたって〝線香花火〟みたいなもので、あとの二年間は、一般ファンにもマスコミにも忘れられてしまう。

竹市　前回（六九年）の大会で日本が初の王座防衛を果たし最終日には一万人の観客がはいって大騒ぎをした。しかし、あのときの〝財産〟はもうない。その後、手を打たなかった。

是非必要、外国招待の試合

前景気の盛り上げに
国内試合の日程も再考せよ

盛川　また一から出直しでは、なんのために、この前あれだけ苦労したり喜んだりしたのかわからない。

ユ杯で残ったものといえば、まあ、いくらか益金は出たかもしれないが、ほかに「バドミントン界」が発刊されたこと、何人かのマスコミ関係者が関心を持つようになったこと、女子のチャンピオンズが始まったことぐらいだ。

しかし、これらすべてはマスコミの協力あるいは企画で、協会から、自発的に生まれたものは何もないといっていい。

小林　国内試合のことは、またあとで触れるとして、まず国内試合の整理のことも考えてもらいたい。

同じ月に鹿児島で実業団、山梨で社会人、東京で中学生大会と三つも重なるようなスケジュールに、よく平気でいられる。

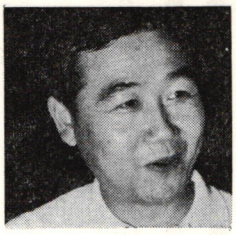
社会人や実業団はそのつど引き受け手がなくて、すったもんだする状態だ。世界一強くて、国内では試合をきちんとやれないアンバランス。情けない。

竹市　要するに、普及発展はマスコミとの密接な関係なしには存在しない、ということを、

まず認識してもらいたい。

木村　それでこんなことがあるんだ。私の社でやっている春の選抜高校バレー。これに出た角館南（秋田）の某エースは左右両方使えるんだが、たまたまテレビで放映された試合のとき右肩を痛め左だけで打った。

そしたら、たちまちファンレターが一日に50通ぐらいくるんですね。中には「これは私のおこずかいだ」といって、五百円同封してくる女子中学生なんかいるんですよ。テレビの威力はすごいものだ。



木村照夫氏

若松　ユ杯まであと一年ということから考えると、なんとしても一発、いい国際試合がほしいところですね。

どこの競技団体でも、ユ杯のようなビッグゲームをひかえたときは、必ず前景気をつけて盛り上げるでしょう。そうすることによって、一般の関心が高まっていく。

後藤　皆さんもご存知と思うが、現に今春、国際試合をやろうという話が持ち上がったことがある。テレビが関係した話だが、残念なことに話し合いや準備のタイミングが悪く、今春は見送りになったが。

〝世界サーキット〟も可能
勇気と決断をもって当れ 外人も来たがっている

――それはどういう話でしたか。

後藤　欧米の国際競技シーズンは、デンマーク選手権から全英、全米、全カナダと来て終わるわけですね。

これを一つのサーキットとしてとらえる。米国まで足をのばして外国選手の何人かを、日本経由で帰らせる。そして日本でそのサーキットの最終戦という権威ある形のものをやる、という方式です。

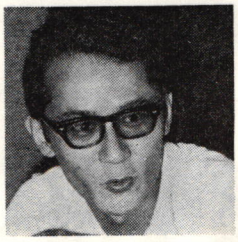
盛川　IBF（国際連盟）にわたりをつけ、これを公認カードにすることも可能だ。今年の世界一は日本で決まるんだ、という方式もできるだろう。各大会の順位で点をつけて…。

――高木さん、外国選手の反応なんかはどうですか。

高木　一般論としては、非常に、みな日本に来たがっています。欧州に行くたびに「なぜ日本で試合をやらないんだ」と聞かれますよ。

話の進め方によっては、日本が費用まるがかえでなくても、来たがる選手が何人かいるだろうと思います。

まず先行投資を
みずから具体策立てよ 学生陣でもやっている



若松明氏

若松　いわゆる金髪、白人を日本人が倒すという魅力ね、これは日本人の間にも根強いものがあります。

組み合わせ（ユ杯インターゾーン）からいうと、日本の相手は欧州代表ですね。そうするとどこになりますか、相手は、英国かデンマークといったところでしょう。来春までには、何とかして、こうしたところを呼びたいですね。

秦　非常にいいアイデアですね。協会幹部の頭の中に、すでにこの話がはいっているなら、是非、実現できるように進言したい。

後藤　協会は〝寛容と調和〟より〝勇気と決断〟を持つべきだ。百円玉一個にぎって、これで何をやれるかではなく、百円を千円にすることを考えて…。

大きな視野に立とう
専用体育館建設 決して夢ではない

竹市　全くその通りだ。試合はプレーヤーのためにあるにはちがいないが、それだけではない。観客と報道と、三者一体になってはじめて本当のスポーツといえる。

バレーやサッカーとちがって個人競技ですからね、五人の選手団で充分だと思うんです。他の競技にくらべて、経費もそんなにかからない。

木村　働きかけを待つ、というような消極的な態度でなく、自分の方から企画を煉って具体案を出し「どうだ」というかたちでテレビに呼びかければ、やれるように思うんです。

話がそれるけど、バドミントンには健康なお色気もあるしねえ。

盛川　とにかく、呼ぶのにお金がかかるが、いったい人はいるかしら、というような心配が先き立つのでは、なにもできない。

まず、大勢のお客が来るような手を考え、入れる努力、売る努力をしなければいけない。はじめっから「このぐらいしか、観客を集められないだろう」の考えでは実際なにもできない。

後藤　この点は学連諸者の方が立派だ。関東リーグ戦のような大会にも、きちんと地元PRをして、千人、二千人と着実にお客を集めている。

日本協会は、全日本総合以外に入場料がとれない、と考えているのじゃないか。

かりにデンマークあたりを呼んでくるとして、平均入場料五百円で計一万人がはいれば五百万円でしょう。

木村　なにも東京で一度しかやらないで帰す手はない。大阪

でも名古屋でもやるというかたちで、その時は、日本協会がその協会に一定金額で興業権を渡せばいい。

バレーなんかでやっていることを少し勉強してもらいたい。

小林　私はね、日本がユ杯の王座を持っているうちに、うんとお金をもうけ、バドミントン専用の体育館ぐらいつくる、というような大きな考え方で物事を考えていかなければダメだと思うんだ。

そのためには、バレーやサッカーのように、のべつ外国を呼ぶことはないが、一つは必要だ。あとは国内試合を整備して、魅力あるカードをつくること。試合を通じて、いつもファンを身近かに引きつけないと。



小林範夫氏

ユ杯の強化策

監督　毛利清志

当初、候補選手団として、私は十二名のグループがほしいと考えていた。しかし、選手の質の問題、日本協会の資金的な問題等があり、一応、八名の線で進むことになった。

この陣容で私に課せられた命題は、いうまでもなく、ユーバー杯の防衛、別のことばを使えば世界選手権の三連勝である。

では、残された約十ヵ月を、どうすごし、選手を強化し、成功に結びつけるか。私なりに現在、考えている構想を明かにして、大方の理解とご協力をお願いするしだいである。

いわゆる合宿は、九月から、約五回、行ないたい。もちろんすでに一定レベルに達している選手たちであるから、何度か強化合宿をしたからといって、技術が急激にのびたり、逆に欠点が解消するというように単純には考えられない。

大試合で勝つには、技術、体力、経験、気力、それに、頭脳（作戦）が、すべてそろわなければならない。そこで、これらの諸点を解決するには、なによりも毎日の生活の中でのトレーニングが大切である。

手初めに、体力診断、運動能力テスト等を実施、基本的な問題点を点検の上、カルテをつくって、一人一人に渡す。選手はそれに書かれた点を忠実に、日常的に実行していく。

こうすれば、技術、体力については、合宿時に、その答えを見ることができ、さらにそこで選手の答えを再指導できる。

精神力は、これら日常と合宿でのたゆまぬ努力、苦しみを通じて養なわれるはずである。合宿では、さらに、一人一人が責任を持った存在としての自覚を高め、これをチームワークという形でねりあげたい。

しかし〝実力〟といってみても、実際の試合の場で、それが発揮されなければ意味がない。日本協会からの答えはもらっていないが、私としては来春の海外遠征に、できるだけ多くの選手を送り出し、ここで外人に対する自信を確めたいと思う。

押せばチエの泉わく

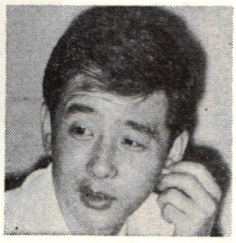
マスコミも協力する　ファンとの交流も必要

小林　この間、電車の中でバレー・ファンの女子高校生たちの話を聞いたら「一度いい試合を見ると、見るクセがついてしまって、この試合だけは行かない、というようなわけにいかなくなる」といっていた。

我々が学生時代に全盛だった映画を見に行かないと落ちつかない、あれと似たようなものだが、このためには、やはり試合の積み重ね。この中から本当のファンが生れ、育ってくると思うんだ。

後藤　そうだ。これまでみんながいったようなことが、直接ユ杯に関係ない、というような考え方をするんだったら、協会は道を誤る。

ユ杯はバドミントン発展の一コマにすぎない。この前後をことばは悪いが、徹底的に利用していかなければならない。



後藤忠弘氏

あまり一般論ばかり展開しても、なんだから、このへんで少し、大会そのものに密着した話題に進もうか。

小林　大会のプログラムは、この前、四百万かかったそうだが、収支はどうだった。

秦　赤字だったと思います。

小林　多大のお金と労力をかけて、もったいないよ。いっそどこか代理店のようなところに一任して、広告のページは、ある特定の企業に製作費と行って来い、にするような考え方で。

ただ、内容は吟味して、これ一冊持っていれば、バドミントンのことがすべてわかるというやつなら、五百円でも売れると思うんだ。

木村　そういうようなことで我々が協力できることがあればいくらでもお手伝いします。

小林　大体、役員の数も多すぎる。十人でできるそうだ、本当は。審判は何人いるかしらないが。

竹市　それまでの段階で、まず合宿や試合を通じ、あるいは別の企画を通じて、選手とファンの交流を、もっともっとやってもらいたい。

プログラム、ポスター、マスコット類などは、できるだけ早めにつくって、一般ファンに知らせ、手を変え品を変えして波状攻撃をかけることだ。

それから、やはり今度の大会のキャッチ・フレーズというかそんなものをブチ上げて、おやっと飛びつかせるようにしてほしいね。

とにかく、打つ手は早めに、しかも何回も、だ。

成功のかぎ〝三者一体〟

地方の参加意識育てよ
照明、カラー時代考えて

後藤　地方の人で、実際に試合を見て来られなくとも、観戦したような、或いは参加意識を持つような手ののばし方が必要だ。それでこそ、全国的に関心が高まり、盛り上がる。

――高木さん、選手との交流という話が出ていましたが、いかがですか。

高木　もちろん、監督さんのお決めになることですが、私個人としては、いいことだと思います。私たちも時々、いろんなところに呼ばれて、コーチに行ったり、話をしたりしますが、私たちの持っているものが少しでも、大会を盛り上げ、発展につながるのであれば、うれしいと思います。



高木紀子氏

プレーヤーにとっても、がらんとした会場でやるより、大勢の観客に注目され、テレビのカメラを前にした方が、緊張もするし、ファイトもわいて来るものです。

若松　テレビとしては、あの照明の暗さ、あれにまいったですね。最近は試合によっては、少しよくなってきましたが、今やカラー時代ですからね。

いまのままでは、カラーだったら、とっても写せませんね。もっと改善するよう考えてもらいたい。

秦　それはできるわけです。

盛川　この前はひどかった。周囲がまっくらで、明るいのはコート上だけ。原稿を書くのにも目が痛くなる。カメラも写らないとコボしていた。

竹市　いずれにしろ、日本協会には、かなり強烈なパンチをくらわせる必要がある。

秦　協会もすべてわかっていることだと思うんですが。要はできるものからの実行ですね。

木村　一度、幹部と話し合う必要がありそうだ。

選手強化、日常が大切

前回より苦しい陣容
注意、体力と健康管理

――大部、時間もたちましたが、選手強化について、注文、助言などがあれば。

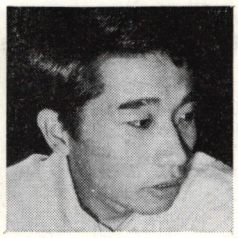
ここに毛利監督の基本的構想（別掲、前ページ）を取材してありますので、これを素材にお話を…。

盛川　前回のユ杯終了後「この次は大変だ、選手育成に充分配慮しないと」といっておいたが、残念ながら、ほとんど意識的な手が打たれずに来てしまった。

前回から引き続いての代表は四人、うち実戦を経験したのは高木、湯木だけ。これに続く層が安心できるほどでない。監督も苦しいだろう。

木村　バレーの松平全日本男子監督はいっている。敵地へ乗り込んで勝つには、実力が六分四分では苦しく、七―三の開きがないとダメだ、と。日本は地元の利もあるが、前回は世界チャンピオンだった湯木がトップバッターで、あえなく討ち死にした例もある。

小林　監督、コーチとしてはどうしても安心したい気持ちが先き立つから、手固い布陣を考える。だが、同時に次代のことも考えなければいけない。少くとも「自分が指揮していて、タイトルを失ってはこまる」というメンツにとらわれた立ち場で決めないよう望みたい。



秦浩氏

高木　前回は今井監督もかなり考えたと思うんです。竹中・相沢組を使うかどうかで。実力的には他と互角だったのですが、だからといって、即ち、出すことにつながらないものがある。もちろん、出ていても勝ったかもしれないが、実際はわからない。しかし反面、あそこで経験を積んでいたなら、とも考えられるし。

後藤　私は合宿というものは一年ぶっ通しでやれば別だが、そうでない限り、何回やったから目に見えて技術が向上するとは思わない。だから合宿の意義は別の点に求めるべきと思う。

もう一つ、トレーニング・ドクターかトレーナーを是非つけて、技術ではなく、運動能力の向上、健康管理に留意してほしいと特に注文する。

竹市　合宿時以外の平常時のチームなりにいるときの練習や心がまえがより大切だと思う。合宿についていえば、東京近郊の単一会場でやること。気分転換と称して、やたら変えるよりホームグラウンドをつくった方がいい。また取材側と選手団、役員の連絡を密にし、側面から選手団を盛り上げたい。

選手起用、割り切りも必要

経験は将来にプラスする

若松　出場する選手は理論上四人（単3、複2組）でも間に合うとすれば、必ず出られぬ選手が出てくるが、どこかで割り切らねばしかたない。残りにみじめな思いをさせたくないという人情論もわかるが、八人は〝候補〟といっても実際は代表。合宿にはいっただけでも、自分にプラスが大きいはずで、ムダではない。

秦　問題は一人一人の選手の気持ちを前向きにさせながら、充分、汲んでやる、これがチームワークというわけですね。

三度目の優勝が無事、達成されるよう、今後とも各位によろしくお願いします。



人間は何かを見失っているようです

スコーレ

●scholeギリシャ語●leisure(余暇)rest(休息)ease(ゆったり)の同意語school(学問)の語源—岩波哲学辞典より
●古代ギリシャ人はスコーレをすべての文化の根源と考えていた●スコーレは最も人間的な時間人間的な生活

人間も都市も砂漠化している現代

あなたにとって幸福とは、いったい何でしょう。GNP世界第2位の裕福さでしょうか。ヒッピーたちのもっている、あの自由な精神がそうでしょうか。この索漠とした現代、とにかく考えさせられます。

豊かで、しかも人間らしい生活を

スコーレとは、物質文明と精神文明の調和。つまり、豊かな人間社会のための環境づくりと豊かな人間生活のための物づくりにあります。テイジンが拡大していく、豊かでしかも人間性を尊重した世界です。

人間を愛し
人間を考え
人間に帰ろう
スコーレ
テイジン
TEIJIN 帝人株式会社

●スコーレを拡大するテイジン

天然資源開発　アフリカや南北アメリカで低硫黄石油を開発中。日本のエネルギー資源確保のため
石油化学事業　世界中の合繊生産に貢献。ポリエステルをはじめ、各種の合繊用原料の生産と輸出
合成繊維事業　豊かな生活環境、新しい生活行動パターンの創造。ファッションから産業資材まで
海外事業　人類の衣生活充実。世界10余か国へ進出。ポリエステルなどの生産技術で各国に協力
情報産業　知識社会・情報社会の拡大。ビデオ、X線、コンピューターのベースフィルムを生産
プラスチック事業　未来の生活を支えるエンジニアリング・プラスチックや汎用プラスチックの開発と生産
食品事業　健康社会の推進。理想的な食生活のための食品づくり。牛肉エキス、植物蛋白など
住宅関連事業　人間性を尊重した住宅空間、創造的な空間の建設。ハウジングからレジャー分野まで

ワー活躍中

ースター特集

主力3選手の近況は....

本号「北から南から」は、とくに趣向を変えて、ユ杯をになう、日本の主役、三選手の近況にスポットを当ててみた。

春の海外遠征から帰国した選手団のうち、ベテラン高木選手は、勤務を東京に。ラケット持



主将の職場

「編集部 高木紀子」・生れて初めて、名刺を持った。東京・神田の出版社、弘文堂への就職に際し、鯤淵年祐社長に怒る怒る注文した。「土曜日、休ませていただけませんかしら」

社長があっさり承知して、逆におどろいた。「わが社も、これを機会に、月二度の土曜休日を実施をテストしてみる」

高木さんは、日本女子バドミントンチームの主将だった。五年前、世界選手権（ユーバー杯）をとった。二年前、初防衛に成功した。

二十八歳。もう、現役を去る気でいた。それが、東京で来年開く大会での再防衛を、たのまれた。

東京にいないと、どうしてもつきでしょ。バドミントンって練習相手や会場に恵まれぬ。七て」。新しい職場でも、チャンピオンは、何度か、そういわれた。

をやめ、東京にもどった。

試合を見たことがない人は、出版社の仕事は、予期以上に難くいう。「要するに、羽根にあてるのが、やっとだ。

時間をかけずに三千枚の校正をする法、を最近習った。含軍

では、品出しも手伝う。

いまはもっぱら、校正係へ渡る前の原稿とにらめっこして、誤字をみつける。秋に出版する美術書の原稿だ。

「辞書と首っぴきなの。日本語、英語、フランス語。何語だか見当もつかなくて、赤くなっちゃうこともあるんです」

高木さんの入社を知って、田中二郎最高裁判事が、社長にいった。「ぜひ一度、コーチをお願いしたいですな」と。

しかし、新入社員は忙しい。コーチは、まだ実現していない。

一日に、入社一カ月を迎える。

（朝日新聞から）

クラブがそっくり後援会に——

五月晴れの五月十三日、東京・三鷹市家庭婦人バドミントン・クラブの招きで、湯木博江選手（河崎ラケット工業）が市立体育館で開かれた同クラブの講習会を訪問した。

当日は朝10時からの講習であったが、同選手らが着いた時には、すでに約50名近くの講習生（?）が会場につめかけていた。

世話役の沢登貞行氏から湯木選手および同行した鈴木華子さん（河崎ラケット工業）、日本協会・秦広報委員の紹介があったのち、早速、湯木、鈴木両嬢がコートに入り、まず、オーバーヘッド・ストローク、バックハンド・ストロークなど基本ストロークから講習が始まった。

各ストロークを分解、湯木選手が実際に打ってみせたあと、そのストロークを打つ心がまえ、ポイントなどについて語り、ママさん達が不明な点、疑問な点を質問し、湯木選手がそれに答えて進んだ。

サービス、クリヤー、ドライブ、ストレート、ドロップ、カット、ネットなどが同じような方法で解説されたあと、湯木・鈴木組と、市役所代表（?）の男子ペアとが模範演技をおこなった。定評ある湯木選手のバック・スマッシュや頭脳的なレシーブが見事に決まると、ママさん達の間からワッ！とざわめきが起きるなど盛りあがりも随所にみられた。

最後に4面のコートいっぱいにママさんが散りラリーを始めると、湯木選手らが間をぬって一人一人に助言してまわった。参加者全員で記念写真をとったあとで、近くのすし屋で、湯木選手を囲む懇談会が開かれた。

席上、秦・広報委員が次のようにあいさつした。

「日本協会は本年度〝社会体育〟振興を重点施策としている。バドミントンがこのような形で発展、家庭内で発言力のあるママさん方が、バドミントンに理解を示してくれていることは、底返拡大の意味からも大変にうれしい。

明年六月にはユ杯がまた東京で開かれる予定だが、これを成功させるには、協会、選手だけでなく、愛好者全員の〝参加〟が必要だ。新風を吹き込む意味でもママさんの参加による大会運営はPR効果も大きい。協力していただけるポストもあると思うので、協会首脳に進言して、ぜひ実現に努力したい」 ←

ウーマン・パ

〈北から南から〉—

....ユ杯へあと一年,

つ手で、なれない朱筆をにぎり本の編集や校正に。湯木選手は、ここに紹介するように、社会体育の指導も時おり。そして夜は高木選手と二人で母校で練習。竹中選手は、残念ながら負傷と戦っている。

—湯木選手は三鷹のママさん訪問

⬅また主役の湯木選手は「こういった講習会は初めての経験であり、うまく理解して頂けたかどうかわかりませんが、大変、楽しいひとときを過すことが出来ました。

技術的に多くを望むのは無理かもしれませんが、皆さんの前向きな姿勢は本当に頼もしく、地域スポーツの発展に少しでもお役に立てて嬉しい。今後も時々、訪問したい」語った。

雑談にはいると、最初の技術的質問は、いつしか、日ごろ鍛えた？井戸端談議にエスカレートした。

「今迄、コートと客席というへだたりがあったので…。でもこういうふうに話し合ってみると湯木さんについての新しい認識がうまれ、一層ファンになっちゃうワ」「そう、選手とファンが接する機会は多い方が良いと思うワ」

「今日からクラブの名称を改めて、湯木選手後援会にしましょうョ」「賛成！」「湯木さん、これからは私達がついているわ。頑張って、力強いわョーン」「ユ杯の切符のことならまかしといて。みんなサバいてあげるワ」「宴会係を引受るわ。パーティーなんかお手のものョ」「これからは、湯木さんの試合は欠かさず見るようにします」「ユ杯の時は期待してネ〝湯木さん頑張れ〟と書いた垂れ幕を持って応援にかけつけるわ」……等々。

さしものママさんパワーも今日ばかり終始湯木選手一色に塗りつぶされた感であった。

私のヒザよ、まがれまがれ

竹中選手、負傷と奮戦中

今春の欧州遠征中にヒザを痛め、2連覇を狙った全英選手権などを棄権して帰国した竹中悦子選手（ヨネヤマ・ラケット）はその後、検査の結果、左足副じんたい断絶ということが分り、目下、金沢にもどって療養を続けています。

このほど「バド界」の愛読者とファンの皆さんにあて、次のような便りが届きました。

× × ×

——六月の空は、つゆの訪れを前ぶれしているかのようにじわじわとむし暑い日中が続く毎日です。

ところで、ご心配をおかけしている足の具合ですが、長い5週間を過ぎギプスを取ってみたら、あわれにも、やせ細った左足と対面しました。情けないのと、みじめなのと……。

今は金沢の病院（入院中）で日に2回の理療をしています。毎日、ほんのわずかずつ曲っていくヒザを見ながら、早く治って欲しいとしらずしらずのうちにさすっています。

ようやく、90度ほど曲がるようになり、うしろにつくまでにもう二、三週間はかかりそうです。ギプスをはずした後の方が、よっぽど大変なのだと改めて思い知らされている昨今です。

時間があるだけに考えることも多く、また、いつも余り読めない本もがむしゃらに読みあさっています。

奥村先生（注、竹中選手の恩師）や友達がいつも来て下さり、バドミントンの本や、記録、おもしろい調査などを見ては、動けない分をいろいろと思いめぐらせています。

一日でも早く、トレーニングを始められるようになりたいと思っています。

うっとうしいつゆが、一日でも遅く始まり、一日も早くあけて欲しいと願っています。でも、あじさいの花だけは長く咲いていて欲しいですね。

協会の皆様、「バド界」の読者の皆様にも、よろしくお伝えザを曲げるとあと5センチでかかとにつくところまで回復しているそうです。

このような状態で、竹中選手は六月二十七日に東京で行われたユ杯代表候補選手選考試合をはじめ、七月の社会人大会などへの出場も不可能となりました。

協会の関係者および、竹中選手のファンにとって残念このいないが、それ以上に当の竹中選手の心中は察するに余りあります。

そこで読者のみなさん、この病床の竹中選手が、一日も早く回復できるよう、大いに激励してあげましょう。

下さい——（46・6・1付）

× × ×

また、六月二十二日にはいった連絡によると、金沢の病院での理療は六月いっぱいかかり、その後自宅から通院し、七月中ばごろ上京の予定で、現在、ヒ

〝最後まであきずに勉強できた〟

NHKテレビ バド教室 広報サービスに大きな反響

NHK教育テレビ「バドミントン教室」放送ご通知、確かに受けとりました。通知をいただかなければ、なにも知らずにいるところでした。ありがとうございました。

消印は18日18時―21時となっていますが、22日昼、郵便受けにはいり、手違いで、私が知ったのは、九時近くでした。

二、三人の男性に電話したところ、予定があるとのことで、翌朝七時、まだ眠っていましたが一女性に伝えておきました。

このような事情と、農繁期であるという理由から、私をふくめて、三人で拝見しました。

それから一カ月ほど経過した時点での感想ですので、定まった評価といえるでしょうが、結論として「終るまで、たいくつしなかった」ということです。参考までに書き添えますと、彼女らは、まだユーバー杯など知らない状態でした。

ひとつ、はっきりいえることは、すでにご承知のことでしょうが、このような通知をいただいた場合、ひとにすすめやすいことです。次回もよろしくお願いします。（桑原重行＝新潟県・中魚沼郡津南町貝坂）

編集部から――同様のお便りが、多くの読者の方から寄せられました。紙上から、まとめてご報告しておきます。

「バドミントン教室」については、本誌上でお知らせすると時期的に間に合わない、というので、とり急ぎ、ハガキで本誌年間講読者の方々に、ご連絡したわけです。

せっかくのいい放送も、知らなかったために、見なかった、ということになっては、もったいないので、今後とも、緊急の場合には、このような手段をとるつもりです。よろしく。

娯楽性、実用性あわせ企画の充実を

名プレーヤーの自伝的な物語りなどを連載してみては、どうでしょうか。いままでの「バド界」は、上達法や試合結果の記録等で、娯楽的といえば失礼かもしれないが、雑誌の持つ、そういう面が少したりないのではないかと思います。（瀬良信明＝大阪市東住吉区桑津町四の七）

×　×　×

（前略）→全道大会が行なわれた岩見沢スポーツ・センターには小島さん（小島一平）と堺さん（堺栄一）が来て、ダブルスの模範試合をして見せていただきましたが、さすがトップ・プレーヤーだけあって、どれをとっても完ぺき。大変すばらしいものでした。

また、堺さんには六月二十四日に、ぼくたちの体育館に来て、素振り、フットワーク、ハイバックなどを指導してもらいました。とくに、ぼくたちには、ハイバックはとても勉強になりましたし、思っていたよりはやさしくできるので、びっくりしました。

このあとで、ダブルスの試合をしてもらいましたが、アガってしまって、全然ダメでした。でも、堺さんのようなプレーヤーに相手をしてもらい、とても勉強になりましたし、とてもうれしかったです。これからも、こういう機会がたくさんあるといいと思いますし、後輩のためにも、どしどし実施してほしいと思います。

それから「バド界」に対する要望ですが、ぼくたちは勝敗よりも、バドミントンというものを、よく知りたいのです。ですから、上達法などを、どしどしのせてほしいですし、また「七月のトレーニング」などと題して、その月のトレーニング計画（各高校のようすでもよい）や一流選手のトレーニングや歩んだ道など、まだほかにもあると思いますが、そういう企画をどしどし、のせてほしいと思います。（川中二千朗＝北海道苫前郡苫前町字古丹別、苫前商高）

編集部から――一流プレーヤーからコーチをうけたとのこと、よかったですね。あなたのうれしかったようす、アがったさま、目に浮かぶようです。

さて、ご要望の件ですが、次の大阪・瀬良さんも、ちょっとちがった角度から、注文していますので、あわせてお答えします。ご要望はいずれも、ごもっともなことで、編集部としても全面的に同じ考えです。

ただし、一流の先生方、選手たちは、皆さんが想像する以上に忙しいので、なかなか、すぐ実現するのがむずかしい状態です。しかし、記録性、実用性、娯楽性は、雑誌の柱であり、必

読者のひろば



カットは読者の湊しおんさん（東京）寄稿

ず近くおこたえできるよう、努力いたします。

（お断わり）新潟の桑原さんからは、もう一つ提案がありましたが、次号に掲載します。



▲これは珍らしいバドミントン結婚式。外国の雑誌にあったものだが，大部以前は複写したので，出所が不明になってしまった。あなたも，こんな式はいかが。

ペン・フレンドをもとむ

ペン・フレンドを求む。バドミントンに青春をかけている高校二年の方、文通しましょう。

編集部のみなさん、生きてますか（あとになって、ごめんなさい）私は〝道産子〟はげんでいます。私たちの部は、新人戦三連勝に輝いています。暑さに負けず、がんばって下さい。

（坂本恵子＝旭川竜谷高二年　旭川市永山町一丁目五〇の五　〒078―02）

編集部から――最近、皆さんからのお便り、やや少なめになりつつあったのですが、ようやく息を吹き返したようです。

ペン・フレンドの件、大変けっこうですね。このような希望がありましたら、ほかの方も、どしどし、お寄せ下さい。

かゆいぞ、いっひっひ!!?

水虫、英語では〝スポーツ選手の足〟

「直接、バドには関係のないことかもしれませんが」と名古屋の読者、小林洋栄さんから、水虫についての随想が寄せられました。

×　×　×

〝スポーツ心臓〟とは、だれしもが、よく耳にすることばです。その〝スポーツ○○〟と名付けられている器官が、もう一つあるのです。それは〝スポーツ選手の足〟です。英語でいうと athlete's foot つまり〝水虫〟です。

スポーツマンには、この水虫がおこりやすいと考えます。とくにバドミントンは、年がら年中、体育館での練習、そしてインターハイのような大試合も七月～八月の暑いさかり。

汗も多くかくわけだが、あのソックスをはいた足は、さぞつらかろう。きっと悲鳴をあげているにちがいない。

水虫というのは、白癬菌というカビの一種によって起こされたものであるから、足にカビが生えたと思えばよいのである。

靴下も不潔になりやすく、足裏にマサツが生ずる。これが水虫にとっては、絶好の住居となるのではないでしょうか。当然気温とも関係が深く、気温が高く、靴がむれる、六月ごろから始まる場合が多く、涼しくなるにつれて、段々とよくなるのです。

ある本を見ると「水虫が化膿すると、リンパ管炎やリンパ腺炎を起こし、その結果、腎炎などにかかる」とありましたし、また夏季の合宿生活等においては、他の選手にうつりやすい、とも記されているのです。

いずれにしても、早くなおすことが大切でしょう。

（小林洋栄＝前中部学連委員長、名古屋市瑞穂区田光町三の五一、坂野方）



小島はなぜ、ハルトノに勝てない

トップ・プレーヤーの徹底的研究

——ト杯の王座を手にするために——

連載対談 ❶ 内藤安雄↑→小島一平

小島は、なぜハルトノに勝てないか——今春の海外遠征で最も劇的だったのは、全デンマーク選手権での小島×ハルトノの一騎打ちだった。マッチポイントまで行きながら小島の逆転負け。

この試合ばかりでなく、全英に四連勝しているハルトノ（インドネシア）は、目下、むかうところ敵なしの状態だ。

どうしたらハルトノを倒し、日本がト杯の王座をとれるか。本誌はこのデンマークでのフィルムを見ながら、小島選手本人と内藤安雄氏（日本協会審判委員長）に、ポイントを掘り下げてもらった。

——小島君は今回を含めて過去に五回、ハルトノと対決したわけですね。

なかでも今度のデンマークにおける一戦はバドミントン史に残る好試合であったと聞いております。そして小島君自身、ほとんど勝利を手中におさめながら、またしてもハルトノに逃げ込まれたという印象が強いのですが、このへんの分析から。

小島 やっぱりきびしさが一枚上、ということを一番感じます。とくに、せり合ってくると、この差が現われてくるんですネ。

日本の選手はせってくると、とにかく返せばよい、相手コートへ入れさえすればよいと考え、また若い頃からそのように教えられています。

まだ僕なんかでもそうですが、それがインドネシアの選手、とくにハルトノは、どんなに追い込まれた状態でも返球は決して甘くないのです。

これは小さい時や、普段の練習時からきびしく、鋭いストロークを身につけて、しかもミスを徐々になくしていく方法をとっているから、追い込まれても冷静なのです。

日本の選手は追い込まれた時どうしても相手のミスを待ち、弱気になる。ねばりの状態でも恐くなり、クリヤー一本にしても、ドロップを打つにしても入れることだけを考える。

即ち、受け身のプレーなんですね。そこへゆくと向うの選手



▲デンマーク選手権でハルトノに惜敗した直後の小島。地元の新聞から

はいつ、どんなに追い込まれた状態からでも、返球は能動的なのです。

それと一般的に、日本の選手は走りすぎるようです。最初のシンガポール遠征の時、ウオン・ペン・スン選手は秋山選手に向って「日本人はゲームで走りすぎる。もっと頭を使わなくてはいけない」と注意したそうです。

結局は大事な時に備えて余力を残す状態にしておき、常に三ゲームになることを予測してゲームを進めろ、ということなのですが、僕なんかも自信がなかったものですから、最初からバンバン飛ばすわけですよ。

一ゲームを簡単にとっても二ゲームのなかばあたりから体力がガタッと落ちる試合が多かったですね。



見のがせないリーチの差

フットワークで補う小島

――ハルトノの体格がバドミントンの理想的な身体といえるのかしら。

小島 そうともいえないと思う。むかしマレーシアにエディ・チュンという小がらながら名手が居たし、バネもありほとんどスマッシュを打たずにクリヤーばかりで相手をまわしてまわして弱らせるタイプでした。

僕は元来、攻撃型なんですが、それから防禦をマスターしていったのです。

――ハルトノが初めて日本選手の前に登場したのは確か41年の総合大会であったと思う。

その時は小島も勝ち、西野も文句なく勝ったのだが、それ以降のハルトノの成長ぶりは驚異としかいいようがない。この辺のナゾは？

小島 ハルトノが日本に初めて登場したときは、まだまだ未熟であったが、一年後に顔を合わせたときとは、見違えるほどに成長していた。

一年の間にある程度のトレーニングを積んだことも事実でしょうが、ストロークにおいても厳しいものを追求していったのでしょう。

僕も昨年あたりからようやく技術的にも、気持の上でも、互角に戦えるようになった。僕自身、何回も戦ったということもあるが、レシーブ力が身についたからではないかと思う。

いままでは攻撃が中心で自分自身満足していたし、攻撃すれば勝てる、という自信があったが、それだけではダメということをさとった。

内藤 いま、小島君がどうしてハルトノに勝てないのかということを自己反省してくれた。

練習に厳しい質的な差

絶対、受け身にならぬ強味

そして、その五分になって、なお勝てないというのは、私の考えでは、小島君のさきほどいった、ふだんの練習の差が出てきたということだと思う。

そのふだんの練習になにを心掛けるべきかということは、ひとつひとつのストロークが、自分のねらったところに、きわめて正確にコントロールされて、はいっているということ。

まあ、一流の選手であれば、相手から返球されたタマをどのストロークで、どのフライトでどのコースへ、しかもどこへという〝点〟と〝線〟を考え、それも瞬時に判断してゲームを進めていっているわけですね。

小島君がリードしているときは、スタートが非常によろしい。ネットプレーなどでも、高いところで捕球している。ところがリードされ始めると、動きがにぶってきて、ネットプレーも低いところで処理している。

逆にハルトノは、追い込まれても非常にきびしいショットをしてくる。これは立派だ。

我が国の選手が外国の選手に勝つには、こういうことをしなければならないという、よい示唆でありました。

小島君は身長が1・6尺、ハルトノは1・76尺、身長差がかなりあります。背の差というのは、いいかえるとスマッシュの角度の鋭さが違うことで、背が小さいということは、それだけリーチがない、守備範囲が小さいということですね。

これは戦う前、すでに条件としては四分六分なので、その二分の差、そのリーチのなさを小島君はフットワークで補って、五分の状態にもっていった。大変な努力をしたわけです。

たとえば一ゲームを小島がとり、二ゲームも11—3と大きくリードし、あと4点で勝敗が決まる絶対絶命のピンチでも、ハルトノには気の弱さが出ない。一つ一つのストロークが、正確にコントロールされて、四隅をたんねんについてくる。

小島に上手にリターンされると、もう一回、初めからやり直しをくり返し、少しもあせらない。正確に思ったところへシャトルをきめてくるということ、これはふつうの選手では、なかなかできないことだ。

一打の基礎練習に一時間も

正確無比なコントロール

——きびしさは、ふだんの練習、天性の二面あると思う。その練習法など、ハルトノから聞いたことがありますか。

小島　直接、具体的にはありません。足腰の鍛練のほどは、見た目だけではわからないが、実際に対戦してみると、非常に安定している。

とくにインドネシアの選手の足からは、練習量のすごさがうかがわれる。いかに基礎体力が必要か、反覆練習が必要であるか……タン・アイク・ハンも、同じハイクリアを一時間でもやるといっている。

そういうことが、どたんばになって、試合で生きてくる。強い選手でもそういうことをやっている。いや、強い選手だからというべきかもしれない。

——ハルトノが追い込まれながらも、きびしいところに返球してくる余裕というのは、彼が過去、小島選手に負けたことがないという、心理的な優越感も作用しているのではないか。

小島　それは確かにある。公式な試合では、この四年間ぐらい、だれにも負けたことがない。ですから、もしボクが一度でも勝てば、以降の試合は、ずいぶん変わってくると思う、精神的にもね。返球も安全性の高い返球をしてくるだろう。

内藤　小島君がいったようにバドミントンに限らず、相手のある競技というのはメンタルな面、要するに、タマのやりとりをしていながら、相手の気持ちを読みとらなければならないという面が非常に多い。

そういうゲームというのは、基本的なものが大事であることは論を待たないが、メンタルであればあるほど、予見する力とか、予見を基礎にしてフェイントを使うとか、あるいは相手の気持ちを読みとりながら、今度こちらが、いつか優位に立って攻撃に転換する、そのチャンスをうかがうとか、よくいわれる〝3S〟（スタミナ、ストローク、スピード）という基礎的なものの上に、プラス・アルファが必要なわけです。



《必要、高度なメンタリティ》

ハルトノ……慣性の逆を利用したフェイントが得点に

小島君がハルトノとの試合で終始リードしたこと、敢闘したことはよくわかるが、そういう、予見力、フェイント・モーション、勝機への転換、こういうことばでいい表わせない、ごく高次元な勝つための要素という面では、若干、欠けるものがあったのではないか、という気がする。

小島　いわれてみれば、なるほどと思うことがあります。

――そのへんを、もう少し突っこんでいうと、どういうことになりますか。

内藤　たとえば、フェイントの問題です。

小島の場合もハルトノの場合も、慣性の逆を利用している。小島君の場合は、四すみにたんねんにシャトルを打ち込んで、相手を左右に振る。

右に二度打ち、左に戻ろうとしたときに、その慣性を利用する。つまり、左へ行こうとする意識の逆を突いて、もう一度、右で決めるという、時計の振り子の慣性の逆を突くフェイントを使っています。

一方、ハルトノの場合は、左右に振るというより、むしろ、ある試合に関する限り、ネットぎわに小島をおびきよせる。

小島はリーチがたりないから必らずホーム・ポジションにもどる。このホーム・ポジションにもどるということが、小島君にとって、四すみのタマを完全に処理するのに一番、大事なことであるわけです。

ハルトノは、そういう小島のリーチがたりない、ホーム・ポジションにもどらなくてはならない、小島の意識をよくのみ込んでいる。

だから、ネットぎわでヘアピンを仕掛ける。小島が突っこんでくる、処理をする、そしてホーム・ポジションへもどろうとするところへ、もう一度、ヘアピンを仕掛ける。

小島がホーム・ポジションへもどりきれているときは、またネットへラッシュしてきて、処理できるのだが、もどりきれないときは、慣性の逆を利用されるということ、同時に、彼が完全にフェイントにかけられたという状態で得点されているわけです。

慣性を利用している点では同じだが、その利用の仕方が、この両君は違って現われてきているわけです。そのフェイントのかけ方が、得点に結びついている。

もう一つ、同じフェイントで気ずいた点があるので、ご説明します。

（次号へ続く）



【本欄のまとめ】

この対談連載は、小島×ハルトノ戦を基礎に、両選手の分析をしているわけですが、ここに出てくる数々の問題点は、一般プレーヤーの皆さんにも、大いに役立つと思います。どうか、そのつもりでお読み下さい。

本号で明らかにされたポイントは、大要、次の通りです。

⊙練習には量や種類だけでなく、質的な厳しさが必要である。世界のトップ級でも、一つのストロークに一時間もかけている。同時に、基礎体力の養成が大切である。この二つがピンチにも動じない〝技術と気力〟につながる。

⊙バドミントンは非常にメンタル（頭脳的）な要素が強い競技である。だから、いわゆる基礎（3S）の上に、アタマがなくてはならない。それは、ひとロにいって、相手の技術と心理を〝読む〟力である。



▲全英大会の会場と初参加の梅野尾選手▼



驚異、欧州勢のダブルス
〝無念〟の初参加

梅野尾　昌一

無念の全英大会――初参加といっても、残念な気持ちが頭に浮かんで離れません。参加前はわれながら驚くほど張り切っていたのですが……。

いま思い出してみると、全英大会は、まさに〝世界選手権〟の名にふさわしく「すばらしい」の一語につきる大会でした。

さすがに各国のトップ・プレーヤーが集っているだけあって試合の一つ一つが、見ごたえのあるプレーを展開しています。

一人一人のプレーヤーが自分の持てる力を限りなく発揮し、また、その一つ一つのストロークが正確にコントロールされて打ち出される。しかも、この一つ一つのストロークに個性あるフォーム、変化球が入り乱れ飛んでラリーが続く。

どれを見ても、目を見張るものばかり。実にバドミントンとは、こんなものだったか、などと考えさせられました。

特にヨーロッパ諸国の選手のダブルスのラケットさばきは、みごとなものでした。まるでピンポン球を打つように返球しているのです。

このようなラリーの応酬、速いテンポのタッチ。これがダブルスだ。いままで自分達がやっていたダブルスは、これにくらべたら、ほんの初歩的なラリーのように思われた。

自分のコンディションが、いかに悪かったにしても、やはり自分はまだまだだ、と力の差をとくと感じさせられた。

結局、この大会で痛感したことは、バドミントンとは、知れば知るほど深く、高度のテクニックを必要とし、かつまた、むずかしいものだ、ということです。そして、その反面、知れば知るほど面白いスポーツのように思われます。

また、アジア人とヨーロッパ人の性格の違いかと思いますがバドミントンに対する考え方、スポーツに対する考え方の違いが、ラリーの一本一本に現われているように、オーソドックスなプレーの選手が非常に多かった。

試合を見に来たお客さんたちのマナーの良さもさすがで、バドミントンやスポーツの良さをよく認識しているように感じました。相手のミスに手をたたくような、はしたないことはせず良いプレーには敵味方の別なく拍手を送ってくれる。

とにかく、全英選手権は私のバドミントン生活の思い出に残る、驚きと魅力の大会でした。

欧米遠征を終わって

〈三つの報告〉

コーチ兼選手
高木紀子

湯木選手のアキレス腱切断、私の肉離れという、去年のあのイヤな思い出から早や一年、幸運にも、再びヨーロッパの土を踏めた感激はもとより、未熟者の私が、役員という肩書きまで背負った今年の海外遠征。全国の皆様に報告申し上げたいことは数々あるが、紙面に限りがあるので、次のような三点にしぼって述べてみたい。

◉ヨーロッパ遠征において数多く起こった故障の原因の推察

◉今年の各国の情勢からみての、来年のユ杯展望

◉ボクソール、ウェトナル選手（全英ダブルス優勝、イギリスの第五回ユ杯代表）たちのプロ転向後のようす。

シーズン制のずれ
参加準備期間も不足

①なぜ故障が相次ぐか

まず第一の点についてであるが、昨年に引き続いて故障者（竹中選手）を出してしまったことは、私自身、本当に残念に思う。（竹中選手の場合は、昨年のアジア大会以後の足のぐあいの悪さが尾をひいていたのだが）

その原因として、まず考えられるのは、日本と外国（特にヨーロッパ）のシーズン制の違いではなかろうか。

日本が大体、四、五月ごろから一、二月までに試合が集中しているのに対し、外国は九月から始まり、四月ごろに終わる。だから、全英等が開かれる三月は、一番、練習量が豊富で、油の乗り切った時なのである。

それに対し、日本では一月から三月にかけ、気候条件からして、あまり活発に練習できない状態である。それが出場する選手に一種の不安感を持たせ、また、それにもかかわらず、日本のメンツにかけて戦わねばならぬという、複雑な心境のもとで試合が行なわれることが多い。

その上、出場選手の決定されるのが相当、遅いので、選手自身の心身の準備が整わないうちけか、おカアちゃん、行くささきで失敗？ばかりやらかしているのは、ご愛嬌。

文中、しきりに「だれかさん」が引き合いに出されている。一人はすでに式をすました小島選手だが、はて、もう一人は？



◀初の全英女子複優勝

例によって、ヨーロッパ、米大陸での日本チーム遠征珍道中記をご紹介する。

一行男子二人、女子四人。ヨーロッパが初めてなのは梅野尾選手だけで、あとは一応、旅なれているはずだが、どうしたわ

"おそろい"さがせず
小島選手がっくり

3月12日（金）六名無事コペンに着く。16時間の長旅で皆トロンとした顔。7・30分ドムス・ビスタ・ホテル。朝食よりなにより横になって眠りたい！

12・30分バイキング料理、盛りつけがきれい。六人とも最低二回はお皿をかえる。ホテルのボーイちゃんがニヤニヤにが笑い。

話題はいつしか、だれかさんとだれかさん（?!）のひやかしに移る。残る四人の純独身者は「いまに見ていろボクだって」の気分。

14・00～17・00フレデリックベアで練習。昨年もここが最初の練習場だった。昼食のとりすぎかしら、全員、胃が重い。時差の関係で身体が慣れないせいか、呼吸も荒い。

3月13日（土）9・30分、朝食。湯木さんがパンかごを運んでいたら、マレーシアのウン・ブン・ビーから

「ボーイ！カム・ヒア」のお声がかかり、一同大笑い。

14・00昼食。オニオン・スープ、ステーキ。ハンバーグのようなステーキだった。相変わらず皆さん、すごい食欲。

17・00～19・00練習。ようやく身体がなれ、調子が出てきた。トンガ（梅野尾）さん、盲腸の気がぬけないようすで、なんとなく腰をかがめてしまう。急におじいちゃんになったみたい。ガンバッテ！

3月14日（日）10・30分朝食。やはりデンマークのミルクやバター、チーズは格別。おかわりの続出。パンの売れゆきは一人平均4コ。ユデ卵は半熟より生に近く、きどってスプーンでコンコンやっても、そのあとはずるずる、するありさま。カッコワリィー。

小島さん、ニキビが二つもできたといって、嬉しそうに「竹中のがうつったぞ。おれもまだ

に出発、というケースが非常に多い。

以上のような要因から来る精神的な面と肉体的な面とのアンバランス、これが故障を起こす原因ではないか、私なりに考えている。

それなら、そんな無理をして参加しなくとも〝君子危きに近寄らず〟という方も多いだろう。しかし、それでは、あまりにも消極的である。

本命は英国、デンマーク
カナダも要警戒

②ユ杯戦のライバルは

さて、次に来年のユ杯が再び東京で開催されることに決定した今日、はたして、どこの国が東京へやってくるのだろうか。

いずれにしても、警戒を要するのはヨーロッパ・ゾーンの各国である。各国とも相当な意気込みで強化にあたっているようだが、やはり本命はイギリスであろう。

前回のイギリス・チームからボクソール、ウェトナルがプロに転向したため、全体にちょっと線が細くなった感じだが、しかし、それをカバーすべく、ジュディ・ハッシュマン（米）がたとえ、今年の全英選手権で日本選手が優勝しなかったとしても、参加すれば、しただけの何ものかが、プラスになっていると思う。

それは、ひとくちには表現できないが、世界の各国から日本のバドミントン界が忘れられないためはもとより、日本の将来のために、目に見えぬ土台を築くことと思われる。

事実、湯木選手も、たった一年、全英に参加しなかっただけにもかかわらず、「今年の全英は自分がなにか取り残されたような感じがして、とても恐ろしかった」と語っていた。

ちなみに、これまでの一流選手、リートフェルトやニールセンなども、アキレス腱を切った経験があるそうだが、その後も大いに活躍しているのを見ればこれもうなずけることであろう。

次回はイギリス・チームのために、ひとハダぬぎそうなので、相当、充実するだろう。

ハッシュマンは三十四歳。全英で十度優勝している。かってのようなすごみは薄らいだが、ダブルスでのタマさばきは、非常にすばらしい。

それを追うデンアーク。ダブルスの弱いのが玉に傷だが、割り合いに平均した選手がそろっているので、油断がならない。

今年の全英で、湯木選手を負かしたのも十八歳のデンマーク選



デンマークのお城で ▼

若いんだな」

13・30分、ゲントフテ・バドミントン・クラブで練習。おもしろいコートのとり方をしてあった。フロアの左右に三面ずつのコート。中央は両サイドのコートをカブで仕切り、その中央にコート一面。それを両側からスタンドがはさんでいる。つまり、観客席はフロアの中央にセンター・コートをはさんでおかれてあるだけ。

フロアの三分の一は二階建てで、二階はレストラン。その下は更衣室やシャワーなど。二階から全部のコートが見渡せる。

こちらはシャトルが1ダース60クローネ（三千円）。

3月15日（月）いよいよ、きょうから本番。

マレーシアの団長テー・ジンスイの話によると「アイルランドに暴動がおきているから招待試合を辞退した」というので、日本チームも話し合いのすえ辞退することになった。



▲ どこへ行っても食欲だけはもりもり。（え・芦間登美子）

手ベルクルントだった。

アメリカ・ゾーンではカナダが張り切っている。若手の進出がめざましく、力もつけてきているようすなので、米国を倒して、日本に来る可能性が強い。

主体はコーチ巡業
周囲の反響は冷たい

③英国勢プロ入りの波紋

最後に、世界中のプレーヤーたちが関心を持っているボクソール、ウェトナルたちのプロ転向のようすについて触れたい。

全英等に参加した、他のイギリス選手たちに聞くと、異口同音に「あんなことはバカげている。彼女たちはクレージーだ」という。

それが自国の名プレーヤーを失ったさびしさからなのか、或いは、彼女たちをうらやましく思っての発言なのか、ちょっと判断に迷うのだが、要するにあまりいい感情を持っていないのは確かである。

それなら、彼女ら自身は、どう思っているのだろうか。結論からいうと、しごく満足しているようだった。

プロといっても、ショー（見せるゲーム）はあまりなく、もっぱらコーチを専門にしているらしく、二時間で三万円ぐらいの収入があり、月に三十万はかせげるのだそうだ。

聞いている私自身も、さかんにさそわれたが、今の私には、そんな気持ちはさらさらないので、即座に断わってしまった。

しかし、たとえ途中の過程はちがっても、バドミントンを愛する気持ちは変わらないのだから、今後はプロであろうが、アマであろうが、おおいに助け合って、バドミントンの普及につとめるのが、一番、望ましいことだと思われる。



▲本年度の全英選手権大会のプログラム
表紙は湯木（むこう側）と高木の日本勢だ

全英優勝のよろこび
だれかさんにプレゼント

3月16日（火） 11・00まで寝ていた。女性軍、美容講習会。ショート・ヘアのかつらをつけた高木嬢に、だれかが「若奥さまみたい」というやいなや「そうよ！」のひとことに、みなギャフン。だんだんとノロケがひどくなるというか、おおっぴらになるというか。これからさきが思いやられる。

小島さん、バックスキンのコートを買う。〝おそろい〟のをと必死にさがすが、結局、なかった。

17・00東京館で昼（夜）食。すてきな中年のおじさんから日本選手六名にバラの花束プレゼント。「がんばって下さい」とひとこと。日本では、あり得ない？できごとです。

3月21日（日） 9・30分クロンボー城見学。シェクスピアの「ハムレット」の題材になったという話ですが、シェークスピアは一度もデンマークに来たことはないそうです。港からはスウェーデンがぼんやり見える。泳いだら何時間かかるかな。

16・15分、飛行機が30分遅れる。重量オーバー？

ロンドン市内のホテルまでタクシーで四千円近く。ヒェー。

3月23日（火） 12・00～14・30分、ウインブルドン・バドミントン・クラブで練習。朝食が9・30分だっただけに、おなかがすいて…（日本では粗食に耐えているくせに！）クラブはデンマークの方が組織も設備も良い。

18・30分、例年のごとく各国選手が明日からの全英選手権のために顔合わせ。プログラムをもらい、さっそく見つめる。さあ、いよいよですよ、皆さん。最後までしっかく、がんばりましょう。

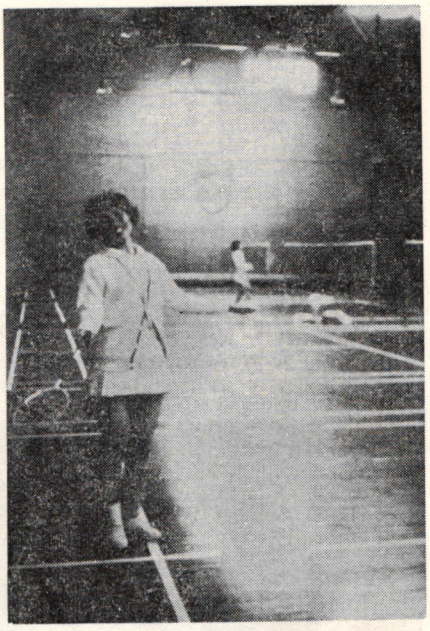
20・00 ホテルに帰ると、高倉さんが到着していらっしゃった。日本の新聞、雑誌をどっさりおみやげに。いろんな話に花を咲かせる。

日本の春の花はどうでしょうか。こちらはスイセン、クロッカス、アーモンド（桜の花にそっくり）の花がみごとです。

3月27日（土） 全英選手権女子ダブルス優勝。日本がダブルスのタイトルを取るのは初めて。また高木先生、全英五回出場で初の栄冠だけに感激もひとしお。その上に、日本で首を長くして待っている人に、なによりのすばらしいおみやげ。

意外、なじみにくかった米国、カナダ

湯木博江



欧米のクラブはどこもすばらしい。カナダのクラブ（左ページも）で

〜〜〜〜〜〜〜〜

あるバドミントンの品位を落とした、というような感じで受け取っているのでは、ないでしょうか。

◉カナダ、アメリカについて

去年、行けるはずだったこの両国へ、念願かない無事入国しました。

喜んだのもツカの間、ヨーロッパとくらべ、いろんな点で差があり、がっかりです。私たちが初めてカナダ、アメリカの一般の人々と会ったせいか、親しさがなく、まるで孤島に行ったみたいでした。

ただ、すばらしいと思ったのは、カナダのクラブの立派なことです。社交場といわれるだけあって、その役目を充分に果している建物でした。

一見、外側からは普通の家のようですが、中にはいるとバドミントン・コート5面、スカッシュのコート、レストラン、バー、更衣室、談話室、すべての設備が整っています。

本当にうらやましいかぎりです。維持費は大変でしょうが、それだけの価値はあるような気がします。しかし、疑問に思うその実、天下の全英選手権に出られない、ということが、さびしそうに思えました。これは私だけの感じかもしれませんが…

プロといっても、試合を見せることはあまりなくて、コーチする仕事の方が多いようです。でも収入はいいらしく、高木さんに「プロになって、私たちといっしょによにやらないか」と、しきりに説明していたようです。

プロをつくったことに対し、英国の協会側、あるいは他のプレーヤーたちは、あまりいい感じで見ていないようです。格式

◉ボクソール、ウェトナルらのプロ入りについて

彼女たちがプロになったと聞いたとき、卒直にいって、残念に思いました。

それは私が彼女たちのダブルスに負けたままで、二度と公式戦で対戦することができない、ということです。去年の優勝者が今回はコートに姿を見せないということも、張り合いがありません。

ウェンブレーの会場で二人に会いました。「プロはいい」なんていっていましたが、私には

ミス湯木コペン移住のデマ　ユ杯ではデンマーク代表？

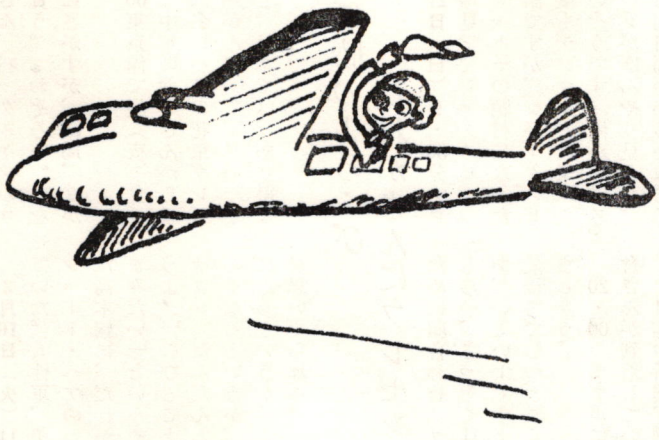
海外遠征して初めて火事を見る。空き屋が三、四軒続いている所で、消防の訓練かと思われるくらいに人も車もノンキ。消防自動車が普通のスピードで火事場に〝鈍行〟おまわりさんはどんどん一般の車を通す。イギリス人って、こんな事態にも優雅なのかしら。

3月28日（日）湯木さんがデンマークに一年ほどバドミントン留学したい……ともらしたのが、どこからどう伝わったのかしまいにはコペンハーゲンの新聞に「来年、ミス湯木がコペンに住む」という記事が載っていたという話を聞き、びっくり!!

人の耳って早いものですね。

「ユ杯ではデンマーク代表だよ」とデンマーク選手たちが口をそろえてそそのかす。

パリに着いたとたん、タクシ



初めて乗ったジャンボ，あわやこの世にお別れの危機？もあった。

（え・芦間登美子）

のは、それらの設備があるのにプレーヤーがあまり育たないことです。どうしてなのか、この点は残念に思います。

アメリカは国が大きすぎるせいか、同じ選手でも東と西とでは感じが違っているように思えました。アメリカの国民性なのか、いろんな点で開放的すぎて、ヨーロッパの試合を見慣れているせいか、つまらなく感じました。

初めてのアメリカ大陸は私にとって、あまりいい印象を残すことができませんでした。しかし、会場でお世話になった学生の人達とは楽しく話し、アメリカの若人らしいふんい気に親しみを感じました。

ハッシュマンの風格に脱帽
欧州みたまま

相沢　マチ子

今回で二度目のヨーロッパ遠征、やはりいいなと感じるのはクラブ組織のすばらしいことです。

コート設備はもちろんのこと暖房付き、軽食喫茶室付き、あるところではサウナ付きと日本では考えられない（？）ほどのクラブがたくさんあります。

もし、このようなクラブが日本に一つでも二つでもあるならば、バドミントンに対する見方、考え方が変わってくるのではないかと思います。

また、他の面からもバドミントンを楽しめるのではないでしょうか。

もし、私のふところに多額のお金が入ってきたら、ヨーロッパのクラブなど問題にしないものを建てようなどと、たあいのない夢に暮れる時があります。

でも、こんなことはあり得ないことですけど……!!

さて夢の話はこれぐらいにして、ユーバー杯を来年にひかえ、全英選手権ではイギリス、デンマークの選手達の活気が感じられました。

イギリスではボクソール・ウェトナールがプロに転向したあとの穴うめとして、ハッシュマン、ペリンとダブルスを組んでいました。私たちは、ダブルスに準決勝（全英選手権）で対戦しました。

ハッシュマンは老巧なプレーのうえに、勝負に対するかけひきや相手をのんでしまう風格があり、過去、何回となく全英チャンピオンの座を保持できたのは、こうした貫録のせいだなと思いました。

私たちもこのような彼女の勝負に対する根情を見ならわなければならないことを痛感しました。



ーの運ちゃんに50フラン（三千円）パクられる。本当は三百円ぐらいだったのに。おツリを待っていたが、平然もどってこない。ヤラレター。

3月29日（月）10・30分、梅野尾さんが一同に悲しき？別れをつげて帰国の途に。

モンマルトルの丘では絵かきのタマゴが三十人ばかり必死に絵筆を動かしている。似顔絵が10分でできるというので、その気になったら、30分もかかり、肩がこちこち。

シャンゼリゼのマロニェの並木道は絶好の散歩道。楽しそうな恋人たち。静かに語らいながら歩く老夫婦。そのむこうに凱戦門。なんかの映画のメロディが流れてきそうです。

3月30日（火）14・15分モントリオールに向け出発。現地時間16・00到着。パリ時間は午後10時、ねむいんです。

冷たい!!えっ、だれが？いえ風が。顔がこわばって凍りそうなくらい夜風が身にしみる。

3月31日（水）カナダのクラブが、どこよりもすばらしいことは、小島さんから何度か聞かされていたが、これほどとは、とにかくすばらしい。

まず玄関からして、高級住宅のようにこっている。扉をあけると、高級レストランかナイトクラブのような照明とじゅうたん。どこにコートがあるのかと首をかしげる。

更衣室は広く、シャワー、トイレつき。パウダーやバスタオル、せっけん、シャンプー、くし、スプレー、おしろいまで揃っている。

特にカナダ、アメリカのクラブにはお年寄りも多く、こうしたクラブが一つの社交場。

すわ時限爆弾か
初乗りジャンボで騒動

4月5日（月）寒し。湯木・高木組と、ビッコをひきつれた小島・相沢組が、それぞれの目的地へと別れを惜しむ。

初めてジャンボ・ジェットに乗せてもらい、喜びいさんでイスを倒したり、ラジオのスイッチをひねったりして遊んでいたのに、5分もしないうちに降ろされてしまった。5時間後「一人一人のトランクを調べるように」との連絡。さては?!「時限爆弾が仕組まれているのでは」「そのときは、そのとき。死んでも…や」

口ではいっても、心の中は…そうなったら大変。悲しむ人で日本中が洪水になるウ。

ホープ登場

私は涙をこぼさない

さっそう、デビュー戦に無敗

（シングルス）

〝日体大の星〟陣内裕子

（全日本学連副委員長・保坂佳人＝日体大）

さる五月の関東学生春のリーグ戦で〝大学生〟としてデビュー。シングルス3勝0敗、ダブルス3勝1敗。期待どおりのスタートを切った。

〝日体大の星〟とも呼ばれる新人・陣内にスポットをあててみた。

昭和二十八年一月十月、九州で生まれ、京都で大きくなった。お母さんも元気のいい人で、中学校大会などのときは、必ず娘の応援にかけつけた。

「負けそうになると、スタンドから、大きい声でハッパかけられんの。はずかしかったかって？　ううん、そんなこと。だって、バドミントン始めたのもお母さんのおかげだもの」

そのお母さん、テレビのスポーツ教室を見て「上品なスポーツだな…」と感じ、わが子にすすめた、という。

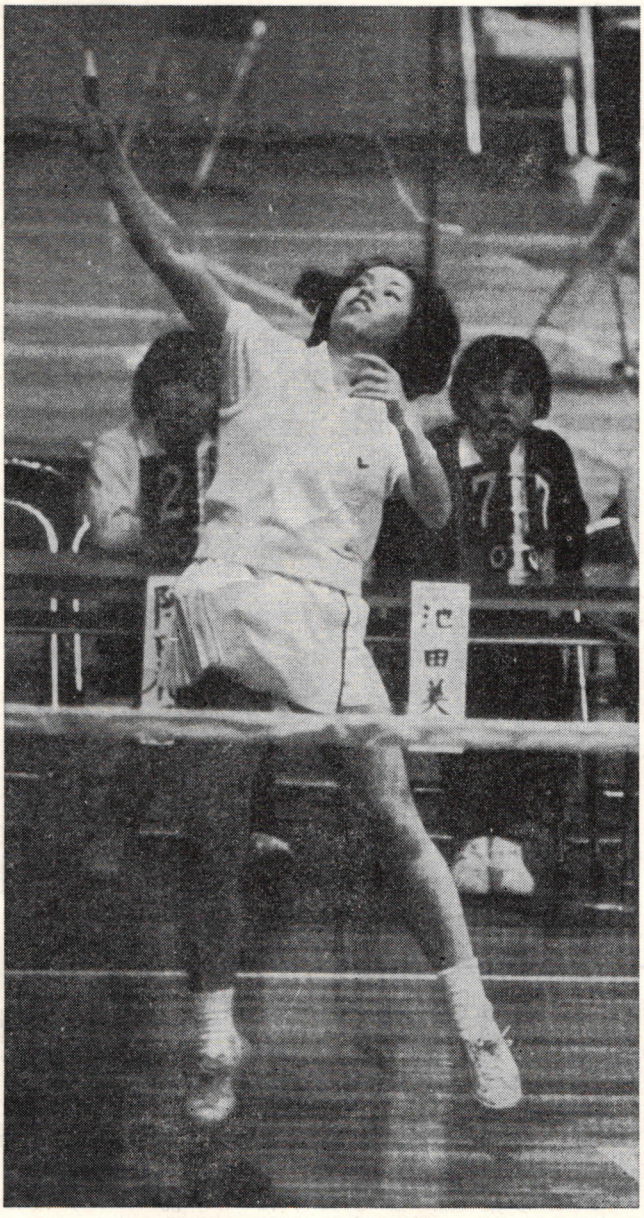
「とってもスポーツ熱心。クラブ活動で〝ママゴン〟のようにあれこれ、やかましくいわれたことは、一度もない。かえって、母にあおられ、あおられ、これまでやってきたみたいなものね。

高校に進んでから、やめたくなったこともあるけど、相談すると、必ず〝最後は自分だから〟って、私の判断にまかせてくれた。そういわれると、やめられないものよ」

さて、大学生となって初の大会、春季リーグ戦で唯一の黒星は対青学戦の第一ダブルス高坂・漆畑組につけられたもの。いままで対戦したダブルスとはちがった攻撃のしかたに面くらったらしい。

「ひと口にいうと相手が上手だった」とライバルをほめる。ダブルスは相手に波をくずされると、そのままずるずるといくだけに、精神的に辛いらしい。

パートナーで先輩の堀川栄美子選手（三年）はいう。「プレーにパンチがたりないが、それをカバーするコースのつき方が



▲昨年度インターハイの単複チャンピョンは，すくすくと育っている。当面の課題は〝パワー〟。

「わたし？　甘えん坊なの。お母さんッ子で」――笑顔のなかから、明るい返事がハネかえってくる。

陣内裕子、日本体育大学一年、1㍍58、50㌔。昨年度のインターハイ（全国高校選手権）で単複ともに優勝を飾った。

うまい。ただ、まだ粘りがないようだ」

当の本人も〝パワーがない〟点には、中学生のときから、だいぶ神経を使っているらしいが「思うようにいかなくて」とコボしていた。

〝甘えん坊を返上〟青春を自己に厳しく

青春時代をバドミントンに厳しく――涙をこぼした経験は、インターハイで優勝杯を手にしたとき、高校時代は〝反抗期〟と重なり合って素直になりきれず、コーチに叱られたときの二度。それ以外には泣いたおぼえがない。

練習量は、高校時代の方が多い。大学生の寮生活には、いろいろ規則もあるし、一年生という立ち場もあるからだ。でも、「いままで、甘ったれの面があったから、規則にしばられて行動するのもいい勉強。この中での生活を有意義なものにしていきたい」彼女はいう。

――ほかのスポーツは？

「なんでも好き。自分の道とバドミントンと両方学んでいきたい」

――ボーイ・フレンドは？

「まだいないけど、できてもバドミントンと両立させられると思う。でも、まだまだバドミントンでやることがいっぱいあるから、考えたことがない」

――初恋は？

「（たちまち、パッと赤くなって）中学生のときにね、やっぱりバドミントンやっていた年上の人が…」

――趣味について

「ボーリング。最高143を出したことがある。それから映画。学生になってからは、二つともほとんどダメだけど」

――悲しいことがあるときは

特に思い出深い試合は、対日女体、池田選手とのシングルス1―9から、ばん回したこと。

「隣りのコートで先輩の小片選手がやっていたので、自分も負けていられないと思った」

「夜、星を見ながら、京都の大文字山を思いおこす」（ホントかな）

――学問とスポーツの両立については？

「正直にいうと、高校時代の自分は両立させたとはいえない。スポーツをやっているから、と甘えていた点がある」

――今後の目標について

「チームとしては全日本学生で王座を。個人では大会ごと、一回戦ずつ勝ち上がりたい。今年いっぱいはオーソドックスなプレーを身につけたい。問題のパワーはウェイト・トレーニングやランニングなどで強化していくつもり」

成人式の日に生まれた陣内が成人を迎えたとき、選手として人間として、どう成長しているか。楽しみだ。

陣内裕子選手の関東学生春季リーグ戦での成績

▼5月7日・対千葉大

○陣　内　2（1111―0）0　佐　藤

▼5月8日・対昭和女大

○堀　川　2（1515―1）0　小　島
○陣　内　2（1515―2）0　河　西

▼5月9日・対日女体大

○堀　川　2（1515―7）0　池　田
○陣　内　2（1515―8）0　樋　口
○陣　内　2（1112―11）0　池　田

▼5月15日・対青学大

堀　川　1（7―15―12）2　高　坂
陣　内　1（3―15―15）2　漆　畑○
○陣　内　2（1111―6）0　漆　畑

▼5月16日・対東女体大

堀　川　2（1515―5）0　柿　崎
○陣　内　2（1515―7）0　野　島

（注）単3勝0敗、複3勝1敗



ぜひ〝武者修業〟に行きたい

ネパール・コーチ山本君（慶大OB）から便り

日ごとに深まる日本への親近感



ネパールのコーチ、山本次生君（二四）＝慶大OB＝から、日本協会の村山事務局長あてに、このほど第一信が届いた。

山本君は本誌第19号「北から南から」でお知らせしたように青年海外協力隊の一員として、本年一月から約二年の予定でネパール国のバドミントン普及強化のため、コーチに出かけている。

ご多聞にもれず、ネパールでも用具と施設難であること、しかし、その中でもバドミントンには国自体が熱を入れており、何人かの選手を日本に送って勉強させたい、と計画していること――などを山本君は手紙の中で述べている。

拝啓 ごぶさたしております。村山さん、協会の方々、お元気でいらっしゃいますか。

先日は〝バドミントン界〟わざわざ送っていただき、ありがとうございました。この狭いネパールにいて、ともすると広く見る眼が失われがちな我々にとって〝バドミントン界〟は救いとなっています。

さて我々ネパールも、ジャカルタで行なわれるアジア選手権めざし、猛練習しております。前回のバンコクでは完敗し、世界のレベルとの差を、まざまざみせつけられましたが、そのにがい経験を忘れず、今回はぜひとも全力を出し「ネパールも向上した」といわれるようにならねばと思っております。

こうして毎日練習をしておりますと、さまざまな問題につきあたります。その中で最も重大と思われるのは、選手層の薄いことでしょう。

これはカバー・コートが3面しかネパールにないこと、高いシャトルを買って練習できるものが、きわめて少いことと関係した問題ですが…。

現在のナショナル・チームと他の選手とのレベルの差が、あまりにも大きい、ということも見のがせない欠陥です。私の任

最近、日本のコーチが海外スポーツ界から、ひっぱりダコである。

数からいうと、多いのは体操、卓球、バレーボールが〝ビッグ3〟だろう。

今年の三月、名古屋で世界卓球選手権大会が開かれたとき、舞台裏は大げさにいうと、コーチ派遣依頼の〝商談〟ばかり。かれこれ十五、六ヵ国から引き合いが殺到した。

そればかりか、香港コーチとして大会に参加した日本のもと選手もおり「まったく、ヘンな気持ちだ」と頭をかいていた。

バレーでは、やはり〝国際ジプシー〟といわれる名コーチ加藤明氏（慶大出、前八幡製鉄）がいる。メキシコ五輪までベルーのナショナル・コーチ、今度は西独男子監督となりミュンヘン五輪では〝地元〟の面目にかけて日本を迎え撃つわけ。

スポーツ・コーチは〝日本〟を知ってもらうためのカケ橋。山本君もがんばってほしい。

（東京新聞・後藤忠弘）

記者の目



私もこの五ヵ月間、選手とともに練習してきましたが、その間たえず、一度ぜせ日本に選手を連れていき〝井の中の蛙〟になりがちな彼らが日本の多くのプレーヤーの中でもまれ、身をもって日本のレベル、世界のレベルを知ってほしい、そして今後の練習にプラスさせてほしいと考えておりました。

そして、それには日本への関心が高まったこの時機、アジア選手権を経験した帰りに日本を訪れるのが最適ではないかと思うのです。

一ヵ月ほど滞在し、練習し、また四、五校と親善試合ができましたら、すばらしいと思います。

こうすることにより、技術を磨き、高めるとともに、彼らにネパール・バドミントン界発展のため、また、日本との友好のために、将来つくしてほしいと願っております。

具体的な案としましては、八月二十一日にアジア大会が終わりますが、すぐ日本へ向かい、慶応または他の大学の合宿等に参加させていただき、十月の初旬まで練習を重ね、その間に親善試合を行なわせていただきたいのですが。

いかがでしょうか。慶応の諸先輩、そして海外協力隊の局長へもお手紙しておりますが、どうか、この趣旨をご理解いただき、ご援助をお願いするしだいです。

ネパール・スポーツ・カウンシルの事務局長で、第二王女の夫君であるクマール・カルガ殿下も、この計画には大変、興味を示されていらっしゃるので、村山さんからのお返事を待ち、改めて公式にお願いすることになりますが。

この計画での問題は、やはり経費です。バンコクから東京の往復費用、そして日本での一ヵ月間の経費です。

バドミントン界の組織も拡大し、さまざまなことに、経費がかさむことと思いますが、開発途上にあるネパールの事情もお考えいただき、この面でもご配慮をお願いしたいのですが。

今年は日本の登山隊が十三パーティも遠征してきておりますし、昨年は卓球チームもネパールを訪れ（バドミントンも招待されていたそうですが）今やネパールと日本の関係は、大いに深まってきております。

若輩の私が、このようなお願いをすること、大変、心苦しいのですが、この機にどうかネパールのバドミントン・チームが日本で貴重な経験が積めるようお取りはからい下さい。

まことに勝手なお願いとは、存じますが、ヒマラヤのふもとで、よきお返事をお待ちしております。

山本次生



ネパールのスポーツと日本

ネパールは、ご存知、ヒマラヤとその登山で有名な国。このため、非常に寒い所と誤解されているが、緯度上は温暖帯であり、インドに接する南方などは雨季になると熱帯病の発生地といわれるほど。

仏教、ラマ教、ヒンズー教など、各種の宗教が共存し、非常に信仰心が厚い。

しかし、主要産業がないために、経済的には国力がまだまだ貧しい。

こうしたことから、スポーツのレベルも低かったが、最近、各種目で国際舞台に進出し、その普及発展に力を入れ出した。

一応、国際的に知られているものには、卓球、サッカーがあり、バドミントンは三番目か。

卓球は昨春の国王誕生記念大会で中国を招待（これが中国の文化大革命後、卓球初の対外試合）今春の世界選手権（名古屋）には男女ともチームで出場。戦積はふるわなかったが、一人の女子選手は立派な英語をしゃべり、鼻にダイヤをはめこんで注目をあびた。

私のクラブ

県実業団で三連勝（男子）

創部八年、抜群の強さ

練習の重点ダブルスとサービスに

◇福井銀行◇

銀行という、とかく、運動不足になりがちな職場にありながら、当行は市橋頭取以下、役職員にスポーツ愛好者、理解者が多い。

おかげで、われわれバドミントンをはじめ、サッカー、野球部などが、幅広く県内外で活躍しています。

その中でバドミントン部は、現在、立田部長（本店経営相談所長）以下、男子十八名、女子十二名、計三十名の部員をかかえています。

練習は毎週、月、水、金、土の四日間、営業終了後の五時半ごろから八時までですが、日曜日についても、月二回の割りで練習試合を中心にトレーニングに励み、最近は県外からも練習試合の申し込みがあって、なかなか活気に満ちています。

ふだんの練習は、とくにダブルスに重点を置き、コンビネーション・プレーやプッシュ・レシーブに時間をかけます。

サービスの重要性が叫ばれていますが、当行チームには、まだ、この点の下手なプレーヤーが多いので、サービスとサービス・レシーブ練習にも力を入れています。

部が創設されたのは昭和三十九年。当時は現・宮崎監督（富山大出）高木主将（武生高出）など、四、五名の部員しかおらず、団体のメンバーを集めるのがやっとの状態でした。

したがって、いわゆる、ふだんの練習ということもなく、試合前にしばらく集ってやるという状態でした。

その後、県内高校生を中心に強化をはかり、男子チームは現在のレギュラー高木、梶谷（福井大出）府岡（立命館大出）笠川（勝山高出）と国体選手をそろえ、福井県実業団選手権では今年で大会三連勝、通算五回目の優勝を飾ることができた。

女子についても、本年、いちぢるしく強化されました。日女短大出の稲木、昨夏のインターハイ複優勝の岡崎（成安女高出、パートナー陣内）地元から島田（勝山高出）角谷（大聖寺高出）長谷（敦賀高出）と、インハイ選手を入部させることができました。

これらの選手に、ベテラン安間（藤島高出）と陣容がそろい、あとは、これらのノビざかりのプレーヤーを、いかに強化していくかという問題だけです。



▲福井銀行のメンバー。前列左から，島田，安間，角谷，高木。中列同じく西村マネジャー，山本，岡崎，稲木。後列，府岡，笠川，梶谷選手

本年の県実業団大会では、岡崎のアキレス腱断裂もひびかず、相手チームに与えたポイントが数点という、完全試合に近い圧倒的優勝を飾りました。

当県のバドミントン界は近年、急速に競技人口がふえつつあり、とくに、小中学校での伸びは全国屈指のものがあります。

小学校からクラブ組織があり小学生の大会ともなると、父兄同伴で、体育館が満員の盛況です。ただ残念なことは、良い指導者が少く、また、レベルが低いままに、足踏みを続けていることです。

われわれも、これらの技術指導や大会運営などにたずさわっておりますが、時間的に制約され、思うにまかせぬ状態です。

当行バドミントン部の悩みの一つに、練習会場があります。銀行自体が体育館を持たないため、畑忠雄先生（全国教職員四十歳以上単1位）にお願いして藤島高校の体育館を借りています。

もう一つは、女子レギュラーは本店勤務で問題はありませんが、男子部員の勤務店が各市に散在しているため、まとまって練習する機会が少いことです。

また、選手自身、当行チーム以外に、県内でのよき練習相手に恵まれません。そこで、マンネリ化を避けるため、広く練習相手を求めて、県外への遠征も考えております。

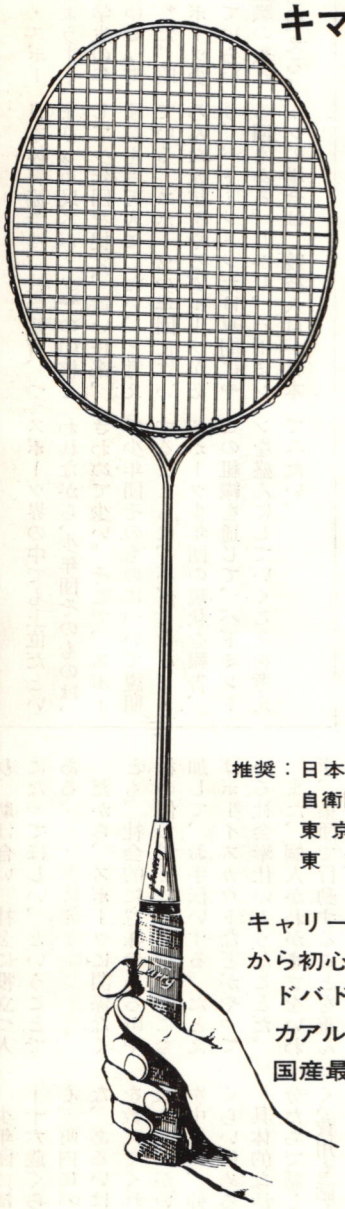
当面の目標として、男女ともに全日本実業団でベスト8入りをはたすべく、下手ながらも、バドミントンに青春をかけ、トレーニングに励んでいます。

（梶谷将人）

WHY, STRONG and LIGHT

カッコイイ銀色のラケット Carry 7

キマリーセブン



￥2,500(フレームのみ)

￥3,000
（ガット、カバー付）

保証期間　6ヶ月

折損率 40本 / 10,000本

在東京実業団、高校、
中学校で人気集中!!

姉妹品(格安)

Carry Z

￥2,000（フレームのみ）
￥2,500（ガット、カバー付）

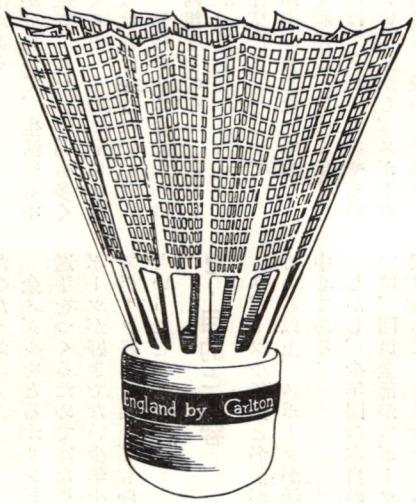
推奨：日本バドミントン協会
自衛隊バドミントン連盟
東京都実業団連盟
東京都中体連

キャリーセブンはチャンピオンから初心者まで、オールラウンドバドミントンラケット、カアルトンラケットに匹敵する国産最高級品です。

あなたも一度、使ってみませんか。

CARLTON
SHUTTLECOCKS

世界最高級カアルトンスチールラケット
3.7(スリーポイントセブン)￥5,800(フレームのみ)
3.9(スリーポイントナイン)￥4,800(フレームのみ)



日本バドミントン協会審査合格品

なぜ!!カアルトンナイロンシヤトルの売上げが増大しつづけるのか？　その秘密は!!

1.耐久力：水鳥シヤトルの約3.5倍
　　陸鳥シヤトルの約6.0倍
2.性　能：水鳥シヤトルとほぼ同じ
3.価　格：インターナショナル(試合球)
　　1個 200円
　　カアルトンクラブ(練習球)
　　1個 150円

註 カレッヂナイロンシヤトルを新らしくカアルトンクラブと変更しました。
カアルトンクラブはカレッヂと全く同一のものです。

Metro Leisure

総発売元

メトロレジャー株式会社

東京都千代田区外神田5－6－4　〒101　電話833－3661(代)

団の輪を
う〈特別レポート〉

全国にバドミントン・スポーツ少年団の輪をひろげよう――まり〝市民スポーツ〟の中核として少年団を捉え、近い将来、団員を百万人にしたい、と考えている。スポーツ少年団にはいろんな競技をやるグループがあり、バトミントンだけ専門にやる団もある。しかし、バドミントンの場合は、競技人口が日本スポーツ界の中でも上位だといわれながら、少年団そのものは、きわめて少い。そこで、スポーツ少年団そのものについて説明するとともに、バドミントン・スポーツ少年団の現状を報告、この組織を通じて、バドミントンを盛んにしていくことを考えてみたい。

日本体育協会は、社会体育、つまり〝市民スポーツ〟の中核として少年団を捉え、近い将来、団員を百万人にしたい、と考えているスポーツ少年団そのものについて説明するとともに、バドミントン・スポーツ少年団の現状を報告、この組織を通じて、バドミントンを盛んにしていくことを考えてみたい。

スポーツ少年団とは

1・なぜ生まれたか

日本スポーツ少年団は、昭和三十七年六月二十三日、オリンピック・デーに誕生した。つまり、ことしで十年目になる。

組織の数は、ことしの春の登録調べで、一万九千六百十二団、五十五万七千五百三十九人。なんでもやる〝多種目〟少年団のほか、三十三にわたる競技種目ごとの団がある。

経済が成長して、生活にもゆとりが生れ、ヒマな時間も多くなってくると、その時間に、なにかしなければいけない。

一方、戦後の少年少女たちは体格は両親をしのぐほどになってきたが、遊び場の不足、過保護のため、体力はからっきしダメ、という傾向が強くなってきた。

余暇を利用し、健康な身体をつくるには、スポーツをやるのが一番いい。しかし、スポーツをやる施設は学校か会社以外、あまり多くない。

施設は急にはふえないが、一人でいては、施設があっても、実際にスポーツはやれない、グループづくりが先決だ。

こんなところから、アマチュア・スポーツの総本締めともいうべき日本体育協会（体協＝日本バドミントン協会が加盟している上部団体）が、立ち上がったのだった。

金メダルをとるオリンピック選手をつくるためではなく、スポーツが好きでない少年少女にスポーツ好きになってもらおうということだった。

2・目的と内容

スポーツ少年団と名前がついている以上、スポーツが活動の中心である。

しかし、少年団の本当のねらいは、団員全部がスポーツ専門家になることではない。スポーツの活動を通じて、ルールを守り、助け合い、社会に役立つ人になってほしい、ということである。

だから、スポーツに関係なくとも、社会的に意味のある町や村の催しごとには、積極的に参加して、お手伝いする。たとえばボーイスカウトなどがやっている社会奉仕のようなことだ。

また、個人がわがままをいわず、集団で行動することを重んじるから、たとえば、バドミントンの少年団であっても、キャンプ、ハイキングのようなことを時々やる。

そのほか、スポーツをやることによって、どれだけ自分の身体が丈夫になったか、自分たちで調べるため〝スポーツ・テスト〟も毎年やる。

こうしたことが、学校のクラブ活動と少しちがう点だ。ひらたくいえば、町内の草野球チームを、日常的に組織化したようなものだ。

日本体協は、この少年団の育成に力を入れており、都道府県でも、これに応じて、積極的に団員をふやす考え。

すばらしい活動を続けていれば、オリンピックの〝ユース・キャンプ〟などで海外に行ったり、国際交流の機会も多い。

3・団のつくり方

少年団にはいれるのは十一歳―十六歳ぐらいで、中学生が中心。町内にバドミントンの好きな、あるいはうまい、自分たちを数えてくれるおじさんや、おねえさんがいたら、そういう人を中心に、仲間を少くとも十人ぐらい集める。

具体的な活動のやり方は、自分たちで話し合って決めればよく、費用も話し合って出し合う。地元のライオンズ・クラブ、商店会などのおえら方が援助してくれることもある。

たいていの市区町村（役所の体育課のようなところ）に本部があるから、そこを通じ日本少年団本部に登録すると、団旗がもらえる。

ユニフォームなどもあっせんしてくれるし、各本部の催しや少年団の施設も利用できる。

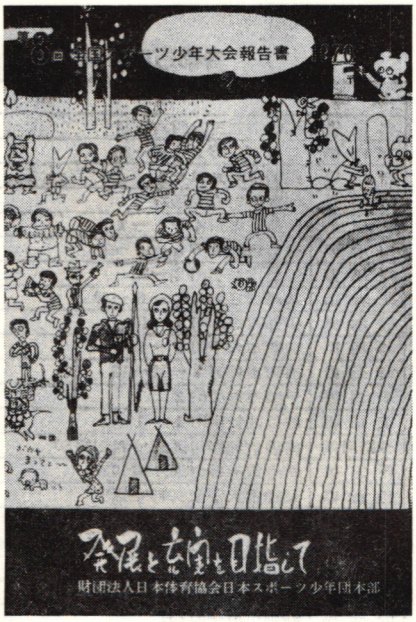
団の指導者やリーダーは、毎年、中央や都道府県ごとに行なう大会や研修会に参加、勉強しているが、競技の指導は、それをよく知っている人にたのむことが大切だ。

逆に、少年団によっては、いろんな種目をやっているものもあるから、そこへはいってバドミントンを取り上げてもらうのも手だ。

つぎにバドミントン少年団の実態について触れよう。

バドミントン

スポーツ少年全国にひろげよ



バドミントン少年団は

1・まだまだ少ない

このページをめくると、各種の一覧表が出ている。その中で見てほしいのは、競技種目別の少年団結成のリストだ。

バドミントンは、実に17番目にいる。多種目というのは、なんでもやる少年団。これは別だが、普及度がきわめて高い、といわれるバドミントンが、冬しかやれず、しかも、寒い地域に限られているはずのスキー、スケートの間にはさまっているのは、なんといっても残念だ。

さきに本誌は日本バドミントン協会が全国を調べた中学校での普及度アンケートの結果を報告した。

それを読んだ読者は、もちろん、おぼえていることだろうが、中学校でクラブを置いているところは、かなり少なかった。これには、いろんな原因があるが、現実に学校での普及度が低ければ、少年団をつくれといっても、ムリがある。

さらに、バドミントン少年団の分布状況を県別に見ると、全国四十七都道府県のうち、全然ない県が20もある。新潟、神奈川のように、普及が進み、高度な第一線選手を多く出しているところでも、バドミントン少年団が結成されていない。

もちろん、少年団がすべてではなく、市町村の体育館や教室でも、やれるのだから、これでダメとはいえない。

しかし、一分から考えると、もし〝教室〟や〝スクール〟があるのなら、それを根城に少年団をつくり、活動してもらうことは有意義だ。

少くとも、かりに〝教室〟に五十人来るのなら、地区別にこれを五つに分けて団にするという方が、教える方も楽だし、教わる方もはげみになるだろう。

2・アンケートは訴える

本誌は、この記事をつくるに当たり、バドミントン・スポーツ少年団と名のつく組織の中から、無作為にいくつかを抽出し、アンケートを試みた。

結論からというと、回答数が少かったため、残念ながら、データを統計的に報告することはできなかった。しかし、その中でいくつかの目立ったポイントがある。たとえば

①名前は〝少年団〟だが、実際には中学校のクラブであるところが、かなりある。

②県内での普及度が低いため、試合をやる相手もいないなどで、団員の意欲が低下し、活動がしりすぼみになっている。

少し、例をあげていく。次のページの表によれば、茨城県には、少年団が十一あり、全国で最も多いことになっている。しかし、そこでさえ、悩みがあるようだ。

三和中学校少年団の責任者・金元守さんは、次のようにいう

「未普及種目なので対外試合ができない。県バドミントン協会からの協力、県少年団本部からの指導援助ともにない。」

そこで日本協会への希望として「地方への強力な呼びかけをしてほしい」し、県協会に対しても「中体連関係と協力して、試合をやれるような状態にまで持っていってほしい」

秋田県の両替少年団は小学校上級生からをふくんで活動しているが「中学校の部活動との関係がうまくいかないので、練習は原則として週に一度、学校の体育館が使えないと、部落内の適当な場所でやる」し、やはり試合らしい試合は経験したことがない。

香川県坂出市の坂出西部少年団は、小中学生合わせ八十二人もいる大世帯だ。しかし、それだけに指導者、用具、練習場所が、なやみのタネでもある。そして、試合するにも同じようなチームがない、と訴える。

栃木県本郷中少年団、福井県勝山市の勝山中少年団などは、クラブが少年団なので、練習時間も多く、技術的にも中学レベ

ルではトップ。いい方の数少い例である。

愛知県八ツ屋少年団でも小学校五年生から入団、意欲的にやっているが、それでも、施設がないため、練習は市の体育館をかりて週一回。「中学校でクラブがあれば、もっと活発な活動が展開できるはず」と述べている。

その他、共通する悩み、問題点を総合すると「日本協会、県協会が指導、用具などの面で、援助、協力してほしい」ということにつきてしまう。

3・協会のとるべき道

これからさきは、本誌としての意見になる。

地方協会のことは、よくはわからないが、少くとも日本協会は、これまで、バドミントンのスポーツ少年団に関しては、なんらの関心も接触も持ったことがない。わずかに、指導委員会が「中学生選手権」の予備調査のため、二度、地方協会からアンケートを取っただけである。

これには、もちろん理由がある。ひとつは、少年団は、体協の下部機構であり、バドミントン協会とは、直接の関連がないこと。もうひとつ、中学校をふくめ、少年団は日本バドミントン協会の登録団体でないこと、である。

つまり、これまでの経過から、日本協会は少年団や中学校の普及状態を知りたくても知りようがなかった、ということを否定できない。

しかし、今年度から中学生の全国大会も開かれることになった。底辺拡大は、必ずしも中央競技団体の全責任でやるものではないが、普及なくして、強い選手も出なければ、発展もあり得ない。

少くとも、地方協会に、中学をふくめた少年少女層の開発に力を入れるよう、要請、指示し組織化をいそぐことはできる。

そして、中学の大会に少年団を参加させることも、可能なはずである。

それには、まず協会が実態を克明に調べることから手をつけなければいけない。

各都道府県スポーツ少年団本部所在地一覧

県名	所在地		電話	〒
北海道	札幌市北三条西六丁目	道教育庁保健体育課	0122(23)4111	063
青森県	青森市新町2－4－36	県教育庁保健体育課	01772(2)1111	030
岩手県	盛岡市内丸11－1	県盛岡地区合同庁舎	0198(22)4040	020
宮城県	仙台市匂当台通27	県教育庁保健体育課	0222(23)6111	980
秋田県	秋田市山王4－1－1	県教育庁保健体育課	01882(23)1111	010
山形県	山形市旅籠町3－4－5	県教育庁体育課	02362(2)1111	990
福島県	福島市杉妻町2－16	県教育庁保健体育課	02452(2)1111	960
茨城県	水戸市三の丸1－5－38	県教育庁体育保健課	0292(21)8111	310
栃木県	宇都宮市本町1－10	県教育会館内	0286(22)7677	320
群馬県	前橋市大手町1－1－1	県教育委員会体育課	0272(21)1511	371
埼玉県	浦和市仲町3－12－10	住宅公社ビル4階	0488(22)4066	336
千葉県	千葉市市場町2	県教育庁体育課	0472(22)5074	280
東京都	渋谷区神南町1－1－1	岸記念体育会館内	03(467)3111	150
神奈川県	横浜市神奈川区三ツ沢西町60	県立スポーツ会館内	045(311)7872	221
新潟県	新潟市一番堀通り町5924	県教育庁保健体育課	0252(28)6111	951
長野県	長野市大字南長野字幅下	県教育委員会体育課	02622(2)0111	380
山梨県	甲府市丸の内1－6－1	県教育委員会保健体育課	0552(37)1111	400
富山県	富山市五福五区1942　県営総合運動場アオイスポーツハウス		0764(31)9150	930
石川県	金沢市丸の内3－3	石川県スポーツ会館内	0762(61)8128	920
福井県	福井市大手町　県電気ビル内	県教育庁保健体育課	0776(21)1111	910
静岡県	静岡市追手町251	県教育庁体育保健課	0542(54)1111	420
愛知県	名古屋市中区三の丸3－1	県スポーツ会館内	052(941)6166	460
三重県	津市広明町13	県教育委員会	05928(8)9224	514
岐阜県	岐阜市薮田	県教育委員会保健体育課	0582(72)1111	500
滋賀県	大津市京町4－1－1	県教育委員会保健体育課	0775(24)1121	520
京都府	京都市上京区西洞院通下立売上ル	府教育庁保健体育課	075(451)8111	602
大阪府	大阪市東区大手前之町	府教育委員会保健体育課	06(941)0351	540
兵庫県	神戸市中山手通7－31	県青少年局	078(35)2801	650
奈良県	奈良市登大路町	県教育委員会保健体育課	0742(22)1101	630
和歌山県	和歌山市小松原通1－1	県教育庁保健体育課	0734(23)6111	640
鳥取県	鳥取市東町1－220	県教育委員会体育保健課	0857(22)7111	680
島根県	松江市中原町52	県立武道館内	0852(22)5718	690
岡山県	岡山市内山下81－1	県教育庁保健体育課	0862(24)2111	700
広島県	広島市基町4－10	県立体育館内	0822(21)4600	730
山口県	山口市東滝	県教育庁保健体育課	08392(2)3111	753
香川県	高松市番町4－1－10	県教育委員会保健体育課	0878(31)1111	760
徳島県	徳島市万代町1－1	県教育委員会体育保健課	0886(22)1111	770
愛媛県	松山市一番町4丁目	県教育委員会保健体育課	0899(43)0391	790
高知県	高知市丸の内5	県教育委員会体育保健課	0888(73)1111	780
福岡県	福岡市東薬院3－58	九電電算機仮設センター内	092(52)6905	892
佐賀県	佐賀市城内1－1－59	県教育庁体育保健課	09522(4)2112	840
長崎県	長崎市江戸町2－13	県教育庁体育保健課	0958(22)1111	850
熊本県	熊本市出水町今915	県教育庁体育保健課	0963(66)1111	862
大分県	大分市大手町3－1－1	県教育委員会体育保健課	09752(2)1111	870
宮崎県	宮崎市橘通東1－9－10	県教育庁保健体育課	0985(3)4111	880
鹿児島県	鹿児島市小川町3－56	鹿児島市合同庁舎	0992(23)6356	892
沖縄	那覇市通堂町3－45	奥武山陸上競技場	(2) 3277	

バドミントン少年団 結成状況

	団体数	団員数
北海道	6	99
青森県	1	21
岩手県	1	46
宮城県		
秋田県	7	130
山形県	3	113
福島県	1	21
茨城県	11	359
栃木県	6	170
群馬県		
埼玉県		
千葉県		
東京都	1	20
神奈川県		
新潟県		
長野県		
山梨県	1	16
富山県	1	48
石川県	1	42
福井県	6	269
静岡県		
愛知県	1	34
三重県		
岐阜県		
滋賀県		
京都府	1	11
大阪府	4	110
兵庫県	2	23
奈良県		
和歌山県		
鳥取県	2	60
島根県	2	52
岡山県		
広島県		
山口県	1	25
香川県	4	146
徳島県		
愛媛県	1	17
高知県		
福岡県	4	96
佐賀県		
長崎県	4	85
熊本県	1	18
大分県		
宮崎県	1	15
鹿児島県	7	148
沖縄		
合計	81	2,194

全国のスポーツ少年団 競技種目別結成状況

（昭和46年３月31日現在）

順位	種目	団体数	団員数
1	多種目	12,067	349,913
2	剣道	1,799	51,388
3	柔道	728	20,826
4	サッカー	709	21,238
5	バレー	658	19,084
6	野球	609	15,802
7	ソフトボール	603	14,267
8	卓球	387	10,491
9	陸上	248	6,836
10	バスケット	242	6,720
11	サイクリング	224	4,256
12	庭球	200	6,027
13	野外活動	187	4,833
14	水泳	168	4,839
15	体操	113	3,120
16	スキー	89	2,558
17	**バドミントン**	**81**	**2,194**
18	スケート	68	1,641
19	軽スポーツ	59	1,430
20	空手拳法	54	1,329
21	弓道	45	1,036
22	ハンドボール	24	830
23	馬術	23	454
24	山岳	22	517
25	相撲	19	506
26	海洋活動	15	357
27	ラグビー	12	593
28	なぎなた	11	186
29	ライフル	8	181
30	ホッケー	6	120
31	武道	5	174
32	カヌー	3	139
33	ヨット	3	40
34	居合道	2	35

〈ミニミニ特集〉

最近のスポーツ界 こんな話、あんな話

小さな球にママさん360人

ママさんばかりのピンポン大会ー。第一回東京家庭婦人卓球大会（報知新聞社主催）が、十三日午前九時から、東京・中野の中野区立体育館で行なわれた。参加は既婚の女性ばかり五十二チーム、三百六十人。決勝は品川区Aチームと足立区の梅島クラブの間で争われ、品川区Aチームが3ー2で初優勝した。

——東京家庭婦人卓球大会——

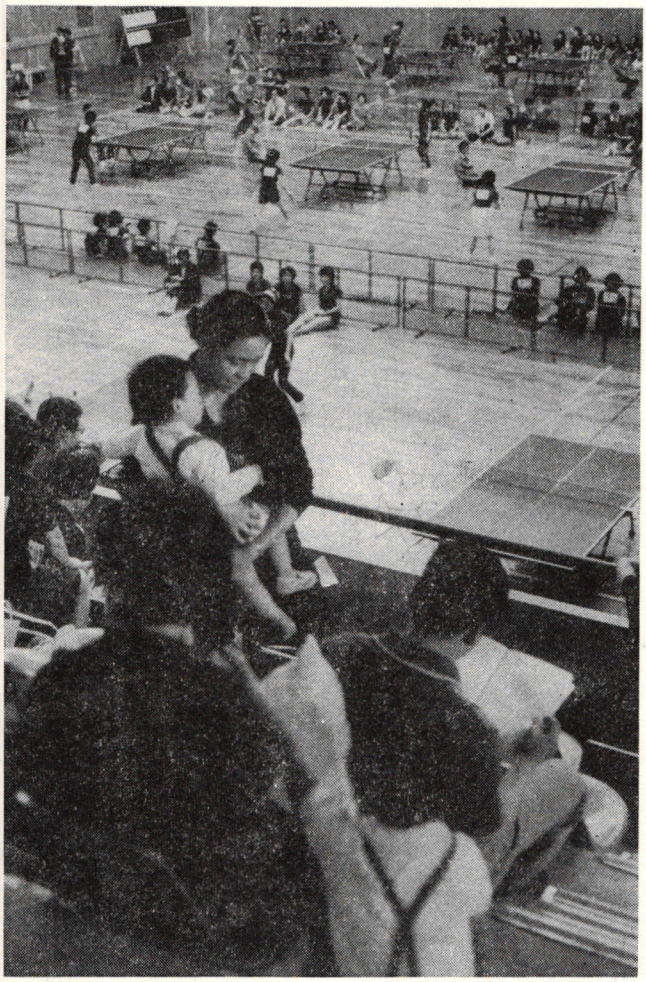
○…子供が走り回る。ご主人が懸命に声援を送る。ママさん大会独特のふん囲気で、館内は熱気がこもった。スタイルはユニホームがそろったチーム、ふだん着のような長いスカートの選手など、色とりどり。そんな外見より、やることがすごい。みんな卓球選手の形になっている。ドライブあり、速攻あり…。野村晃大会副会長（全日本チーム監督）は「世界選手権に出てもいいところまでやれそう」と内容に驚きの表情をみせた。

○…ママさんとはいっても、ほとんどが高校、大学などの元選手ばかり。昭和三十六、三十八年の全日本チャンピオン、両沢（旧姓・関）正子さん、元世界選手権代表選手の中条（旧姓・栃原）静世さん、昭和四十二年の全日本学生二位、小沢（旧姓・境田）美智子さんをはじめ、高校大会や国体で活躍した選手がずらり。中でも両沢さんの強さが参加者の注目をひいた。

○…両沢さん（三九）は銀行員夫人で二児の母親。決勝までの十試合を消化する間、長男の恒（ひさし）ちゃんがとびついたりしてなごやかなゲーム展開になった。ところが、腕前は相変わらずお見事。バックをつくスマッシュは、ほかの家庭夫人ではとうていついていけない鋭さがあった。「五年ぶりの試合だから、途中からは疲れちゃって…。足立区はレベルの低いところだから、ここまでくるのがやっと」と興奮に酔っていた。

○…品川クラブは若さにものをいわせた。リーダー格の小沢さん（三七）は、高校時代活躍した関口（旧姓・益永）マサ子さん（三七）とダブルスを組んで初優勝を決定的にしたが「五か月前に出産して練習していない」ということだった。

○…試合終了。競技役員の西田昌宏氏（東京卓球連盟理事）は「来年からは全国大会に発展させていく。この内容なら十分やれる」と選手層の厚さに目を細めた。（伊沢）



卓球に熱中するママさんたち。試合の合い間はスタンドで子供をあやすのに汗だく（中野区立体育館で）

（6月14日付け、報知新聞から。写真提供も同紙）

★勝てば官軍驚異バレーの視聴率★

昨年の異常なバレー・ブーム、おそらく皆さんも、ご存知だろう。人気の焦点は、もっぱら男子。それも〝二大強豪〟といわれる日本鋼管、松下電器の主力選手に集中しているらしい。

六月下旬のNHK杯では、この両チームの激突カードの日、試合開始は午前十一時半なのに、一番乗りが東京体育館前に並んだのは、なんと午前五時。

それも当日売りのキップを買うためではない。前売り特別席を持っている人たちだ。指定席といってもブロック指定で、席の番号がないので「早く行かないと、コートサイドの一番前列に座れない」ためだ。

もちろん朝食抜きでかけつけるのだから、ハラがへるのは当たり前。とうとう失神してベッドのごやっかいになるものまでいた。当日の入場数一万四千、その九割までが中高校の女子。

こんな状態だから、五月十七日―二十三日の日ソ・バレーも大当たり。対全日本男子のテレビ(NHK)は、19・7%の高視聴率をあげ、週間三本のバレー放送の平均は15・6%プロ野球の三本平均13・7%を軽くノックアウトしてしまった。

★馬術のアマ規定、馬に賞金OK★

馬術では、馬に〝賞金〟が出ている。ところが、いわゆるアマ規定は、人間を対象にするものなので、馬が賞金をもらうことを禁止できない、という、おかしな話があった。

これが問題になったのは、さきごろ和歌山県で馬術の〝国体リハーサル〟が開かれたとき。

たまたま取材に行った記者が、大会要項に「大障害飛越、一等×万円」などと書かれてあったのを見て、おかしいぞ、と記事にした。

そこで、日本体育協会が、関係者を呼んで事情をきいたところ「馬術のアマ規定では、例外として入賞馬の馬主に優秀馬育成の奨励金として賞金を出すのが、長い間、認められており、これはIF(国際連盟)でも〝常識〟になっている」ことがわかった。

このお金、実際は確かに馬主が受けとるのだが、意味上は、馬そのものにやる立て前。だから馬術競技の関係者の間では〝にんじん代〟と呼ばれていた。

日本体育協会も、これでは「ダメだ」といえず、今後は「国体やそのリハーサルなど、日体協が関係する大会に限っては、賞金を出すのを認めない」ことにした。

★ヒッピースタイルはおことわりだど

長髪族は試合から締め出します、と日本体操協会が決めた。

『最近の若者が理髪店に行くのは三カ月に一度。おかげで店はどんどん、つぶれかかっている』(東京新聞)――といわれるほど、長髪族がハバをきかしているご時世。

スポーツ選手の中にも、この人種が目立ってきたが、体操は〝芸術競技〟の一種。「美を追求する選手がこんなことではダメだ」と、いうわけだが、こまったのは国際規約にも「髪の長いのはいけない」ルールが書いてないこと。

かりにルールで決めるにしても、長髪とは何センチ以上をいうのか、長髪が悪ければ、ツルツル坊主はいいのか、など、むずかしい問題が多くて、キメ手がない。

はては「協会幹部の古いアタマで美の基準を決めるとは、もってのほか」という議論まで出るしまつ。

そこで、結局、長髪は①回転技などのときに、危険がある②たとえば仁立のさい、ザンバラ髪が垂れては美的でないから、減点の対象にもなる――として、まず、チームの監督に指示を与えることになった。

実際に長髪が多いのは、下のクラス。トップにこんなのはいない。

★これはすごい札幌五輪日本コーチ団

選手九十二人に対し、役員八十五人。札幌冬季オリンピックで、日本選手団は、世にも珍らしい、こんな編成になるはずだ。

これには、タネがある。役員八十五人のうち六十五人までは〝JOCコーチ団〟と称する〝覆面集団〟なのだ。

いわゆる正式の日本選手団は役員二十人、選手九十二人。これはオリンピック憲章で「役員の数は選手何人について一人」という規則になっており、むやみにふやせない。

しかし、一つでも多くメダルを、と意気込む日本としては、ルールどおりにやっていたら、勝てるものも勝てなくなる、と考えて、IOCの認めない〝隠密〟をつくっわけ。

六十五人のうち、三十八人はコーチ、残りはトレーニング・ドクター、マッサージ師、本部補助役員など。しかし、この人たちは、もちろん選手団としてのIDカードはもらえない。

東京オリンピックの時も選手団四百十人に対し、二百三十九人の別ワク・コーチ団がいて〝石を投げれば役員に当る〟といわれた。

コーチが多すぎて、選手の頭がかえって混乱しないかネ。

第一回全国中学生選手権

男女とも参加は27都道府県

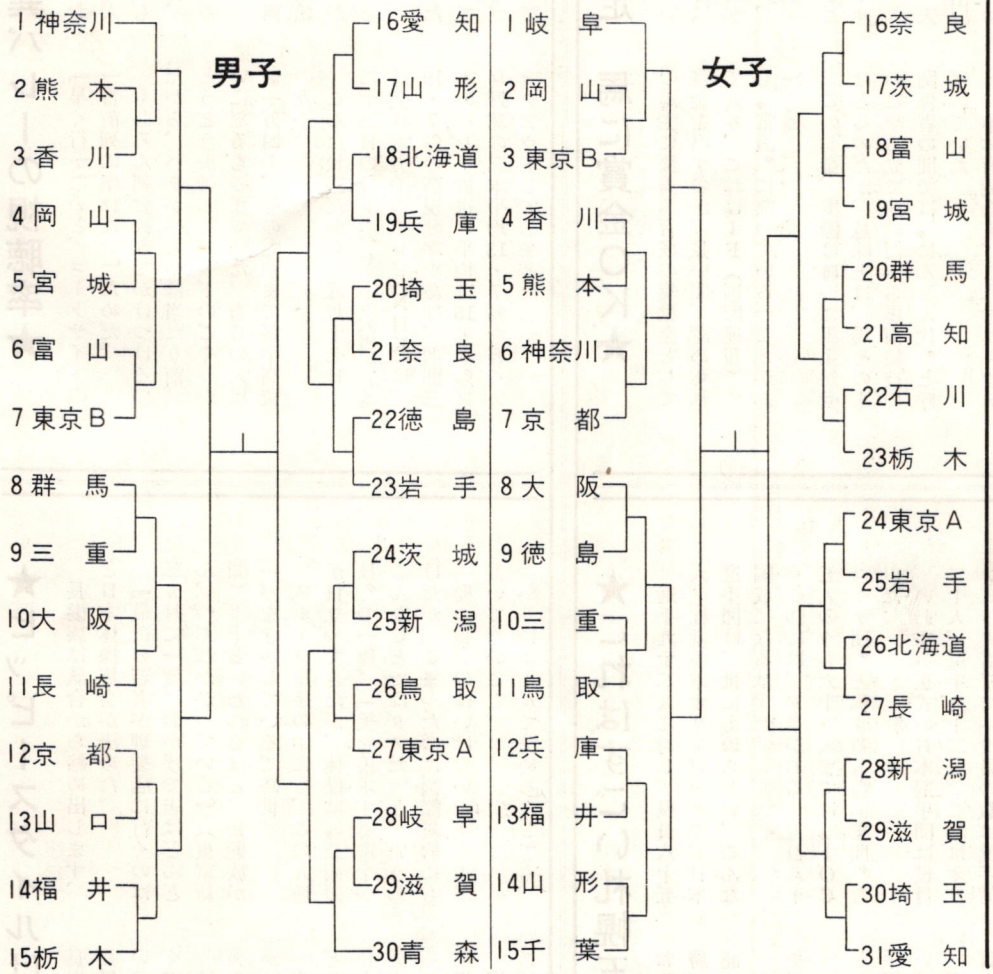
第一回全国中学生選手権大会は、七月二十六日から二十八日まで、東京・千駄ケ谷の東京体育館で開かれる（読売新聞社後援）が、その組み合わせが、このほど下記のように決まった。

参加は男子が30（東京は2チーム）女子が31（東京は2チーム）。府県の数に直すと、のべ32都道府県、うち男女とも参加するのは27、男女どちらかが参加するのは5。

逆に、今回参加を断念したのは秋田、福島、山梨、静岡、長野、和歌山、広島、島根、愛媛、福岡、大分、佐賀、宮崎、鹿児島、沖縄の十五県。

大会は県単位の対抗トーナメントで、各県チームは、必ずしも一校や一クラブでなく、自由な編成。選手は各県四人―六人で、一対抗は1複2単の三試合だが、同一選手は単複の両方には出られない。

初の試みに、全都道府県からの参加が得られなかったのは残念だが、大会関係者は「いろいろ問題はあるだろうが、まずやって、結果をみた上で、今後の参考に」といっている。



【人事】

【広島縣】

▼**会長** 天野辰雄（会社社長）▼**副会長** 橋本角市（会社社長）井上勉（大学教授）富田功（大学教授）▼**理事長** 安倍淳美（公務員）

【沖縄】

▼**会長** 稲福盛輝（稲福医院）▼**副会長** 金城英一（那覇商業）▼**理事長** 仲村寛市（糸満高校）▼**常任理事** 東盛良夫、兼島信夫、奥間朝彬、屋比久潔、仲本朝昌、宮井文彦▼**理事** 奥松健二、東大浜賢亮、山口光男、富本盛弘、比嘉鉦由、翁長保光、前城益善、知花秀康、宜志富紹英、上地健英

【新潟県】

▼**名誉会長** 朝倉良三▼**会長** 市嶋智三郎▼**副会長** 間瀬喜代治、坂井藤吉、馬場由太郎、吉田重男▼**理事長** 大里俊一▼**副理事長** 山田吉男▼**常務理事** 川谷貞夫、林辰夫、小林正、久住忠二、野崎真▼**理事** 宮沢高峰、高見広治、吉川勉、南波耕造、遠藤一也

日本協会アマ規定を IBFに英訳、送付

日本協会のアマチュア委員会（委員長・森友副会長）は、このほど、日本協会が本年二月一日付けで制定したアマ規定を英訳、IBF（国際バドミントン連盟）に送付、IBF規定化の参考にしてもらうことを決めた。

現在のIBFのアマチュアに関する規定は、かなり簡単なもので、アマ資格の認定は、加盟各国（協会）の権限に任される仕組みになっている。

バドミントン競技はミュンヘン五輪で〝公開演技〟として採択され、近い将来にはオリンピック参加も予想される情勢となってきたため、このさい、IBF自体としても、しっかりした規定をつくる必要がある、との判断が、こんどの日本協会の考え方の基本になっている。

業界勤務選手の行動を慎重に 日本協会要望

また、日本協会の川端理事長は、アマ規定に関連して、用具メーカー勤務の選手の行動を慎重にするよう要望した。

これは大会のおり、メーカーに勤務する選手たちが、試合の合い間に、ユニフォーム姿のまま、会場の出店で〝社員〟に早や変りして仕事をすることが多く、本人に他意はなくとも、いわゆる〝コマシャリズム〟のお先き棒をかついでいるような印象を与え、よろしくない、というため。

業界もこの趣旨を了承したがほかに、メーカー関係と仲のいい選手たちが、その出店の中で談笑したりしているのも、誤解を招く恐れがあると話題になり協会側も、選手に指導するよう約束した。

日韓高校バドミントンは 8月22日から東京駒沢で

本年度の日本×韓国高校スポーツ交歓競技会は、八月二十二日から三日間、東京の駒沢オリンピック公園と国立競技場の二会場で開かれる。

バドミントンの会場は駒沢屋内球技場。日本からは八月のインターハイ優勝チーム、東京都代表最優秀チームの二つ（いづれも男子だけ）が出場する。

なお、実施競技はバドミントンのほか陸上（男女）サッカー（男）バレー（男女）バスケット（男女）ハンドボール（男）軟庭（男）卓球（男女）庭球（男女のどちらか）の計九つ。

日本選手団総数は役員をふくめ二百八十人。八月二十一日に日本の結団式が行なわれる。

本間に代わり梅野尾 カルガリ国際招待大会

七月八日からカナダのカルガリ市で開かれる国際競技会（九カ国参加予定）に、日本からは小島一平（ヨネヤマ）本間順次（トヨタ自工）の両選手が招待されているが、このうち本間選手は、全日本実業団選手権と重なるため辞退、代わって梅野尾昌一（ヨネヤマ）の参加が決まった。

書類不備は返送 日本協会競技会 申し込み

競技委員会は、最近、日本協会主催競技会の申し込み書類に不備な点が多いため、このような場合は、事務局から返送し、正式書類の形で再提出してもらうことに決めた。

不備な点で一番多いのは①登録番号が書いていない②会長印が押されてない――の二点。従来は、このようなケースでも一応、受け付け、組み合わせを決めたあとで、修正を求めていた。今後は、手続きを厳しくやるので、書類不備で返送された場合、大会は間に合わなくなる、などのケースもあり得る。

各県協会事務局担当者は、特に注意するよう、お願いします。

★ 各地のスケジュール ★

◆日本協会 ▼全日本実業団選手権（5～9日、鹿児島市）▼全日本社会人選手権（23～25日、甲府市）▼第一回全国中学生大会（26～28日、東京）

◆京都府 ▼京都市中学校選手権大会（7月21―23日・洛星高）第29回京都府実業団優勝大会（7月25日・京都市体育館）京都府下中学校大会（8月8日・園部中）国体京都府予選（8月8、25日未定）京都府高校新人大会（8月26―28日・未定）第13回京都府実業団選手権大会（9月12日・京工大）西日本学生選手権大会（7月28日―8月3日・福岡市）近畿中学校総合体育大会（8月24日・大阪市東淀川体育館）国体近畿地区予選（9月5日・兵庫県）関西学生新人大会（9月3―9日・大阪あべの体育館）京都学生新人大会（9月11、12、15日府立大）第1回京都府社会人団体選手権大会（9月19日・未定）第16回京都府実業団新人大会（9月26日・洛陽工高）

◆香川縣 ▼香川県実業団選手権大会（7月18日・県立体育館）香川県中学校総合体育大会（7月26―27日・未定）国体香川県予選（8月14―15日・県立体育館）国体四国予選（8月22日・松山）香川対岡山定期戦（9月15日・県立体育館）

◆岡山県 ▼5第回県中学校総合体育大会（8月12―13日・未定）国体岡山県予選（8月22、28、29日・丸中他）第26回国体中国ブロック予選会（9月上旬・鳥取）岡山大・香川大定期戦（9月中旬・香川）第14回岡山・香川対抗戦（9月中旬・香川）

◆沖縄 国体予選第2次（7月18日・那覇商業体育館）第3回混合ダブルス選手権大会（8月29日・那覇商業体育館）

◆新潟県 国体新潟県予選（8月14―15日・新潟市）国体北信越地区予選（9月12日・金沢市）

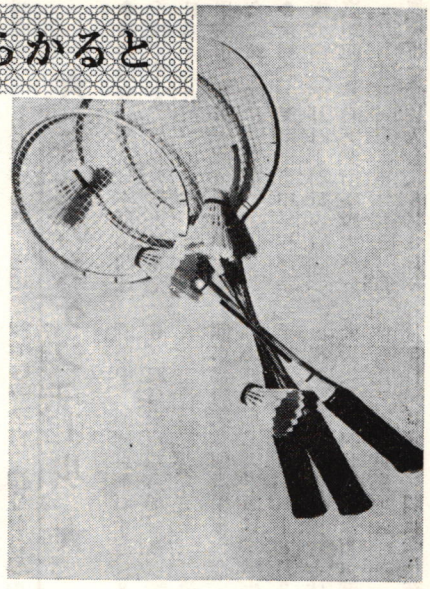
◆宮城県 東日本学生選手権大会（7月11―16日・札幌市）宮城県民体育大会兼東北大会予選会兼国体予選会（8月13―15日・古川市）宮城県総合選手権大会（8月29日・仙台市）

続・連載 ❶

バドミントン用具の話題あらかると

〈シャトルの巻〉

前・日本協会用具委員長
松本弘充（協会理事）



規則で決まっている 材質、形、寸法、重さ、速調

〝バード〟は愛称

バドミントン競技で不可欠の用具の一つにシャトルがあります。シャトルは正式にはシャトルコック（shuttle cock）といいます。辞書には羽子とか羽根とか訳されています。競技規則書では、シャトルと書いてありますが、よくコックとよんでいるのを聞くことがありますし、羽根の部分がシャトルで台の部分がコックだといっている人がいるようですが、このようなことはないのです。

バドミントンの正式な競技について話す場合は競技規則書通りシャトルといいましょう。バドミントン解説書の中にバードと呼んでいるのがありますが、これはシャトルの愛称ともいうべき呼び方で、真白なシャトルがあるいは速く、あるいはゆるやかに、高く、低く飛びかうありさまから、バード（bird＝小鳥）といったもので、何と美しい表現ではありませんか。

〔一〕シャトルの規格

競技規則第四条にシャトルの材質・形と寸法・重さと速調が規定されています。

1・寸法、重さ、羽の枚数は別表のとおりです。

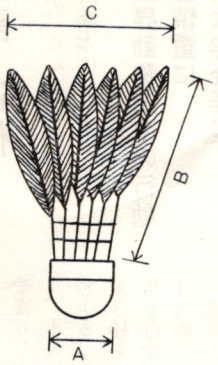
以上の規格のコルクの台に羽をとりつけ、糸か適当なものでしっかりと縛りつけることになっています。そして出来上りの寸法、重さが前表の規格になるように規定されています。

競技規則第四条としての規格は以上のようですが、国際規則の中で各国の事情によって、それぞれ一部をある範囲内で適宜定めることになっているものが二カ条ありますが、その一つに第四条があります。

それはシャトルの規格のうち材質と寸法だけは違っていても他の点が合っていて、その国の競技規則で認めれば、正式に使用してもよいことになっています。

〝合成シャトル〟も認められている

すなわちプラスチックやナイロン製でも、全体の形、重量、速調が規格に合っていれば認め



合成シャトル

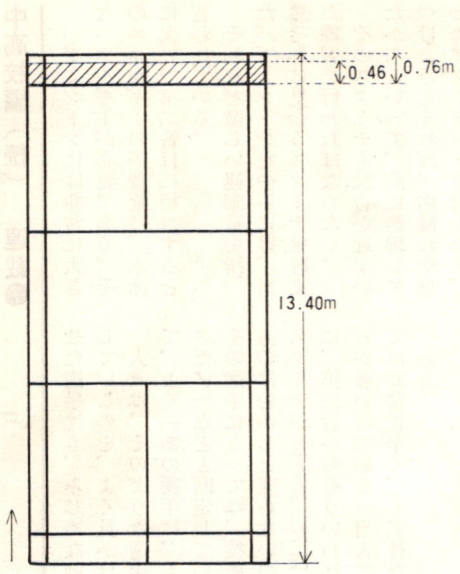
重　さ	4.73～5.50g
羽	スカート状
飛距離	12.64～13.10m

重　さ	4.73～5.50g
羽	14～16枚
飛距離	12.64～13.10m

寸法	A	2.5～2.8cm
	B	6.4～7.0cm
	C	5.4～6.4cm

てよいのです。我が国では条文には明記してはありませんが、昭和四十四年度から合成シャトルを検定会での審査の対象にしています。

正しい速調をおぼえよう



2・速調（pace）

ペース…辞書によりますと球速・速度などと一般に訳されていますが、規則書ではもっともふさわしい訳として「速調」としています。

速調は

①普通の力のプレーヤーが

②フル・スイングで

③手より下で打つ打ち方での四つの条件を充たし

④上に向って

⑤打点は一つのバック・バウンダリー・ラインの点で

⑥方向はサイド・ラインに平行に

打ったとき、向い側のバック・バウンダリー・ラインの手前0・3㍍以上0・76㍍以内に落ちたものが正しいものとされています。

したがって、打った者の方から12・64㍍から13・1㍍の間に（図の斜線部分）落ちたものが正しい速調のシャトルということになります。

ここでよく間違えられることはバック・バウンダリー・ラインの真上の点ということです。打者がラインの上にいることではなくて、シャトルがラインの真上でラケットによって打たれるという意味です。

試合前にシャトルをえらぶとき、速調やブレを見るならば

⊙シャトルがラインの真上で打たれ

⊙サイド・ラインに平行に

⊙下手打ちで

⊙上に向って、

⊙フルスイングで打たねばならない――わけで、コートの中央附近から打ったのでは正しい速調のシャトルはえらべないわけです。

また選手の中にはこの規定に示されている飛距離より飛ばないシャトルを好む傾向がありますが、世界共通の規則に示されている正しい飛距離のシャトルを使用して技量を磨くことが、世界に通ずるバドミントンということになるわけですから、正しい速調のシャトルを使用するように心がけるべきです。

普及に貢献した〝陸鳥〟

【二】シャトルの種類

シャトルは

① 水鳥シャトル

② 陸鳥シャトル

③ 合成シャトル

の三種に大別されます。

⊙水鳥シャトルは羽の部分が水鳥の羽毛でつくられているものを呼んでいます。現在使用されているのは鵞鳥（がちょう）の羽毛です。

⊙陸鳥シャトルは鶏の羽毛を使用したシャトルで、我が国では鶏の羽毛が充分入手できたため最初は陸鳥シャトルばかり使用され、製造されていました。

したがって、シャトルは鶏の羽毛でつくるものだとの印象を強くもたせたものです。日本人の器用さと研究熱心が鶏羽毛でシャトルをつくり出した。

そしてバドミントンを日本のすみずみまで普及させたのは、実にこの陸鳥シャトルの力であるといっても過言ではないと思います。

⊙合成シャトル　最近ナイロンやプラスチックでつくられたシャトルが出廻っています。これらのシャトルを合成シャトルと呼んでいます。

【三】シャトルの検定

昭和二十五年に日本バドミントン協会はシャトルの公認制度を設けました。そして競技規則第四条の規定によって検定し、合格したものを公認とし、全国大会には公認シャトルを使用したのです。

毎年一回は検定会を開いて公認シャトルを決定していましたが、昭和三十三年度から公認制を廃止し「検定合格シャトル」と呼ぶようになりました。

全国大会にはこの「検定合格シャトル」を使用しているわけです。（大会運営規程第五十条）検定制度が発足した当時は、全部陸鳥シャトルでしたが、昭和三十八年度の検定会には、初めて水鳥シャトルが提出され、合格しました。

また、合成シャトルが普及しはじめた昭和四十四年度には、推せんできる合成シャトルということで、審査合格の制度をつくりました。

そして合格の証としてシャトル一個ごとに水鳥、陸鳥には㊊合成には㊎のシールを必らず貼付しましたが、人手不足の今日ですので、昭和四十五年度から「検定合格証」「審査合格証」のシールをシャトル・ケースのふたとケースにまたがるように貼ることにしました。

スタミナは勝敗を左右する

これなくしては「根性」「特訓」も実らず

日本協会競技力向上委員　佐藤茂雄

バドミントンには非常に大きなエネルギーが必要である。そのエネルギーの消費量は、水泳に次いで第二番目に相当すると言われている。

それほど激しい運動量を持ったバドミントンをやるには、当然それに見合うスタミナを貯えた練習を行わねばならない。

そのスタミナも試合が近ずいたからといって、急に無理してつけようとすれば、肉離れや思わぬアクシデントを起したり、マイナス面が多くなるのは必至である。

デームの数日前までにスタミナ作りを終え、それ以後、試合までの期間は、スタミナを温存するよう心がけるべきであろう。

スタミナは急につけられるものではない。日頃から怠らず忍耐強く積み重ねてこそ、本物のスタミナがつくものである。

付け焼刃的なものは、ゲームの最中、遅くとも中半以後、必ずメッキはげて、バテてしまうものである。

せっかくの素晴しい技術も、軽快なフット・ワークも、数分間も持続することなく坐折する例が、しばしばである。

特に社会人の場合は練習不足が目立ち、そのむかし有名を馳せた選手達も、みじめな戦いをしているのを、よく見かける。

人々は、そのような選手を見て、よく「あの選手は、もうダメだ！」などと断定しているがその選手にとっては、技術的なものはむかしと変らないのに、スタミナがなくなったばかりに、第三者からそういわれることが多いのである。当人にとっては非常に辛く、不名誉な言葉である。

高校生などは技術的に未熟であるだけに、勝敗の岐路もスタミナの有無にかかってくる場合がほとんどである。

大学生ぐらいになると高校時代と異なり、技術的にも相当なものを持っているのでラリーも長く続くことが多い。したがって時間を多く必要とする。――となると、やはり、勝負どころはスタミナの多少にかかってくる。

もちろん、技術的に大きな差のある場合は論外である。あくまでも力関係が互角の場合においては、終局はスタミナが「モノをいう」ということである。

× × ×

だが、試合において主導権を握るものはスタミナである、という以前に、もっとも大切なことは、スタミナがなければ練習の場で、特訓を与えることが出来ない、と言う点である。

しぼりあげて、より早く上達させようと指導者が張切って見ても、それは不可能である。上達させようと思えば、当然、多少の無理も選手達に課さねばならないのはもちろんである。

強くなりたい、強くしたいと思うならば、技術以前の問題点として、スタミナづくりに重点をおいたトレーニングを厳しく行わねばならない。裏返えせば、スタミナづくりなくして、身心ともに優秀な選手は決して、生れ得ないということである。

× × ×

スタミナづくりには、もう一つの大きな要素が含まれている。すなわち、根性づくりである。スタミナ作りと根性作りは同時に行なわれるものと考えられる。

「根性」という言葉が、最近よく使われるが、これは猛練習に耐え、試合において、どのような選手と相対しても、粘りぬいて自分の持っている力を存分に発揮することだと思う。

練習でふがいなく、試合になって予期以上の力を発揮するなどはとうてい考えられない。

試合で雰囲気にのまれず、自分の力量を堂々と発揮するには、日頃から練習を充分に積んでいなければならない。

充分な練習を積むにはスタミナがなければならない。

スタミナ作りは孤独で、忍耐強く、しかも長期間を必要とする。それは苦しく辛いものである。

――それを怠惰な気を起さず、常に懸命に積み重ねてゆくなかで、根性が自然につちかわれてゆくのである。

× × ×

ニワトリが先きか、タマゴが先きかの論法に似ているが、試合に出て勝つにはスタミナが必要である。勝つには、厳しい練習に耐えねばならない。その厳しい練習に耐え得るには、一にも、二にもスタミナがなければならない。

簡単にスタミナ――というが選手は自分の限界に挑む心構えを持ち、指導者は選手の限界を熟知した上での指導を行わねばならぬことはもちろんである。

しぼりあげるだけが、スタミナ、根性づくりでないことを特に留意しなければならない。

× × ×

なお、スタミナづくりといっても、ただマラソン的でいいというわけではなく、スピードを持ったスタミナづくりでなければ、昨今のバドミントン競技にはついて行けないことを付記しておこう。

最近は、つい小手先だけでやろうとする選手が多いので、常々、諸先生方から力説されている点を、あえて再度、記したしだいであります。

（東大阪短大監督）

続・上級編〈プレーヤーへの手紙〉

⑥ 高校から始めても遅くない

距離〝ジャンパー〟鷲尾正一選手の場合

バカミントンとまでいわれた努力

日本教職員連盟常任理事　三須徳次

全国的傾向として年々、中学校でバドミントンのクラブ活動が、盛んになってきつつある現在では、中学校で経験した人と、高校からバドミントンを始めた人とでは、相当の差があります。

総合体育大会でも、上位進出者は、中学でラケットを持った選手がほとんどです。昭和四十六年からは中学の全国大会が開催されますので、さらに中学校での経験者が増大すると思います。

そこで問題になるのが、高校からバドミントンをやった場合は「すでに遅いのではないか」という疑問です。あるいは県によっては、中学で余りやっていないので、高校のクラブに経験者が入部してこない。そのため初心者ばかり多く、思うように上達しないという悩みを聞きます。

もちろん、中学時代に少しでもなじんでいるに越したことはありませんが、高校からでも、練習しだいで充分、間に合います。

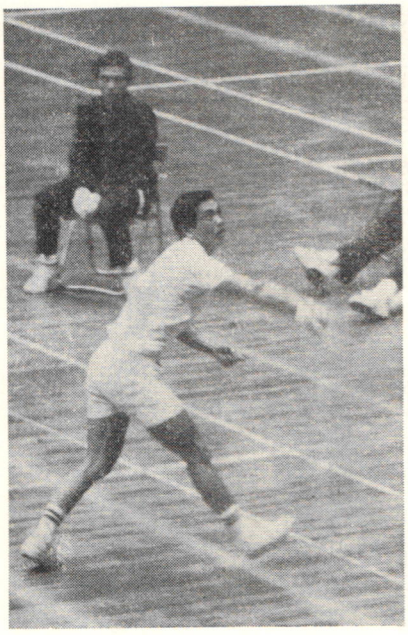
今回は高校からバドミントンを始め、現在、大学で活躍している、鷲尾選手を紹介しますので、参考にして下さい。

入部当時、鷲尾選手をみて、バック打ちは初心者的で難点があるが、ほかのストロークはまあまあなので「三年生頃には強くなる選手」と私は考えておりました。

従って三年生までは、基本を確実にマスターし、ゲーム練習でスピードに慣れれば、将来性のある選手と、秘かに思っておりましたが、鷲尾選手にとって、幸か不幸か、選手不足のため、二年生で未調整のまま、試合に出場するハメになってしまいましたので、基礎技術面にいちまつの不安がありました。

しかし、実戦面での経験をつんだお蔭で、本人が奮起するきっかけをつかみ、国際学生に出場。三年生になってからも、海外遠征のメンバーに加えられるようになりました。丁度そんなとき、上級生達は「鷲尾は総合体育大会に出場したのか？」と本人に聞いたほど、過去の実積を知らない人が多いようです。

鷲尾正一（新発田商工出身）現在、中央大学四年、主将。1㍍72、65㌔、ラケット重量一二六～一二八㌘。



高校一年生からバドミントンを始め、三年生になって、中学時代に経験した学友達を破り、総合体育大会に出場、シングルス三回戦で敗退。

同級生に中学からの経験者がいたことも、鷲尾選手にとって目標にもなり、なんとか勝ってやろうと、意欲をもやし無我夢中でバドミントンに打込み、定時制の練習にまで顔を出し、あげくのはて「鷲尾のはバドミントンではなく〝バカミントン〟だ」と部員達からいれるほど、徹底して練習を続けたそうです。中学校でやってきた人々に追いつくには、練習を人一倍やる覚悟で努力しなければ、強くはなれません。

特徴につきましては、ゲーム中、ジャンプする回数が多いことと、手首を非常に利かして打っていることです。欠点は踏み込む足と、体に柔軟性がないこと、及び試合中にペースが乱れた場合に、立直るのが遅いことなどです。

鷲尾ほどジャンプする選手は珍らしいと思います。だれでも、やたらにやれるものではありませんが、皆さんがチャンスのときに打込むスマッシュやアタックのときに、ジャンプをして打つことがありますね。そのようなときには、鷲尾選手を参考にするとよいのではないでしょうか。

体の堅い選手ですが、ジャンプとリラックスした手首が調和して繰り出されるフライトは、種類がなにか、予想できないことがしばしばあり、ジャンプ打法でのスマッシュ・ドロップ、ショット、ドリブン・クリヤーのコンビネーションは、大変味わいのあるおもむきがあります。

問題となるのは、ジャンプすることはそれだけ早く疲労するということです。長い試合とか、一日何回も試合するような状態になると、好ましくありませんから、今後は前述した高校時代の猛練習を忘れずに、人一倍のトレーニングを積んでこそ、ジャンパーの本領が発揮できるわけです。

（続）

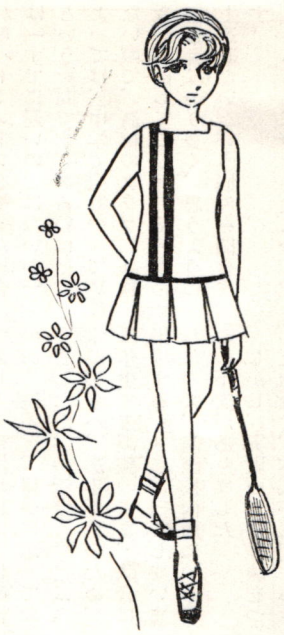
新・少年少女編 ❶

キミも強くなれる!!

健康であれば素質は二のつぎ

名選手とは「やる気」のある人

日本協会競技力向上委員長　伊藤基記



最近、小学校にバドミントンをするお友達が急にふえてきました。中学校の方は本年七月いよいよ第一回の全国大会が東京で開かれます。全国的に、学校の先生方でバドミントンを楽しまれる方が、これまた爆発的に増加しています。

世界的に見ても、国際バドミントン連盟（IBFと略称しています）に加盟する国が既に七十を越えて、まだふえつづけていますし、ミュンヘンのオリンピックでは、二コートでただの一日ですが、デモンストレーションとして、とにかく、姿を現わすことが確定しています。モントリオールでは恐らく、もう少し、拡大されるでしょう。ジャカルタでは正式の種目になるだろうという希望がもてるのです。

とにかく、この五年、十年の間に、バドミントンは押しも押されぬ、主要スポーツの、しかもトップに躍り出る可能性があります。

私は少年少女の皆さんに〝大志をいだけ〟と呼びかけたい気持でいっぱいです。少年少女時代から希望に胸をふくらまし、多少の困難はあっても、それを乗り越えて、基礎体力をつくり、技をみがき、心をきたえてもらいたいと思います。

私など、ずいぶん、としをとってから始めて、一時は死にものぐるいでやりましたが、どうしても追いつけない世界があり、少年時代から、教え、はげまし、時には叱ってくれる人があったらと何度、考えたかわかりません。

自分で通らなかった道、通れなかった道、それを、現代の素質に恵まれた少年少女諸君、諸嬢にぜひ通ってもらいたい。そうしてりっぱな名手になってもらいたいと願いつづけています。

せっかく、素質に恵まれながら、刺激のないまま、平凡な選手に終わることもあります。現在、私は体育の専門家として、大学で教えていますが、小学、中学、高校でも教えた経験があり、いろいろの種目の各選手にも会って、お話しをきく機会もありました。

とくにバドミントンでは、いろいろのよい場面を見せていただき、トップ級の選手諸君とも、いくらかお話しをすることもあって、どういう心掛けの選手が強くなるぞという、大体の線があるような気がしています。そこで、今号から〝君も強くなれる〟と題して、名手になるための心得帳のようなものを連載させてもらいます。

なるほど、と思うところがあったら、だまされたつもりで、思い切って、キミの練習生活の中にとり入れて下さい。

まず五体満足であることに感謝しよう

もう少し、りっぱな体格であったら、もう少し、背高く育ててもらっていたらとか、もう少し力が強いように生れついていたら、とか、不平に思う前に、あたり前のからだに生れついていることを、神やご両親に感謝しなければなりません。

私は職業柄、肢体不自由の子供さん方に接することがあり、本当に気の毒に思います。そうして、手足がそろい目鼻がちゃんとついている人間が、それだけで、いかに恵まれているかということを、しみじみと感じます。手足がなく、口だけで、ものをくわえて動かし、すばらしい仕事をする人もいます。

五体満足にそろっているものが、本当にやろうと思えば、どんな苦しいことにも耐えぬく根性があれば、できないことはない……むかしから、すばらしい大仕事をやった人は、みな、この感謝の気持の上に、人間の心と体が持っている、ふしぎな力を信じていたように思われます。

火事のときに、おばあさんが、タンスを運び出してしまっていたという事実は、人間が心をこめれば、常識では考えられないような力を出し得ることを証明しています。私は別に神がかり的なことを強調しているのではありません。どんなことがあっても、名手になってやる、優勝してみせると決心した時に、キミはすでに九分どおり名手になり、優勝しているようなものです。ところが、この決心をなかなか普通の人はやらないのです。だれもこの決心をしないから、キミはやりがいがあるというものです。

飯田夫人（旧姓・裕）が〝三冠王〟に

第一回富山県社会人　男子は今泉が単複制す

◆第一回富山県社会人選手権大会（5月23日・高岡商高体育館）

一般男女の単複、混合、男子の三十歳、四十歳各単複と計9種目にわたって行なわれた。

一般男子では社会人一年生の今泉（中大出、高岡市役所）がイキのいいところをみせて活躍、シングルスでは清水（氷見高教）を破って（棄権）、河村（高岡市役所）と組んだダブルスではベテラン高林・寺前組（奥野敬商店、日産チェリー）にストレート勝ちで、二タイトルを独占した。

また、女子では飯田夫人（旧姓・裕＝日女体大出、富山市役所）が断然、強味を発揮した。

シングルスでは沢田（洋装研究所）に第二ゲーム1点しか与えず完勝、この沢田と組んだダブルスでは沼・荒俣組（沼塗装、富山銀行）にストレート勝ち、さらに混合ダブルスでは、高林をパートナーに、寺前・沢田組をしりぞけて〝三冠の女王〟となった。

男女とも那覇商が七連勝飾る

◆第七回全沖縄高校選手権大会兼高校総体予選（7月20、21日・那覇商高体育館）

団体戦は男女とも那覇商高が強く、ともに七連勝を飾った。

個人戦の男子シングルスは、宇座×大原の那覇商同志で争われ、新人の大原が2―1で逆転勝ち、初優勝した。

女子は与那嶺（那覇商）が圧倒的な強さを発揮、シングルスダブルスの二つを握った。

この結果、沖縄の全国代表は団体が男女とも那覇商高、個人は次のように決まった。

しかし、全体的な実力は、男女とも前年より落ちているように思われ〝本番〟で、どうたたかうか、とにかく1勝めざしてがんばってほしい。

大会運営上の問題として、試合が長びいたため翌日まで引き延ばされ、男子個人戦のダブルス決勝は行なわれず、団体戦決勝のダブルスの結果をそのまま決勝の成績にふりかえ、という異常な事態となった。

選手の戦意にも、こうしたことが影響を与えたように思う。協会の反省を望みたい。（比嘉鉦由氏提供）

〔個人戦代表〕▼男子ダブルス＝宜志富沼春・根間進（首里）▼男子シングルス＝宇座徳和、大原伸輝▼女子ダブルス＝嶺井シゲ子・宮城和美（知念）与那嶺恵子・比嘉道子（那覇商）▼女子シングルス＝与那嶺恵子、挑原吉子（那覇商）



▲女子三冠王の飯田夫人（上）と男子で二種目優勝の今泉選手

男子は茨木、女子は四条畷学園

◆第25回大阪府民体育祭兼全国高校総体予選（4月25～6月6日、府立体育館別館ほか）

男子団体は茨木高、女子団体は四条畷学園高がそれぞれ優勝した。男子単は瀬良（布施工）女子単は昨年末の東南アジア遠征組の西尾、秋本八（四条畷学）が対戦、西尾が優勝した。

名商大が11回目の優勝

◆第33回東海学生、第19回愛知学生選手権大会（5月22―29日・名古屋市体育館）

団体、個人戦ともに行なわれた。団体の男子一部は名商大が5戦全勝で二年ぶり十一回目の優勝を飾った。女子一部は名女大、愛知教大、南山大が4勝1敗の同率となったが、ポイント数で名女大の優勝が決まった。名女大の王座は七年ぶりで七度目のもの。

男子は法大が八度目の優勝
複に抜群の強み
＝関東学生春季リーグ＝
女子は日体返り咲く
青学は四位に転落

関東大学春季リーグ戦（後援＝朝日新聞、東京12チャンネル）は五月七日から、男女一部の東京・目黒体育館を主会場に、各地で行なわれた。

メーン・イベントの一部リーグ男子は、戦力の変動の少なかった法政大がライバル中央大を5―2で破り、三シーズンぶり八度目の優勝を飾り、女子では安定した実力を持つ日体大が、新人の活躍とあわせ、二シーズンぶり四度目の王座についた。

（記録詳報は巻末のレコード欄にあります）

▼男子一部順位 ①法大5勝②中大4勝1敗③日体大2勝3敗（25ポイント）④早大2勝3敗（22ポイント）⑤日大2勝3敗（16ポイント）⑥関東学院大5敗

▼女子一部順位 ①日体大5勝②日女体大4勝1敗③東女体大3勝2敗④青学大2勝3敗⑤千葉大1勝4敗⑥昭和女大5敗

【総評】男子優勝決定戦は、最終日の中央大と法政大の間で争われ、第一シングルスは両校のポイント・ゲッター同士の対決。笠井のスマッシュなどがうまくコースをつき、7本、10本で鷲尾をワンサイドにくだしたが、もう少し鷲尾の粘りを期待したかった。

シングルス（前半）は2勝1敗と中央大がリードしたが、中盤のダブルスで法政大が強さ発揮した。第一ダブルス、学生界の横綱ともいわれる草島・田所組。それに対戦する尾崎・小泉組は二セット目、やっとセッティングに持ちこんだが、試合経験の豊富な草島組に軍配は上がった。

練習はいつもダブルスに重点をおいているそうで、その結果があらわれたようだ。結局5―2で法政大が8度目の優勝を飾った。

三位争いは日体大、早大、日大が同率（二勝三敗）となったが、ポイント差で日体大が「一部リーグ」わずか2シーズン目で初のAクラスの夢を果した。

日体大は門間、木戸、牛渡などの活躍で最終日、早大を5―2で破ったが、特に牛渡は早大の二番手二上をストレートで破り、また第二日、対法政大のトップ・シングルス笠井をファイナルで破ったのは立派。早大は今井、二上と同等なプレイヤーをあと二人は欲しいところであろう。本間の成長振りを期待したい。

日大は遠藤、牧野が健闘し、特に去年の新人王遠藤は5戦5勝と強さを見せた。関東学院大は高橋の不参加などあって、わずか4ポイントしかとれず、他の五校との差がいちぢるしかった。



× × ×

女子は初日から番狂わせが起きた。それは青学大×東女体大の一戦で青学が苦杯を喫したことである。

第一シングルス、漆畑と名和の対戦。名和は小さいながらも相手の角度あるスマッシュを拾いまくりファイナルで勝ち、東女体大は調子の波にのった。2―2のタイから第三シングルスは栗原がストレートで山崎を破り、高坂のひきいる青学大は惜しくも負けてしまった。

高坂の2勝は、一人で青学大のポイントをかせいだ結果になり、レギュラーの層の薄さに敗因があったのだろう。

第三日、2戦2勝できた日体大×日女体大の試合は事実上の優勝決定戦。第一シングルスは堀川と塩崎の対戦、塩崎はいつものような走るプレーが出来ず堀川にストレート負けとなったが、第二シングルスは谷沢が小片を逆に2―0で破り、ダブルスもタイのあと勝敗の分かれめ

は第三シングルスの新人陣内×池田戦に持ち込まれた。

第一セット1―9と池田がリードしてこのセットを簡単にものにするかと思ったが、昨年度インターハイ単複優勝の実力がこの後から起った。コースの突き方が上手な陣内は、池田をじりじりと追い上げ、ついにセッティングに持ちこんで12―11と第一セットをものにした。

勢いに乗った陣内は二セット目は相手を寄せつけず池田に勝ち、結局3―2の大熱戦で日体大は日女体大を破った。

その他、日体大は青学に3―2で勝ち5戦全勝となり四度目の優勝杯を手にした。日女体大は最終日青学大を3―2で破り第二位、秋のリーグ戦で優勝した青学大は一挙に四位の座に転落してしまった。学生界ナンバーワンともいわれる高坂（リーグ戦を通じ単複とも5戦全勝）一人では、リーグ戦という団体戦の中に於いて荷が重すぎたようだ。

東京女子体育大学は初のAクラス突入。千葉大は昭和女大を破って第五位に上がったが、昭和女大もレギュラーの不足で、このリーグ戦五日間を通してわずか2ポイントしかとれなかったのは遺憾である。

リーグ戦を振り返って特に感じたのは一部において全般的トップレベルの低下と、体育系大学以外の大学の選手層の薄さが目立ったこと。関東学連において、これからの課面となるであろう。

新人の活躍では、全体的にこれといって挙げるものがいなかったが、日体大一年生の陣内がシングルス3戦3勝、ダブルス3勝1敗と好調で、優勝の原動力となったことはほめたたえてよいだろう。

（全日本学連副委員長　保坂佳人）



ヘアピン

本人も買う写真展

○…目黒体育館の受け付けのそばに前年度新人戦入賞者の試合写真10点を展示した。お客さんに選手の名前を覚えてもらおうとの狙いだが、同時に一枚20円ナリで予約販売。当の選手自身まで申し込む売れ行きに、係りもびっくり。

「母の日」ママさん無料

○…リーグ戦第三日は「母の日」。その前日、学連では「全員、胸にバラをつけようか」「ママさん無料は」と即座に意見一致、そのための特別ポスターをつくり、鈴木委員長みずから近所に貼りに行った。バッグン!!当日はもちろん、ぞくぞくと体育館に。

○…会場近くにある美容院へプログラムと招待状を持って、K君、自信ありげに「こんちわ関東学生バドミントン連盟のものですが、ポスターをカベに張っていただけないでしょうか」

ふだん、女の子と話したことのないK君、このチャンスに少しでも長く粘ろうとしたが、あっさりOKもらい、かっくり。

観光バスまでおとずれる?!

○…初日、一台の観光バスがとまり、体育館に（本当に見に来たのかな?!でもうれしい）

最終日午前中には、プログラムもバサバサと飛んでいき、とうとう〝売り切れ〟の立て札を出した。表紙のデザインと内容がよかった。デザイン考えたH君、ひとりで「さすがァ……」

スタンドの方がよくわかる

○…第三日と最終日は日曜と重なったためスタンド超満員。特に最終日はフロアにイスを出して座ってもらったが、ある観客「スタンドの方がタマのコースがよくわかる。イスはけっこう。スタンドで立って見る」熱心さに頭が下がった。

ウハウハ女子を追っかける

○…ある週刊誌が取材に見えた。仕事は〝女性専科〟らしくもっぱら女子選手にカメラを向け、パチリパチリ。選手以上に汗びっしょり。これを取材したS君の報告いわく「ウハウハ女の子を追っかけていたよ」やくんじゃない。男もそのうちモテる日が来るよ。（N・H・K）

ルール100問？

早わかり競技規則

連載 ⑱完

日本教職員連盟
審判部監修

問94　シャトルがネットに当たって、打ったプレーヤーの側へ落ちたとき、フォルトになるのは、ネットに当たった瞬間ですか、それとも地面に着いたときですか。

答　地面に向って落ちるときなのです。以前には、地面に着くまでイン・プレーと考えられていましたが、昭和37年から、現在の解釈になり、競技規則の語句も改められました。これは規則の改訂ではなく、解釈の変化です。

ですから、ネットに当って打者の側へ落ちかけた後に、対手プレーヤーがフォルトに該当する行為をしても、「ネット」のフォルトの方が先きですから、後でしたことはフォルトにはならないことになります。

例えば、ネットの下から対手コートへラケットを突き出し、床に向って落ちようとするシャトルを空中で受け止めても、エチケットとしてはかんばしくありませんが、規則上は構わないのです。

問95　ネット際にいる対手が水平にシャトルを打つときでも、こちらはネット際でラケットを上にあげてはいけないんですか。

答　対手がネット際で下へ向って打つときだけ、ラケットをあげてはいけないときめられているのですから、下から打ち上げるときや、全く水平に打っているときなら、こちらは、ネット際にいても、ラケットをあげて構いません。

要するに、対手の妨害になるかならぬかが問題です。ですから、顔を防ぐためにラケットをあげることは、たとえ対手が打ち落す場合でも許されますが、対手の動作を中絶させる気配があれば、「インターフェヤー」とも起きるかも知れませんね。

そのほかは、フォルトやレットを機を失せず主審がコールします。これが円滑に行なわれていれば、審判長をわずらわすこともほとんどなくなってくるはずです。

問97　第3ゲームの前の休憩は5分と書いてありますが、必らず5分休まなければならないんですか。

答　この条項はそうなっていますね。このインターバル（interval）を与えるかどうか、与える場合、何分にするかは各国のバドミントン協会がきめます。

男子および女子の世界選手権大会では「5分以内の休憩が許される」ことになっています。これを5分以内の何分にするかは、その選手権大会の開催地の気候に応じ、関係国が話し合ってきめます。

大体において、アジア地域では単複とも5分、豪亜地域とアメリカ地域では単のみ5分、欧州では単複とも与えないところが多いようです。この休憩が設けられたのは、昭和30年からでその狙いは「プレーの継続」にあります。

試合中、体力や息切れを回復したり、コーチを受けたりするために、一時中止をするプレーヤーが目立って来ましたので、気候に応じ与えるべき休憩は、ファイナル・ゲームのある際にその直前に与え、その代り「プレー」から「ゲーム・セット」まで継続して試合を行なうという取りきめです。これが本当のバドミントンの姿なのです。バドミントンの試合はスタミナの競争だといわれる位です。

試合中のプレーヤーの勝手な一時中止は「フォルト」事項ではありませんが、主審の制止をきかず、これを犯した際には、試合没収をする権限が主審に与えられています。フォルトで1点失なうどころか、厳しい罰則です。

問98　解説の1と2は、今までお話しの間に全部説明していただきましたね。

答　ええ。解説1は第14条第4項のポークの説明でした。解説2は、妨害についての説明です。この「解説」はIBFで定めた解説ですが、このほかに各国のバドミントン協会が独自の解説をつけることは、IBFが禁じています。

日本の競技規則書も、古いものには、各条項の次に一つ一つ解説が挿入してありましたが、IBFからの通達があってからは除かれました。

問99　解説3の（1）についてですが、例えばどんなことを規定するんですか。

答　これはいわゆる「会場ルール」に関することです。例えば天井が低くすぎたり、電灯などがコート上に垂れ下っていたりした場合、細則を設けておかないと、これにシャトルが当ったとき全部フォルトでは、実力を発揮できないし、興味も半減します。

そこで「会場ルール」を定める場合はレットにするのです。このことはついては第Ⅱ編大会運営規定の会場のところで詳しいお話をいたしましょう。

問100　次の解説3の（2）は「大会ルール」ですね。

答　よく知っていますね。先にお話ししましたように、バドミントンの大会は競技規則と大会運営規定に基ずいて行なわれますが、その大会、その会場についての特別ルールが必要なことがあります。

第3ゲームの直前のインターバルは規則第22条で5分とはっきりきめていますが、この解説3の(2)により、大会ルールで3分にしたり0分にしたりできるのです。

大会ルールにはこれ以外にも色々なことが規定されることがありますが、これも第II編の大会運営規定の説明のときお話ししましょう。

もし、ある大会に出て、大会ルールを見てもインターバルについても何も書いてなければ、単、複とも5分間という22条通りということになります。

岡山で世界選手権者模範試合

県協会と教職員連盟が協力

本年度の全日本教職員大会は岡山市で開かれるが、地元の岡山県協会は、そのさい八月八日、教職員連盟の協力を得て「世界選手権者模範試合」を開催することになった。

教職員連盟は今年で大会十周年を迎えるので、その記念行事にもなり、また、連盟のメンバーが、ただ大会で試合するだけでは能がない、ということもあり、喜んでこの企画に協力することになった。

ほかに岡山県と岡山市の教育委員会、岡山県の高体連、中体連バドミントン部、山陽新聞、山陽放送が後援に加わる。

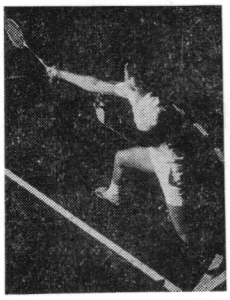
参加選手はユ杯コーチとなった堺栄一（河崎ラケット、昨年度全日本総合複、混合複1位）小島一平（ヨネヤマラケット、昨年度全日本総合、社会人単1位、デンマーク・オープン単2位）梅野尾昌一（ヨネヤマラケット、昨年度全日本総合複1位、単3位）

以上の男子三選手のほか、女子の高木紀子（弘文堂）天野博江（東海女短大教）湯木博江（河崎ラケット）浦口恵子（岡山鉄道管理局）が予定されている。

いづれも卜杯、ユ杯の代表を経験した選手で、これだけのトップ・クラスが一堂に集って、妙技を公開するのは初めて。

関係者は、せっかくの機会に新設の会場・岡山武道館を満員にしようと、各方面にけんめいの呼びかけ。教職員大会の直前には、海をへだてた香川県で全国高校選手権があるので、参加選手の観戦をすすめている。

《表紙》



遠藤好雄（日大三年）

日大山形高の出身。山形はかって板垣兄弟（兄はアジア大会コーチ、弟はトヨタ自工）などを生んだ有力県。以来、低滞ぎみだったが、男子は日大山形、女子は新庄南の活躍で、最近また息を吹き返したようだ。

以下は本人の出してくれたメモによる自己紹介だ。

身長170㌢、体重58㌔。兄が高校時代バドミントン部にいたため、つられて中学から始めた。

高校時代は全国大会で団体三位、個人戦単複とも四位。大学に進み、一年はインカレ単ベスト16、二年で同4位。新人戦優勝、東日本学生5位、関東学生4位。三年では関東学生に優勝、複2位と順風満帆の勢いだ。

趣味を見ると、どうも、のんびり屋さん。寝そべって本を読んだりテレビを見ている、とのこと。子供の遊び相手になるのが好きともいう。好きなもの、コーヒー、生野菜。

短所は短気との自己診断。これを逆手に、短気をドリブン・クリアーに爆発させるが長所としごく明快だ。

《編集室から》

編集者の時間の都合と、題材の集り具合から発行が遅れ、やむなく、創刊以来の〝合併号〟に踏み切った。このことを、最初におわびしておきたい。

その代わり、内容はできるだけ、はずんで、ユ杯関係の座談会「小島はハルトノになぜ勝てない」対談、遠征レポート、陣内選手の横顔、ネパール便り、久しぶり登場の読者の広場、スポーツ界の話題etc…。

かなり、読みごたえがあると自負している。おかげで紙面が足りなくなり、ついに巻末の英文ページはあずかりおくハメになった。

今後は、読者各位のご要望も入れ、なるべく話題、人間くさい読みもの、講座等を充実していきたい。

例によって、次号は決定的予告はできないが、ひとつ、いま話題の中国問題をとり上げてみたい。日本協会も過日の総合で〝中国交流部会〟設置に踏み切った。

お知らせひとつ。高木紀子、小島一平両選手が、日本協会広報委員に名を連ねることになった。バド界での活躍も近い。

（　）（　）（　）

本号の協力スタッフ　表紙撮影・松井亮磨／同製作・小浜正道／写真・山田真市、山村徳太郎、中田正彦、海外遠征選手団ほか／カットとまんが・秦浩、保坂佳人、芦間登美子、湊しおん／その他・加盟協会、愛読者

公　　告

日本バドミントン協会では、総会の決定にもとずき、昭和46年度の協会検定、審査合格、および推奨のバドミントン用具を、別表のように決めましたので、ここにお知らせします。

昭和46年４月１日

日本バドミントン協会

昭和46年度日本バドミントン協会検定合格用具

シャトルの部	会社名	銘柄名	小売価格（1打）
（水鳥）	有限会社西村スポーツ	バード・デラッス	¥ 2,000
		バード・トップ	¥ 1,850
	日本バドミントンインダストリ株式会社	CM・ホワイト・ウィン	¥ 1,500
		CM・シルバーブルー	¥ 1,300
		CM・ゴールドブルー	¥ 1,200
	有限会社ジャワ商会	ファスト・シルバー	¥ 1,550
		ファスト・ゴールド	¥ 1,700
	株式会社諸江製作所	サンバタ・キング	¥ 1,850
		サンバタ・クィーン	¥ 1,650
		サンバタ	¥ 1,650
	羽立工業株式会社	水鳥羽立検定合格球	¥ 2,000
	株式会社ヨネヤマラケット	トーナメント	¥ 1,800
		トーナメント・デラックス	¥ 2,100
	株式会社三和	サンワ印ハイレッド	¥ 1,500
	大阪合繊株式会社	O.G.S	¥ 1,650
	株式会社トヨダ・スポーツ	トヨダ・トーナメント・ブラック	¥ 1,700
		トヨダ・トーナメント・ブルー	¥ 1,850
（陸鳥）	羽立工業株式会社	陸鳥羽立検定合格球	¥ 1,140
	株式会社諸江製作所	サンバタ・スター	¥ 1,000
		サンバタ	¥ 1,000
	株式会社ヨネヤマラケット	トレーニング検定球	¥ 1,000
ネットの部	松本製網株式会社	倉敷ビニロン	¥ 1,800
	株式会社寺西喜商店	バドミントンネット検定ビニロンKT518	¥ 2,200
	鐘屋産業株式会社	ナイロンA	¥ 3,000
		ビニロンB	¥ 2,500
	株式会社ジィティヤング	702112	¥ 2,700
		703115	¥ 2,200
		703015	¥ 2,000
	ミセキネット製作所	№50VA	¥ 2,600
		№52　A	¥ 2,000

審査合格用具

シャトルの部	会社名	銘柄名	小売価格（1打）
	株式会社メトロ	インターナショナル・トーナメントモデル	¥ 2,400
	羽立工業株式会社	カレッヂ	¥ 1,800
		ハタチ・チェンジャー	
		ハタチ・ハイコック	

昭和46年度日本バドミントン協会推奨用具

	銘柄名		会社名
ラケットの部	№B-70	セブンティー	¥5,000	河崎ラケット工業株式会社
	№B-69	ブルーリース	¥3,500	〃
	№1,200	スタミナデラックス	¥2,800	〃
	№1,000	スタミナ	¥2,200	〃
	№ 201	ウィニングコース	¥1,500	〃
	№ 206	エバーウィン（張上り）	¥1,200	〃
	№ 208	エバーウィンジュニア（張上り）	¥1,200	〃
	№	ダンロップマックスプレイフォート	¥4,320	株式会社 諸江製作所
	№3,500	キングメイト	¥3,300	〃
	№3,333	ゴールドキング	¥3,000	〃
	№3,000	ゴールドキング	¥2,500	〃
	№2,000	キングクリッパー	¥1,500	〃
	№1,000	シルバーデラックス	¥1,400	〃
	№ 800	ダンディ	¥1,000	〃
	№T—1	エクセレント	¥3,500	大阪合繊株式会社
	№ 2	ハイ・スピード	¥3,500	〃
	№ 3	ハイ・トーマス	¥3,000	〃
	№ 10	フィアレス	¥2,500	〃
	№ 20	プロフェショナル	¥2,000	〃
	№ 30	フェニックス・インペリアル	¥1,500	〃
	№ 80	ピーコック	¥1,000	〃
	№ 90	クラブモデル	¥ 700	〃
	## 8,000	アルミナハイパワー	¥4,000	株式会社ヨネヤマラケット
	## 7,000	アルミナエース	¥4,000	〃
	## 6,500	トップエース	¥3,500	〃
	## 6,000	ファイブエースデラックス	¥3,500	〃
	## 5,000	ファイブエース	¥3,000	〃
	## 4,000	カレッジエイトデラックス	¥2,500	〃
	## 3,000	カレッジエイト	¥2,000	〃
	## 2,000	キングダイヤ	¥1,600	〃
	## 1,000	クィーンハート	¥1,300	〃
	## 8	スリーエイト	¥1,000	〃
	## 7	ラッキーセブン	¥ 800	〃
		キャリー 7	¥2,500	株式会社 メトロ
		カァルトンラケット 3ポイント7	¥1,800	〃
		カァルトンラケット 3ポイント9	¥4,800	〃
	№4,000	ニューアルバート	¥2,500	株式会社 トヨダスポーツ
	№3,000	ニューブルー	¥2,000	〃
	№2,000	ニューブラック	¥1,500	〃
	№1,000	ニューミニ	¥1,200	〃
	№ 8	ウインナー	¥ 900	〃
ウェアーの部	№ 500	半袖シャツエイトロック（男子）	¥1,200	河崎ラケット工業株式会社
	№ 510	半袖シャツエイトロック（男子）	¥ 900	〃
	№ 518	半袖シャツエイトロック（男子）	¥1,600	〃
	№ 502	長袖シャツエイトロック（男子）	¥1,300	〃
	№ 532	ショートパンツストレッチ	¥1,700	〃
	№ 533	ショートパンツ（男子）インサイドベルト付	¥1,500	〃
	№ 535	ショートパンツ（男子）	¥1,000	〃
	№ 525	長スポンストレッチ（男子）	¥3,000	〃
	№ 500	半袖シャツエイトロック（女子）	¥1,200	〃
	№ 510	半袖シャツ（女子）	¥ 900	〃
	№ 595	スコート（プリーツ）	¥1,100	〃
	№ 592	スコート（ボックス）（ユーバ型）	¥1,500	〃
	№ 590	スコート（フレアー）	¥1,500	〃
	№ 505	ノースリーブシャツ	¥1,200	〃
	№ 502	半袖・長袖シャツ（女子）	¥1,300	〃
	№ 518	ライン入りシャツ（女子）	¥1,600	〃
	## 104	ショートパンツ	¥1,600	株式会社ヨネヤマラケット
	## 105	ショートパンツ	¥1,400	〃
	## 106	ショートパンツ	¥1,100	〃
	## 107	シャツ（男子）	¥1,100	〃
	## 108	〃	¥1,400	〃
	## 109	〃	¥1,500	〃
	## 200	ミニスカート	¥1,800	〃
	## 201	〃	¥1,600	〃
	## 202	〃	¥1,200	〃
	## 203	〃	¥1,100	〃
	## 204	シャツ（女子）	¥1,400	〃
	205	〃	¥1,400	〃
	## 206	〃	¥1,500	〃
シューズ部	№ 396	チャンピオン	¥1,300	河崎ラケット工業株式会社
	№ 392	ジュニア	¥ 850	〃
	№ 390	5ポイント	¥1,000	〃
	バドミントンシューズ		¥1,400	株式会社ヨネヤマラケット

◆第13回全国教育系大学大会（3月21日―25日・名古屋市体育館）

◆男子団体戦
（順位）①東学大②和歌大③福教大④北教大⑤奈教大⑥京教大⑦滋賀大⑧愛教大⑨大教大

◆女子団体戦
（順位）①大教大②福教大③北教大④東学大⑤京教大⑥滋賀大⑦和歌大⑧奈教大⑨愛教大

◆男子シニア・シングルス
▼準決勝
小田（滋）2―1中田（大）
福田（東）2―1松尾（福）
▼三位決定戦
中田 2―1 松尾
▼決勝
小田 2（15―15、12―15、15―7、15―6）1 福田

◆女子シニア・シングルス
▼準決勝
北田（東）2―0城崎（京）
能登屋（北）2―0本田（大）
▼三位決定戦
本田 2―0 三苫
▼決勝
能登屋 2（11―9、12―15、11―5）0 北田

◆男子ジュニア・シングルス
▼準決勝
秋田（北）2―0丸田（和）
森（滋）2―0片谷（奈）
▼三位決定戦
片谷 2―1 丸田
▼決勝
森 2（15―12、15―8）0 秋田

◆男子ジュニア・ダブルス
▼準決勝
中山・菊池（北）2―0宮原・佐藤愛（愛）
柏倉・佐藤（東）2―1高橋・リファイ（和）
▼三位決定戦
高橋・リファイ 2―0 宮原・佐藤
▼決勝
中山・菊池 2（15―2、15―5）0 柏倉・佐藤

◆女子ジュニア・シングルス
▼準決勝
中安（奈）2―0西田（和）
長井（和）2―0竹田（東）
▼三位決定戦
竹田 2―0 西田
▼決勝
長井 2（11―7、11―5）1 中安

◆女子ジュニア・ダブルス
▼準決勝
加藤・川島（愛）2―0川崎・高田（福）
中島・木下（福）2―0草野・西田（福）
▼三位決定戦
草野・西田 2―0 川崎・高田
▼決勝
加藤・川島 2（15―8、15―6）1 中島・木下

◆男子ダブルス
▼準決勝
久下・綿野（和）2―0福田・遠藤（東）
小田・森（滋）2―0上薗・松尾（福）
▼三位決定戦
上薗・松尾 2―1 福田・遠藤
▼決勝
小田・森 2（17―15、14―10）0 久下・綿野

◆女子ダブルス
▼準決勝
井上・泊（福）2―0本田・瀬川
能登屋・竹本（北）2―1坂野・川真田（大）
▼三位決定戦
坂野・川真田 2―1 本田・瀬川
▼決勝
能登屋・竹本 2（15―6、8―0）0 井上・泊

◆第14回岡山県春季高校選手権大会（4月18日・倉敷青陵高校・倉敷中央高校）

◆男子シングルス
▼準決勝
永井（水工）2―0塩飽（倉工）
重井（青陵）2―0橋本（天城）
▼決勝
永井 2（13―15、15―5、6―1）1 重井

◆男子ダブルス
▼準決勝
森・重井（青陵）2―0仁科・鶴沢（倉工）
那須・渡辺（水工）2―1安田・塩飽（倉工）
▼決勝
森・重井 2（15―10、11―15、9―1）1 那須・渡辺

◆女子シングルス
▼準決勝
三宅（三陽）2―0松尾（山陽）
平田（三陽）2―0多賀（中央）
▼決勝
平田 2（11―6、6―0）0 三宅

◆女子ダブルス
▼準決勝
田辺・三田（山陽）2―1平田・寺見（山陽）
松尾・三宅（山陽）2―0多賀・鎌村（中央）
▼決勝
松尾・三宅 2（15―13、13―18、4―1）1 三田・田辺

◆第14回岡山県会長杯争奪春季選手権大会（4月25日・岡山大学清水記念体育館）

◆男子シングルス
▼準決勝
三宅（成羽高教）2―0上野（三井造船）
芳上（三井造船）2―0万代（三井造船）
▼決勝
芳上 2（15―10、3―0）0 三宅

◆男子ダブルス
▼準決勝
上野・芳上（三井造船）2―1小峪・氏家（玉野）
三宅・柳本（岡山）2―1万代・田丸（三井造船）
▼決勝
三宅・柳本 2（6―15、11―15、9―1）1 上野・芳上

◆女子シングルス
▼準決勝
剛迫（クラレ）2―1岩崎（岡大）
浦口（岡鉄）2―0光畑（倉レ）
▼決勝
浦口 2（11―11、6―1）0 剛迫

◆女子ダブルス
▼準決勝
光畑・剛迫（クラレ）2―0木村・鈴木（岡山ク）
岩崎・丸山（岡大）2―1浦口・笹尾（岡山ク）
▼決勝
光畑・剛迫 2（15―10、2―15、2―0）0 岩崎・丸山

◆全九州総合選手権大会（5月8—9日・九電記念体育館）

◆青年シングルス
▼準決勝
工藤（熊本教）2—0森（福岡大）
西本（福岡大）2—0芦原（熊本教）
▼決勝
工藤 2(15—6 11)0 西本
◆男子ダブルス
▼準決勝
西本・梅本（福岡大）2—1工藤・芦原（熊本教）
春武・宮原（大分）2—0森・大東（福岡大）
▼決勝
宮原 春武 2(15—11 11)0 西本 梅本
◆一般女子シングルス
▼準決勝
柿本（長崎）2—0美並（熊本）
徳永（長崎）2—0堤（福岡）
▼決勝
柿本 2(11—11 7—1)0 徳永
◆一般女子ダブルス
▼準決勝
柿本・引地（長崎）2—0井上・泊（福岡）
堤・白石（福岡）2—0宮山千・宮山昌（福岡）
▼決勝
柿本 引地 2(15—11 12—1)0 堤 白石
◆少年シングルス
▼準決勝
江口（熊本）2—0田中（熊本）
中山（福岡）2—1中山（熊本）
▼決勝
江口 2(15—6 15—3)0 中山
◆少年ダブルス
▼準決勝
国崎・田中（熊本）2—0緒方・吉浦（福岡）
江口・中山（熊本）2—0中山・田中（福岡）
▼決勝
国崎 田中 2(15—9 8—15 15—12)1 江口 中山
◆少女シングルス
▼準決勝
村瀬（大分）2—0渡辺（熊本）
松尾（福岡）2—0村田（熊本）
▼決勝
松尾 2(12—11 11—5)0 村瀬
◆少女ダブルス
▼準決勝
後藤妙・後藤早（熊本）2—1的野・伊藤（福岡）
松尾・森山（福岡）2—0村田・村上（熊本）
▼決勝
松尾 山2(15—3 15—6)0 後藤妙 森 後藤早
◆成年シングルス（30）
▼準決勝
西田（熊本）2—0宮本（福岡）
南（熊本）2—0田中（大分）
▼決勝
西田 2(12—15 18—15 16—10)1 南
◆成年ダブルス（30）
▼一回戦
細川・宮本（福岡）2—0吉田・北田（福岡）
▼決勝
南 西田 2(15—5 10—15)0 細川 宮本
◆壮年シングルス（40）
▼準決勝
松崎（熊本）2—0古賀（福岡）
本郷（熊本）2—0弥吉（福岡）
▼決勝
松崎 2(15—3 15—10)0 本郷
◆壮年ダブルス（40）
▼一回戦
本郷・松崎（熊本）2—0伊藤・山崎（福岡）
▼決勝
本郷 松崎 2(15—3 10—3)0 弥吉 古賀
◆老年シングルス（50）
▼一回戦
中野（大分）2—1田口（福岡）
▼決勝
伊藤 2(15—10)0 中野
◆老年ダブルス（50）
▼一回戦
伊藤・平崎 キケン（焦本）田口・宮山（福岡）
▼決勝
伊藤・平崎 キケン 中野・田中
◆混合ダブルス
▼決勝
田中 蒲池（大分）2(15—5 14)0 徳永 吉加江（宮崎）
◆昭和45年度岡山県高校新人大会（2月6—7日・津山南高 美作高体育館）
◆男子団体戦
▼準決勝
倉敷工 3—1天城
水島工 3—1備南
▼決勝
水島工 3—2倉敷工
◆女子団体戦
▼準決勝
山陽女 3—0天城
倉敷中 3—0青陵
▼決勝
山陽女 3—0 倉敷中
◆男子ダブルス
▼準決勝
那須・渡辺（水島工）2—0橋本・尾熊（天城）
仁科・鶴沢（倉敷工）2—0村井・町田（備南）
▼決勝
仁科・鶴沢 2—0 那須・渡辺（順位）①仁科・鶴沢②那須・渡辺③橋本・尾熊、村井・町田
◆女子ダブルス
▼準決勝
林・平田（山陽）2—0多賀・鎌村（倉敷中）
田辺・三田（山陽）2—1松尾・三宅（山陽）
▼決勝
林・平田 2—0 田辺・三田（順位）①林・平田②田辺・三田③多賀・鎌村、松尾・三宅
◆女子シングルス
▼準決勝
林（山陽）2—0多賀（倉整中）
三宅（山陽）2—0平田（山陽）
▼決勝
林 2—0 三宅（順位）①林②三宅③多賀、平田
◆都高校春季大会兼関東大会予選会（4月25日—5月2日・日大鶴ヶ丘他）
◆男子一部 ①日大鶴ヶ丘②堀

RECORD

越③聖学院④都小石川⑤早大学院⑥都中野工

◆男子二部 ①都第三商②麻布③高輪④都四商⑤都武蔵⑥都九段

◆男子三部 ①国東京学芸大付②都三鷹③都南葛飾④都杉並工業⑤都両国⑥都国立⑦都鷺宮⑧都小山台

◆男子四部 ①桐朋②都町田③日大桜丘④都立川

◆女子一部 ①巣鴨女商②桐朋女子③二階堂④トキワ松⑤女子聖学⑥十文字

◆女子二部 千代田女学②都第三商③淑徳学④都竹早⑤都南葛⑥東京女学館

◆女子三部 ①村田女商②都小石川③都池袋商④慶応女⑤蒲田女⑥東京成徳⑦都鷺ノ宮⑧東京立正

◆女子四部 ①日大鶴ヶ丘②都町田③日体桜華③都向島商

◆関東大会第4位出場決定戦

（5月2日・成蹊）

◆男子 ▼準決勝

桐朋（四部1位） 2―0 都小石川（一部4位）

都三商（二部1位） 2―0 国学大付属（三部1位）

▼決勝

都三商 2―1 桐朋

◆女子 ▼準決勝

トキワ松（一部4位） 2―0 日大鶴ヶ丘（四部1位）

千代田（二部1位） 2―0 村田女商（三部1位）

▼決勝

トキワ松 2―0 千代田

◆関東学生春季リーグ戦（5月7日～16日、目黒体育館）

◆男子一部

▼第一日

中 大 6（複4―2―1―2―3） 日体大

法 大 8（単5―1―3―0―1） 1日 大

早 大 7（単5―1―1―2―2） 関学大

▼第二日

中 大 7（単5―1―1―2―2） 関学大

法 大 5（単3―3―2―1―4） 日体大

早 大 7（単5―1―1―2―2） 日 大

▼第三日

中 大 6（単4―2―1―2―3） 日 大

法 大 7（単5―1―1―2―2） 早 大

日体大 9（単6―0―0―0―0） 関学大

▼第四日

中 大 5（単2―4―0―3―4） 早 大

法 大 9（単6―0―0―0―0） 関学大

日体大 4（単2―4―2―1―5） 日 大

▼第五日

中 大 2（複2―2―0―3―5） 法 大

早 大 2（単1―1―3―2―5） 日体大

日 大 5（単3―0―0―2―0） 関学大

◆男子二部

▼第一日

青学大 7（複4―0―3―0―2） 明 大

慶 大 4（単3―3―1―2―5） 明 大

千葉大 8（単6―0―2―1―0） 神 大

▼第二日

青学大 9（単6―0―3―0―0） 神 大

慶 大 4（単3―3―1―2―5） 明 大

千葉大 4（単3―3―1―2―5） 立 大

▼第三日

青学大 7（単4―0―3―0―2） 立 大

慶 大 4（単2―4―2―1―5） 千葉大

明 大 7（単4―2―3―0―2） 神 大

▼第四日

青学大 7（単4―2―3―0―2） 千葉大

慶 大 7（単4―0―3―0―2） 神 大

明 大 3（単2―4―1―2―6） 立 大

▼第五日

青学大 5（単3―0―2―0―0） 慶 大

千葉大 1（単0―3―1―2―5） 明 大

立 大 5（単3―0―2―1―1） 神 大

【順位】

▼男子一部

①法大5勝0敗 ②中大4勝1敗 ③日体大2勝3敗（ポイント数25） ④早大2勝3敗（ポイント数22） ⑤日大2勝3敗（ポイント数16） ⑥関学大0勝5敗）

▼男子二部

①青学大5勝0敗 ②立大4勝1敗 ③明大3勝2敗 ④千葉大2勝3敗 ⑤慶大1勝4敗 ⑥神大0勝5敗

▼男子三部

①大東文大5勝0敗 ②成蹊大4勝1敗 ③東大3勝2敗 ④明学大2勝3敗 ⑤東海大1勝4敗 ⑥一橋大0勝5敗

▼男子四部

①東学大5勝0敗 ②電大4勝1敗 ③都立大3勝2敗 ④山梨大2勝3敗 ⑤専修大1勝4敗 ⑥東工大0勝5敗

▼男子五部

①東経大5勝0敗 ②東理大4勝1敗 ③学習院大3勝2敗 ④独協大1勝4敗（ポイント数20セット数47） ⑤国学院大学1勝4敗（ポイント数20セット数46） ⑥国士舘大1勝4敗（ポイント数17）

▼男子六部

①高経大5勝0敗 ②横市大4勝1敗 ③成城大3勝2敗 ④武蔵大2勝3敗 ⑤横国大1勝4敗 ⑥東農工大0勝5敗

▼男子七部

①埼玉大5勝0敗 ②武工大4勝1敗 ③東洋大3勝2敗 ④玉川大1勝4敗（ポイント数21） ⑤宇都宮大1勝4敗（ポイント数18） ⑥都留文大1勝4敗（ポイント数12）

▼男子八部

①足利工大5勝0敗 ②明星大4勝1敗 ③電機大Ⅱ3勝2敗 ④東農大2勝3敗 ⑤富士短大1勝4敗 ⑥立正大0勝5敗

◆女子一部

▼第一日

青学大 2（単1―1―2―1―3） 東女体大

日女体大 5（単3―0―0―2―0） 0 昭女大

日体大 5（単3―0―0―2―0） 0 千葉大

▼第二日

青学大 5(単3—0 複2—0 0)0 千葉大
日女体大 4(単3—0 複1—1 0)1 東女体大
日体大 5(単3—0 複2—0 0)0 昭女大

▼第三日

青学大 5(単3—0 複2—0 0)0 昭女大
日女体大 2(単1—1 複1—1 2)3 日体大
東女体大 5(単3—0 複2—0 0)0 千葉大

▼第四日

青学大 2(単1—1 複1—1 2)3 日体大
日女体大 5(単3—0 複2—0 0)0 千葉大
東女体大 5(単3—0 複2—0 0)0 昭女大

▼第五日

青学大 2(単1—1 複1—1 2)3 日女体大
日体大 3(単2—0 複1—1 0)1 東女体大
昭女大 2(単1—1 複1—1 2)3 千葉大

◆女子二部

▼第一日

東学大 3(単2—1 複1—1 2)2 国士館大
杉野女大 5(単3—0 複2—0 0)0 横国大

▼第二日

慶大 4(単2—0 複2—1 1)1 明学大
東学大 3(単2—1 複1—1 2)2 明学大
杉野女大 3(単2—1 複1—1 2)2 国士館大
慶大 3(単2—1 複1—1 2)2 横国大

▼第三日

東学大 5(単3—0 複2—0 0)0 横国大
杉野女大 4(単3—0 複1—1 0)1 慶大
国士館大 3(単2—1 複1—1 2)2 明学大

▼第四日

東学大 3(単2—1 複1—1 2)2 慶大
杉野女大 4(単3—0 複1—1 0)1 明学大
国士館大 3(単2—1 複1—1 2)2 横国大

▼第五日

東学大 0(単0—2 複0—1 0)3 杉野女大
慶大 3(単1—1 複2—0 1)1 国士館大
横国大 1(単1—1 複0—2 1)3 明学大

【順位】

▼女子一部

①日体大5勝0敗 ②日女体大4勝1敗 ③東女体大3勝2敗 ④青学大2勝3敗 ⑤千葉大1勝4敗 ⑥昭女大0勝5敗

▼女子二部

①杉野女大5勝0敗 ②東学大4勝1敗 ③慶大3勝2敗 ④国士館大2勝3敗 ⑤明学大1勝4敗 ⑥横国大0勝5敗

▼女子三部

①成城大5勝0敗 ②国学院大3勝2敗（ポイント数15セット数36） ③共立女大3勝2敗（ポイント数15セット数34） ④津田塾大2勝3敗（ポイント数13） ⑤学習院大2勝3敗（ポイント数11） ⑥日女大0勝5敗

▼女子四部

①独協大4勝1敗（ポイント数16） ②早稲田大4勝1敗（ポイント数14） ③お茶の水大2勝3敗（ポイント数14） ④立大2勝3敗（ポイント12数） ⑤成蹊大2勝3敗（ポイント数11） ⑥関学女短大1勝4敗

▼女子五部

①玉川大4勝1敗 ②東女大4勝1敗 ③埼玉大3勝2敗 ④明大3勝2敗 ⑤大東大1勝4敗 ⑥東理大0勝5敗

▼女子六部

①大妻女大4勝1敗（ポイント数17） ②東経大4勝1敗（ポイント数16） ③武蔵大3勝2敗 ④都留文科大2勝3敗（ポイント数14） ⑤文京女短大2勝3敗（ポイント数11） ⑥明星大0勝0敗

▼女子七部

①東立大3勝1敗（ポイント数13） ②家政大3勝1敗（ポイント数11） ③群馬大2勝2敗（ポイント数11） ④東洋大2勝2敗（ポイント数11） ⑤富士短大0勝4敗 ⑥山梨大不参加

◆第25回大阪府民体育祭（高校の部）**兼昭和46年度全国高校総合体育大会大阪府予選会**

（4月25日、5月1、2、9日、6月5日・大阪府立体育会利館他）

◆男子団体

▼準決勝

茨木高 3—2 泉尾高
佐野工高 3—2 布施工高

▼三位決定戦

布施工高 3—2 泉尾高

▼決勝

茨木高 3—0 佐野工高

◆女子団体

▼準決勝

四条畷学高 3—0 池田高
堺商高 3—2 薫英高

▼三位決定戦

薫英高 3—1 池田高

▼決勝

四条畷学高 3—0 堺商高

◆男子ダブルス

▼準決勝

植田、上田（佐工） 2—0 瀬良、高池（布工）
朝倉、太田（茨） 2—0 衣川、稲城（泉）

▼三位決定戦

衣川、稲城 2—0 瀬良、高池

▼決勝

植田、上田 2—1 朝倉、太田

◆男子シングルス

▼準決勝

瀬良（布工） 2—0 仲尾（港）
井上（市） 2—0 衣川（泉）

▼三位決定戦

仲尾 2—0 衣川

▼決勝

瀬良 2—0 井上

◆女子ダブルス

▼準決勝

西尾、秋本八（四） 2—0 高田、諸橋（四）
秋本幸、徳田（四） 2—0 仲村、和田（堺商）

▼三位決定戦

高田、諸橋 2—0 仲村、和田

▼決勝

西尾、秋本八 2—0 秋本幸、徳田

◆女子シングルス

▼準決勝

西尾（四） 2—0 徳田（四）
秋本八（四） 2—0 秋本幸（四）

▼三位決定戦

秋本幸 2—1 徳田

▼決勝

西尾 2—1 秋本八

◆第33回東海大学、第19回愛知学生選手権大会（5月22―29日・名古屋市体育館）

◆男子団体

▼一部

（順位）①名商大②名城大③中京大④名大⑤南山大⑥愛教大

▼二部

（順位）①愛工大②名工大③愛県大④名学大⑤愛知大⑥日福大⑦愛学大

▼三部

（順位）①三重大②静岡大③岐阜大④滋賀大⑤名市大

◆女子団体

▼一部

（順位）①名女大②愛教大③南山大④市邨大⑤椙山大⑥日福大

▼二部

（順位）①名城大②愛県大③金城大④名市短⑤南短大

▼三部

（順位）①東女短②静岡大③三重大④岐女短⑤滋短大⑥岐阜大

◆男子シングルス

▼準決勝

大島（名城）2―1堀（名商）

後藤（名商）2―0楠瀬（名城）

▼三位決定戦

楠瀬 2―0 堀

▼決勝

後藤 2（15―3 15―5）0 大島

◆男子ダブルス

▼準決勝

堀、後藤（名商）2―0増田、竹市（名商）

二見、天野（名商）2―1水島、渡辺（中京）

▼三位決定戦

水島、渡辺 2―1 増田、竹市

▼決勝

堀後藤 2（15―7 15―6）6 二見天野

◆女子シングルス

▼準決勝

尾藤（名女）2―0中西（南山）

鈴木（市邨）2―0飯田（名城）

▼三位決定戦

中西 2―0 飯田

▼決勝

尾藤 2（11―4 11―6）0 鈴木

◆女子ダブルス

▼準決勝

竹中、鈴木（市邨）2―1佐藤、尾藤（名女）

飯田、本倉（名城）2―0佐竹、至勢（名女）

▼三位決定戦

佐藤、尾藤 2―0 佐竹、至勢

▼決勝

竹中 鈴木 2（15―4 12―11）0 飯田 本倉

◆第14回岡山県実業団選手権兼第21回全日本実業団大会予選会（5月23日・久世中学体育館）

◆男子A級

▼準決勝

三井造船A 2―0（A）玉野SC

岡山市役所 2―0 三井造船B

▼決勝

三井造船A 2―0（A）岡山市役所

上芳野 2（15―4 15―8）0 小今東松

芳上 2（15―17 15―10）0 小松

◆男子B級

▼準決勝

三井造船D 2―0 三菱化成D

三井造船C 2―0（B）岡山市役所

▼決勝

三井造船C 2―0 三井造船D

松藤井原 2（15―11 15―12）1 若藤原松

藤原 2（15―0 15―0）0 若松

◆女子リーグ（順位）①クラレ岡山②久世体協③川崎製鉄A④川崎製鉄B⑤河本病院

◆第1回富山県社会人選手権大会（5月23日・高岡高校体育館）

◆一般男子シングルス

▼準決勝

清水（氷見高教）2―1東（日曹高岡工場）

今泉（高岡市役所）2―0宮林（高岡市役所）

▼決勝

今泉 2（キケン）0 清水

◆一般男子ダブルス

▼準決勝

高林、寺前（奥野商、日産チエリ）2―1関村、宮林（高岡市役所）

今泉、河村（高岡市役所）2―0清水、折橋（永見高教・折橋商）

▼決勝

今泉 村 2（15―11 9―0）0 高林 寺前

◆一般女子シングルス

▼準決勝

飯田（富山市役所）2―0和島（日曹高岡工場）

沢田（洋装研究所）2―0沼（沼塗装）

▼決勝

飯田 2（11―8 11―1）0 沢田

◆一般女子ダブルス

▼準決勝

飯田、沢田（富山市、洋装研）2―0佐野、川幡（礪波体協）

沼、荒俣（沼塗装、富山銀行）2―0和島、中川（日曹高岡工、双竜クラ）

▼決勝

飯田 沢田 2（15―4 15―3）0 沼荒俣

◆混合

▼準決勝

高林、飯田（奥野商、富山市役所）2―0塚原、荒俣（自営、富山銀行）

寺前、沢田（日産、洋装研）2―0東、和島（日曹高岡工）

▼決勝

高林 飯田 2（15―11 15―3）0 寺前 沢田

◆男子30才シングルス

▼決勝

桶沢（富士薬品）2（15―1 15―2）0 松本（戸出体協）

◆男子30才ダブルス

▼決勝

桶沢、松本（富士薬、戸出体）2（18―15 18―17）1 江尻、不破（自営・富山商教）

◆男子40才シングルス

▼決勝

江尻（自営）2（15―5 15―6）0 竹島（日曹高岡工）

◆男子40才ダブルス

▼決勝

竹島、高木（日曹高岡工）2（15―9 15―6）0 江尻、内多（自営・礪波工教）

◆昭和46年度全国高校総体沖縄予選（7月20、21日・那覇商体育館）

◆男子団体

▼決勝

那商 3―0 首里

宇座2(15—11)0宜志富
上原(1—9)根間
国吉2(18—15)0新垣
山城(15—6)宮里
宇座2—0根間
（那商7回連続7度目の優勝）

◆女子団体
▼決勝
那商3—1知念
棚原1(3—1)2嶺井
畑城
与那嶺2(15—6)0安次富
比花
桃原2(11—3)1嶺井
比嘉2(11—9)0宮城
（那商7回連続7度目の優勝）

◆男子シングルス
▼決勝
大原2(15—12)1宇座
（18—5—13—15）

◆男子ダブルス
▼決勝
宇座原2(15—9)0宜志富間
大（那商）
（首里）

◆女子シングルス
▼決勝
与那嶺2(11—9)0桃原
（那商）（那商）

◆女子ダブルス
▼決勝
比嘉、与那嶺（那商）優勝

◆昭和46年度全国高校総合体育大会・第22回全国高校選手権大会滋賀県第二次予選（最終予選）

◆男子学校対抗
▼決勝
部浜商工高3—2彦根工高

◆男子シングルス
▼決勝
小栗原0(3—1)2松本居
北沢田2(15—12)0神島村
戸田2(15—6)1神島
（15—5—5—15）
小野0(3—5)2松居
北沢2(15—6)1松本
（15—8—15）

◆女子学校対抗
▼決勝
草津高3—1長浜商工高

◆男子シングルス
▼決勝
西村2(18—15)1西堀
進藤(15—9—10)1富岡
辻川2(15—3)0田川
（ひと）
西村0(11—8)2田川
辻と2(11—11)0西堀
辻ひ2(11—5)1北川
（4—11）

◆男子ダブルス
▼決勝
松居、松本（彦根工）2(15—8—12)1野（石山）
（15—8—15）
伊東、数

◆女子シングルス
▼決勝
松居（彦根工）2(15—5)0北沢（長浜商工）
田中門（大津）脇2(17—14)1坂（彦根西）
（15—13—9—15）
西堀上
◆女子ダブルス
▼決勝
辻（草津）と2(11—8—8)1田（大津）
（11—8—11）
中

◆滋賀県春季総体兼全国中学生大会県予選（6月）

【男子団体】
◆第一日（能登川中）
▼準決勝 中主3—0聖徳、彦根東3—0八幡南▼決勝 中主3—0彦根東▼三決 八幡南3—0聖徳
◆第一日（瀬田中）
▼準決勝 南郷3—0打出、粟津3—0安曇川▼決勝 粟津3—1南郷▼三決 安曇川3—1打出
◆第二日（瀬田中）
▼準決勝 粟津3—0彦根東 南郷3—2中主▼決勝 南郷3—0粟津

【女子団体】
◆第一日（能登川中）
▼準決勝 彦根東3—1守山彦根南3—0甲良（注、決勝、三決は時間の都合で中止）
◆第一日（瀬田中）
▼準決勝 日吉3—0瀬田、志賀3—1粟津▼決勝 日吉3—1志賀▼三決 粟津3—2瀬田
◆第二日（瀬田中）
▼準決勝 日吉3—2粟津、瀬田3—0志賀▼決勝 日吉3—2瀬田

◆男子団体
木更津3—1京葉、千市立3—0成田農、木更津3—1成田農、千市立3—2京葉、木更津3—1千市立、京葉3—1成田農
▼順位 ①木更津②千葉市立③京葉④成田農

◆女子団体
木更津東3—0佐倉東、昭和3—0佐倉東、木更津3—1昭和、我孫子二3—2昭和、我孫子二3—1木更津東、我孫子二3—1佐倉東
▼順位 ①我孫子二階堂②木更津東③昭和学院④佐倉東
（注、一次予選でベスト4の学校のみ出場、リーグ戦）

◆男子シングルス
▼準決勝
奈須（千市立）2—0鶴田（千市立）

◆千葉県高校総体最終予選（日時未着）

◆男子団体
木更津3—1京葉、千市立3—0成田農、木更津3—1成田農、千市立3—2京葉、木更津3—1千市立、京葉3—1成田農
▼順位 ①木更津②千葉市立③京葉④成田農

◆女子団体
木更津東3—0佐倉東、昭和3—0佐倉東、木更津3—1昭和、我孫子二3—2昭和、我孫子二3—1木更津東、我孫子二3—1佐倉東
▼順位 ①我孫子二階堂②木更津東③昭和学院④佐倉東
（注、一次予選でベスト4の学校のみ出場、リーグ戦）

◆男子シングルス
▼準決勝
佐久間・滝本（京葉）2—0高橋・後藤（成田農）
丸山・下田（木更津）2—0鶴田・兵頭（千市立）
▼決勝
佐久間本2(15—9)0丸下山田
滝18—14

◆女子シングルス
▼準決勝
山田（我孫子二）2—0平野（木更津東）
関（昭和）根2—0平野（我孫子二）
▼決勝
山田2(11—5)0関根（昭和）
▼二、三位決定
関根2(12—11)0平野（木）

◆女子ダブルス
▼準決勝
山田・平野（我孫子二）2—0関根・平野（昭和）
二瓶・佐川（昭和）2—0斉藤、平野（木更津東）
▼決勝
山田平野2(15—2)0二瓶佐川
（15—2）

◆男子ダブルス
▼準決勝
丸山（木更津）2—0吉田（木更津）
▼決勝
丸山2(15—10)3奈須
▼二、三位決定
吉田2(15—4)4奈須

◆男子ダブルス
▼準決勝
佐久間・滝本（京葉）2—0高橋・後藤（成田農）
丸山・下田（木更津）2—0鶴田・兵頭（千市立）
▼決勝
佐久間本2(15—9)0丸下山田
滝18—14

◆女子シングルス
▼準決勝
山田（我孫子二）2—0平野（木更津東）
関（昭和）根2—0平野（我孫子二）
▼決勝
山田2(11—5)0関根（昭和）
▼二、三位決定
関根2(12—11)0平野（木）

◆女子ダブルス
▼準決勝
山田・平野（我孫子二）2—0関根・平野（昭和）
二瓶・佐川（昭和）2—0斉藤、平野（木更津東）
▼決勝
山田平野2(15—2)0二瓶佐川
（15—2）

沖縄の仲間に善意の用具援助を

一月号の第一ページにもあるように、本誌では、いま沖縄の仲間に用具などの援助をしようと、キャンペーンを行なっております。

創刊以来、本誌をご愛読の皆さんには、すでにおわかりのことと思いますが、沖縄ではいまだに用具難の上、値段も高い（沖縄は円ではなくドルが流通貨幣です）。

七二年春には、沖縄も本土に復帰、翌七三年五月には、本土から12競技の代表を集めて盛大な〝記念スポーツ祭〟が開かれますが、これをめざしての練習も充分にできない状態です。

こうしたことから本誌では沖縄の仲間に、本土の仲間からの善意を贈り、少しでも発展のお役に立てば、ということで、毎号の紙面を通じて、皆さんに呼びかけているわけです。

日本バドミントン協会も、本誌の趣旨に賛同、さる七月の全国総会で、協力することを決めました。

すでに、全国の有志や愛読者、学連関係から、つぎつぎに金品が寄託されていますが、さらに、今後とも一般愛読者の方々からの寄贈をお待ちしております。

ラケット、シャトルをはじめ用具類なら、なんでもけっこうですし、これに代わる現金、手紙等も喜んでお受けいたしますので、よろしく。

ご厚志を寄せられた方々の氏名は、近く本誌上に発表いたします。

ちなみに、体操界では、やはり同じような事情から、日本協会、学連、メーカー、会員、一般愛好者が協力して、体操用具一式を今春、沖縄協会に寄贈しています。

投稿、寄稿を歓迎
愛読者の皆さんにお願い

各県協会、実業団、教職員、学生各連盟および各地方支部、チーム、クラブ、一般愛読者の皆さんの原稿をお待ちしています。

みなさんの団体であったこと、みなさん自身が見たり聞いたりしたことで、ためになる話、感激した話、反省しなければいけないと思った話、明るい話題、自分たちの活動の報告、疑問、質問、お知らせ、ニュースなど、なんでもけっこうです。

あるいは「くわしくはしらないが、こんな話を聞いた」という情報の提供、新聞、雑誌の切り抜きのようなものも歓迎いたします。

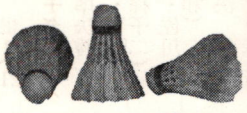
さらに、写真もの（原稿にもできれば写真を付けて下さい）などもうれしい限りです。

従って、内容や長さには制限ありませんが、連絡のつごう上住所、氏名は明記して下さい。ただし、誌上の匿名はかまいません。

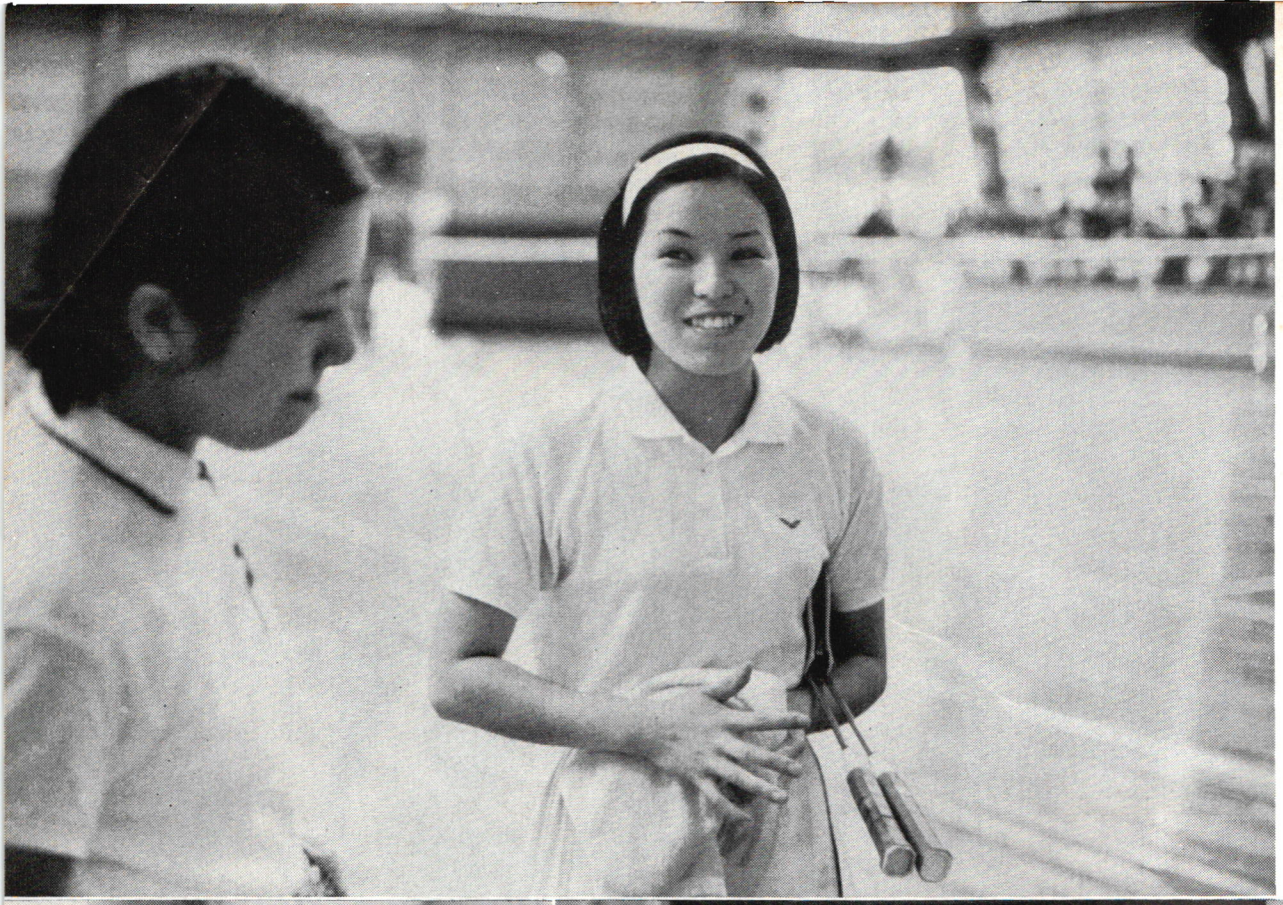
本誌を本当の意味で、全国の愛好者のものにするため、ぜひご協力をお願いします。

【バドミントン界】第22、23号
昭和46年6月25日 印刷
昭和46年7月1日 発行
編集兼発行人 川端 昇市
発行所 東京都渋谷区神南一の一の一
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
電話 四六七・三一一一（内線）二五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所 東京都中央区八丁堀二の八の二
有限会社 和田印刷所
特別定価 一部 二百円

水鳥 検定合格球
ファストゴールド
ファストシルバー

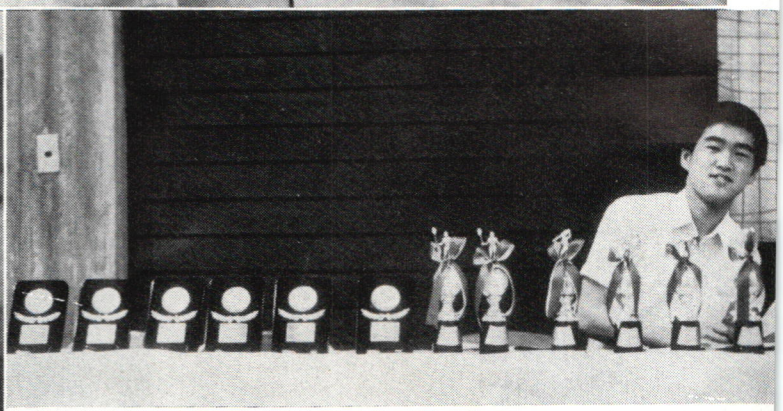

ファスト印シャトル
コック製造発売元
有限会社 ジャワ商会
山形市六日町7-28
電話 02362（22）3994(代) 3280・0545

熱戦を終わって



◀にっこりの陣内(右)堀川組





◀ファイト満々、選手(大)　賞品はだれにいくのかな

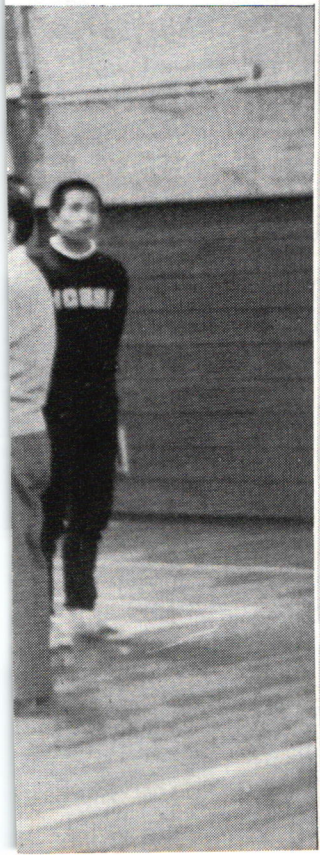


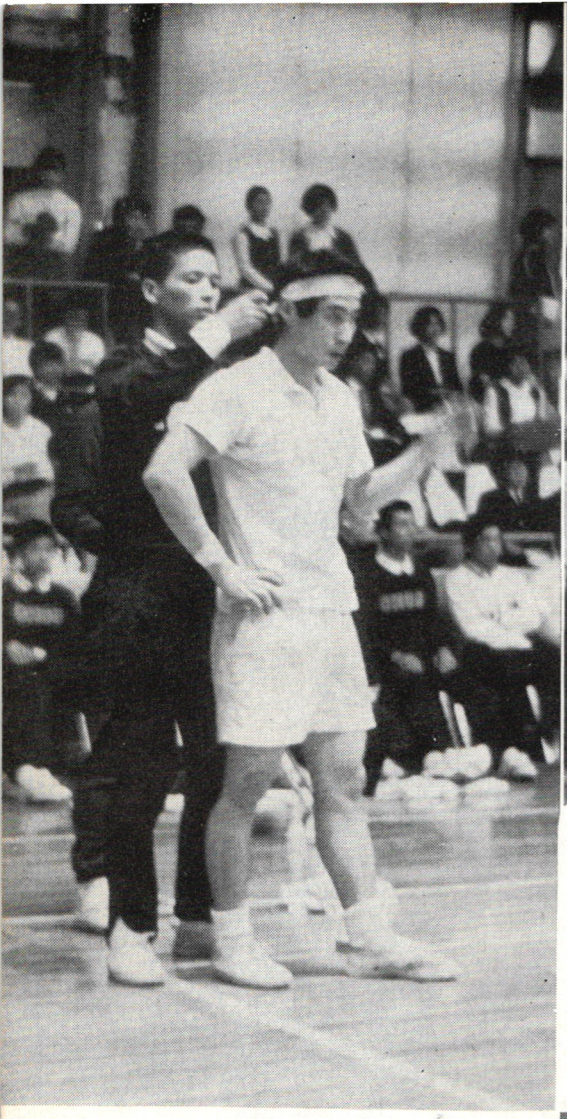




いに

東学生選手権から）



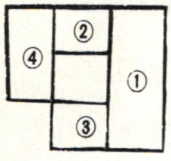




学生ムードがいっぱ

（関東学生リー



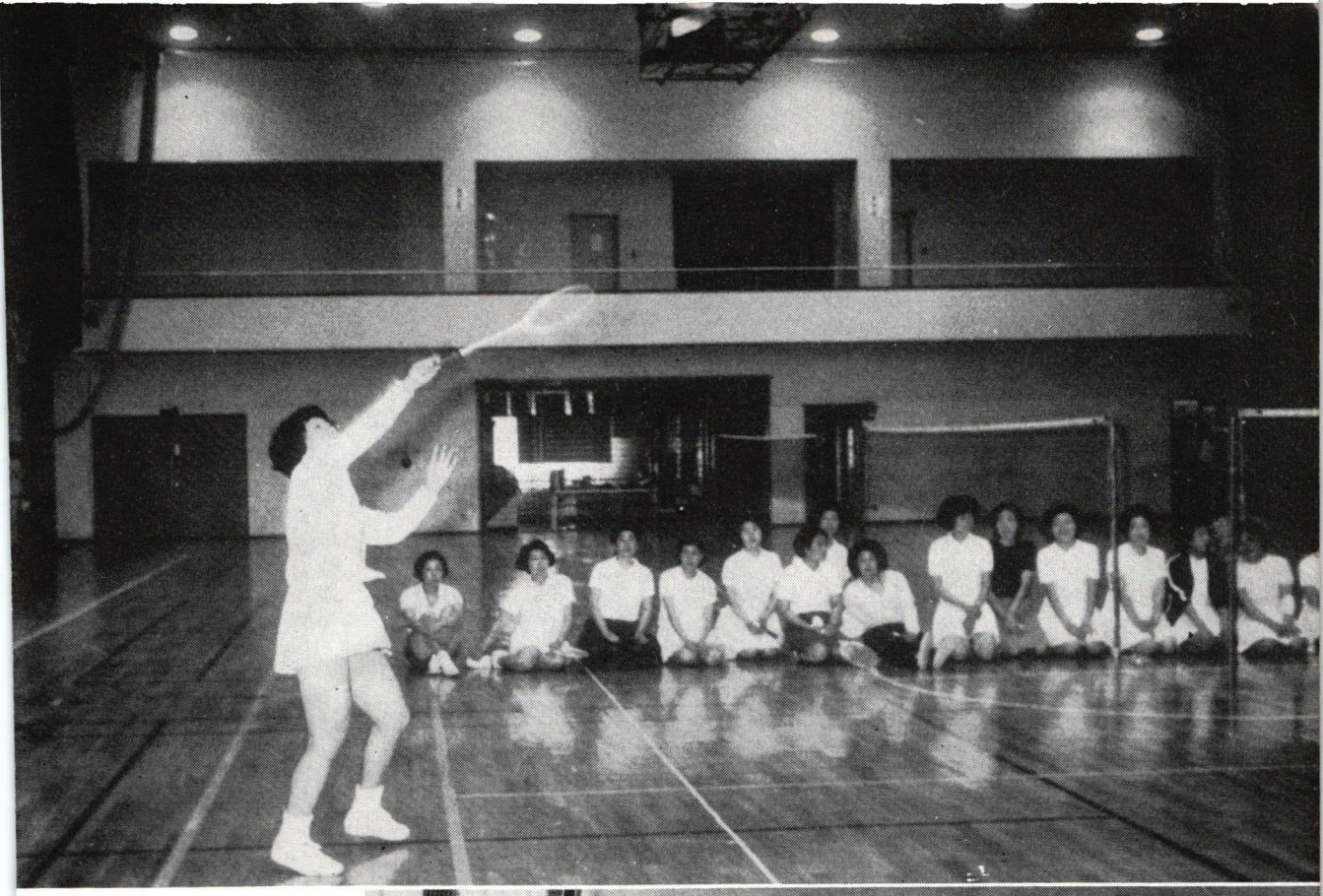


学生ムードがいっぱい

学生の試合がおもしろいといわれる理由の一つは、独特の熱っぽい、まじめなムードがあるためだ。高校生のように、子供っぽくはないが、やはり〝母校〟を背負った気負いがある。ことに男子に――そう思って、それらしき写真を拾いあぜてみた。写っているのがどこの大学であっても、おそらく、ちがいはないはずだ。

①ありがとうございました。ごくろうさん――勝者も敗者もベストをつくした気持ちであいさつする。なかに一人、二人、がっくり肩を落した選手もいるが…②フレーッ、フレーッ××大。エールルも声高く③しっかりせよと抱きおこし、じゃない、訓示する監督さん④下級生にハチマキなど締め直してもらって、よし、もらいっちょう。

カメラ・中田正彦

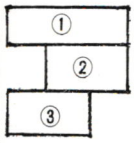


ママさん はりきる

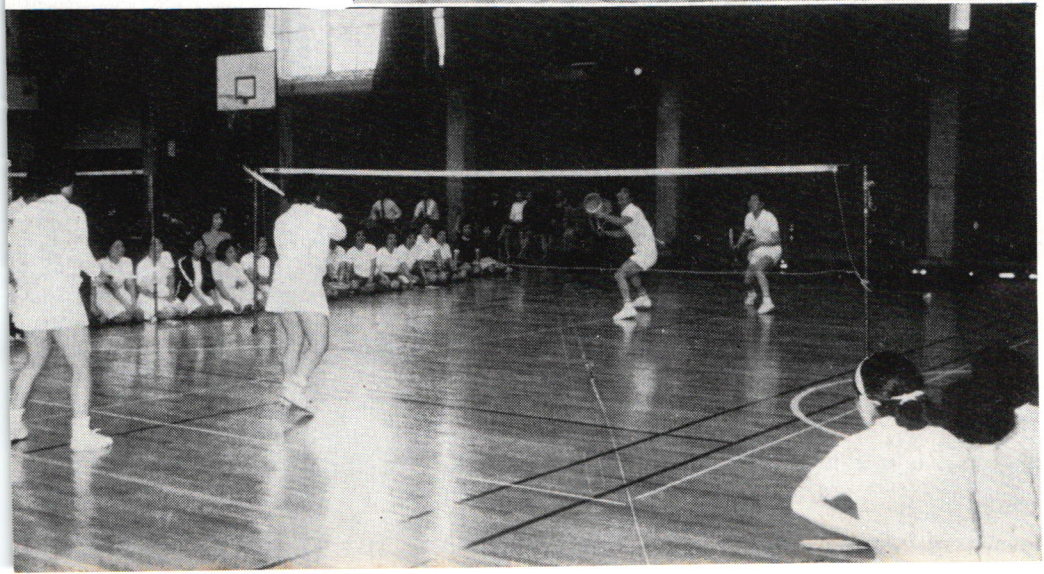
（東京・三鷹のクラブ）



本号〝北から南から〟にあるように東京・三鷹のママさんクラブに湯木選手が訪れ、一日コーチした。まずはママさん方の真剣で楽しそうな表情を、ごらん下さい。



①湯木さんの横段プレー
②記念撮影
③ダブルス模範試合　模範




ブルーリースを敵にまわすな！
K
TOKYO
kawasaki
racket
東京都台東区台東2－28－5
電話 東京(03)831－1884・0453

月刊「バドミントン界」第2・3号　昭和四十六年七月一日発行（毎月一回一日発行）



新しい現代を生きるあなたに
20年の歴史を誇る〔サンバタ陸鳥検定球〕

陸鳥球は全国中学校大会使用球に決定しました。

サンバタ